

治山事業

設計積算要綱

平成28年10月1日

関東森林管理局

制定改訂の経過

目 次

治山事業設計積算要綱

第 1 趣 旨	要 1 - 1
第 2 設計に関する基本的事項	要 1 - 2

第1編 共通工編

第1 土工

1 - 1 - 1 土質の分類	共 1 - 1
1 - 1 - 2 土量変化率	共 1 - 2
1 - 2 伐開・除根	共 1 - 2
1 - 3 人力土工（土砂）	(治山林道必携)
1 - 4 機械土工（土砂）	共 1 - 3
1 - 5 埋戻工	(治山林道必携)
1 - 6 クラムシェル掘削	(〃)
1 - 7 機械土工（岩石）	(〃)
1 - 8 転石破碎工	(〃)
1 - 9 ホイールローダ掘削積込み	(〃)
1 - 10 盛土	(〃)
1 - 11- 1 盛土（ブルドーザ敷均し）（狭幅）	(〃)
1 - 11- 2 振動ローラ締固め（狭幅）	(〃)
1 - 12 小規模土工	共 1 - 5
1 - 13- 1 安定処理工	(治山林道必携)
1 - 13- 2 安定処理工（バックホウ混合）	(〃)
1 - 14 機械法面整形	(〃)
1 - 15 人力法面整形	(〃)
1 - 16 構造物取りこわし工	
1 - 16- 1 コンクリート構造物取りこわし工	共 1 - 6
1 - 16- 2 (参考歩掛) 吹付法面とりこわし工	(治山林道必携)
1 - 17 (参考歩掛) 骨材再生工（自走式）	(〃)
1 - 18 残土運搬処理工	共 1 - 6

第2 運搬工

2 - 1 人力運搬	
2 - 1 - 1 人肩運搬歩掛	共 2 - 1
2 - 1 - 2 小車運搬歩掛	(治山林道必携)
2 - 2 テーラー運搬歩掛	共 2 - 2
2 - 3 不整地運搬車運搬	
2 - 3 - 1 小型不整地運搬車運搬	共 2 - 3
2 - 3 - 2 不整地運搬車運搬	共 2 - 3
2 - 4 ベルトコンベア運搬	共 2 - 3
2 - 5 モノレール運搬	(治山林道必携)
2 - 6 (参考歩掛) タワー運搬	(〃)
2 - 7 ケーブルクレーン運搬	

<u>(1) ケーブルクレーンの設計</u>	共 2 - 4
<u>(2) ケーブルクレーン型式決定方法</u>	共 2 - 4
<u>(3) 機械小屋架設撤去</u>	共 2 - 5
<u>(4) アンカー架設・撤去歩掛</u>	共 2 - 5
<u>(5) ケーブルクレーン(複胴開放式)架設・撤去歩掛</u>	共 2 - 7
<u>(6) 積卸し時間、ロープスピード及び運搬回数</u>	共 2 - 9
<u>(7) 設計荷重及び索の決定早見表</u>	共 2 - 9
<u>(8) 運搬量表(その他資材)</u>	共 2 - 1 3
<u>(9) コンクリート運搬量</u>	共 2 - 1 8

2 - 8 ダンプトラック運搬	共 2 - 2 0
2 - 9 貨物自動車運搬	
2 - 9 - 1 貨物自動車の運賃料金	共 2 - 2 1
2 - 9 - 2 貨物自動車標準積載量	共 2 - 2 1
2 - 9 - 3 トラックミキサー(アジテータトラック)運搬	共 2 - 2 2
2 - 10 ヘリコプターによる資材運搬	共 2 - 2 4

第3 コンクリート工

3 - 1 コンクリート工

3 - 1 - 1 適用範囲	(治山林道必携)
3 - 1 - 2 コンクリート打設工法の選定	(〃)
3 - 1 - 3 材料の使用量	(〃)
3 - 1 - 4 無筋・鉄筋構造物コンクリートポンプ車打設	(〃)
3 - 1 - 5 無筋・鉄筋構造物人力打設	(〃)
3 - 1 - 6 小型構造物クレーン車打設	(〃)
3 - 1 - 7 小型構造物人力打設	(〃)
3 - 1 - 8 養生工	(〃)
3 - 1 - 9 養生工(特殊養生)	共 3 - 1
3 - 1 - 1 0 鉄筋工	(治山林道必携)
3 - 1 - 1 1 型枠工	(〃)
3 - 1 - 1 2 足場・支保工	(〃)
3 - 1 - 1 3 単価表	(〃)

3 - 2 型枠工	(〃)
3 - 3 モルタル練	(〃)
3 - 4 鉄筋工	(〃)

第4 共通工(1)(溝渠工・法枠工等)

4 - 1 溝渠工(水路工)

4 - 1 - 1 適用範囲	共 4 - 1
----------------	---------

4-1-2	施工概要	(治山林道必携)
4-1-3	機種の選定	(〃)
4-1-4	L型側溝	(〃)
4-1-5	ヒューム管	共4-1
4-1-6	ボックスカルバート	(治山林道必携)
4-1-7	集水柵	(〃)
4-1-8	コルゲートパイプ	(〃)
4-1-9	暗渠排水管（硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管）	(〃)
4-1-10	コルゲートフリューム	(〃)
4-1-11	鉄筋コンクリート台付管	(〃)
4-1-12	単価表	(〃)
4-2	法面工	(〃)
4-3	モルタル・コンクリート吹付工		
4-3-1	留意事項	(治山林道必携)
4-3-2	モルタル吹付工	(〃)
4-3-3	コンクリート吹付工	(〃)
4-3-4	特殊配合モルタル吹付工A	(〃)
4-3-5	特殊配合モルタル吹付工B	(〃)
4-3-6	<u>特殊配合モルタル吹付工C</u>	共4-2
4-4	植生基材吹付工		
4-4-1	植生基材吹付工・特殊植生基材吹付工	共4-4
4-4-2	客土吹付工・特殊植生基材客土吹付工	(治山林道必携)
4-4-3	客土吹付特殊工	(〃)
4-5	<u>種子吹付工</u>	共4-5
4-6	種生ネット工	(治山林道必携)
4-7	植生工	(〃)
4-8	(参考歩掛)斜面安定工	(〃)

第5 共通工(2) (土留工・擁壁工等)

5-1	石材及び骨材の分類〔参考〕	(治山林道必携)
5-2	石材採取歩掛	(〃)
5-3	骨材等採取及び洗浄歩掛	(〃)
5-4	巨石・コンクリートブロック積(張)工		
5-4-1	巨石積(張)工	(治山林道必携)
5-4-2	(1) コンクリートブロック積工	共5-1
	(2) コンクリートブロック張工	共5-2
	<u>(3) 板状排水材取付け歩掛(石積、ブロック積用)</u>	共5-3
	<u>(4) 脳木基礎工歩掛</u>	共5-3
5-5	基礎・裏込工		
5-5-1	基礎・裏込碎石工(機械施工)	(治山林道必携)
5-5-2	基礎・裏込栗石工(機械施工)	(〃)

5-5-3	基礎・裏込・中詰（碎石・栗石）工（人力施工）	共 5-3
5-6	鉄筋コンクリート片法枠工歩掛	(治山林道必携)
5-7	鋼製枠工歩掛	(〃)
5-8	鋼製落石防止柵・壁組立て歩掛	(〃)
5-9	落石防護柵工	
5-9-1	落石防護柵（ストーンガード）設置工	(治山林道必携)
5-9-2	落石防止網（ロックネット）設置工	(〃)
5-9-3	鋼製落石防止柵工（直立式）	共 5-4
5-9-4	固定工（ロープ伏工）	(治山林道必携)
5-9-5	高エネルギー吸収柵工	(〃)
5-10	井桁ブロック土留工歩掛	(〃)
5-11	エキスピンドメタル擁壁工	(〃)
5-12	L型プレキャスト擁壁工	(治山林道必携)
5-13	擁壁工（補強土壁工）	(〃)
5-14	（参考歩掛）ジオテキスタイル工	(〃)
<u>5-15</u>	<u>コンクリート板土留工</u>	共 5-5
5-16	鋼製編柵（エキスピンドメタル編柵）工	(治山林道必携)
5-17	（参考歩掛）簡易鋼製擁壁工	(〃)
5-18	かご工（B）	(〃)
5-19	かご枠工	(〃)
5-20	大型ふとんかご工	(〃)
5-21	（参考歩掛）石積（張）工	
5-21-1	空石積工歩掛	(治山林道必携)
5-21-2	練石積工歩掛	共 5-6
5-21-3	空石張工歩掛	(治山林道必携)
5-21-4	練石張工歩掛	(〃)
5-22	（参考歩掛）目地・止水板設置工	(〃)
5-23	名板取付	共 5-7

第 6 基礎工

6-1	杭打工	(治山林道必携)
-----	-----	----------

第 7 木材利用工

7-1 土留工・擁壁工

7-1-1	丸太積土留工（A）	共 7-1
7-1-2-1	〃（B）	(治山林道必携)
<u>7-1-2-2</u>	<u>〃（C）</u>	共 7-2
7-1-3	木製ブロック積工	(治山林道必携)
7-1-4	L型木製土留工	(〃)
7-1-5	木製井桁積工	(〃)

7-1-6	(参考歩掛) 木製校倉式土留工	(治山林道必携)
7-2	法面保護工		
7-2-1	丸太法枠工 (A)	(治山林道必携)
7-2-2-1	" (B)	(")
<u>7-2-2-2</u>	" (C)	共 7-3
7-2-3	木製軽量法枠工	(治山林道必携)
7-2-4	(参考歩掛) 丸太伏工	(")
7-2-5	法尻保護工	(")
7-3	柵工		
7-3-1	木柵工 (A)	(治山林道必携)
7-3-2	" (B)	(")
7-3-3	" (C)	(")
7-3-4	" (D)	(")
7-3-5	" (E)	(")
7-3-6	帶梢編柵工	(")
7-3-7	ネット柵工 (金網柵工)	(")
7-3-8	編柵工	(")
7-3-9	木柵工	(")
7-3-10	パネル柵工	(")
<u>7-3-11</u>	板柵工	共 7-6
<u>7-3-12</u>	鋼製柵工 (ソイルフェンス)	共 7-6
<u>7-3-13</u>	樹脂網柵工 (ソイルコ)	共 7-6
<u>7-3-14</u>	鋼板柵工 (GHSプレート)	共 7-6
<u>7-3-15</u>	丸太柵工	共 7-7
7-4	筋工		
7-4-1①	丸太筋工	(治山林道必携)
<u>7-4-1②</u>	丸太筋工(A)	共 7-8
<u>7-4-1③</u>	丸太筋工(B)	共 7-9
<u>7-4-1④</u>	丸太筋工(C)	共 7-9
7-4-2	木製筋工	(治山林道必携)
7-5	防風工	(")
7-6	静砂工・堆砂工	(")
7-7	路面・路盤工	(")
7-8	排水施設	(")
7-9	標識工	(")
7-10	型枠工	(")
7-11	歩道工	(")
7-12	木製治山ダム工	(")
7-13	落石防護工	(")
7-14	木材チップ化	(")

第8 仮 設 工

8-1 仮設工	(治山林道必携)
8-2 土のう締切工	共8-1
8-3 土俵、石俵拵及び積立	(治山林道必携)
8-4 水替工	
<u>8-4-1 水替工</u>	共8-2
8-4-2 水替工(小口径)	(治山林道必携)
8-5 足場工	(〃)
8-6 キャットウォーク	共8-4
8-7 支保工	(治山林道必携)
8-8-1 仮囲い設置・撤去工	(〃)
8-8-2 雪寒仮囲い工	(〃)
8-9 大型土のう工	(〃)
8-10 敷鉄板設置・撤去工	(〃)
8-11 鋼矢板(H形鋼)工(パイプロハンマ工・油圧圧入引抜工)	(〃)
8-12 鋼矢板工(アースオーガ併用圧入工)	(〃)
8-13 鋼矢板(H形鋼)工(クレーン引抜工)	(〃)
8-14 仮設材設置撤去工	(〃)
8-15 仮橋・仮桟橋工	(〃)
8-16 切土及び発破防護柵工	(〃)
8-17 掘削(発破)防護柵工	(〃)
8-18 法面工(仮設用モルタル吹付工)	(〃)
<u>8-19 ロープ足場</u>	共8-5
<u>8-20 落石防護柵(A)</u>	共8-5
<u>8-21 落石防護柵(B)</u>	共8-6
<u>8-22 斜面落石防護網(A)</u>	共8-6
<u>8-23 斜面落石防護網(B)</u>	共8-6
<u>8-24 頭上防護柵(A)</u>	共8-7
<u>8-25 頭上防護柵(B)</u>	共8-7
<u>8-26 防護ネット</u>	共8-8
<u>8-27 防護柵(木柵ネット張り)</u>	共8-9
<u>8-28 路面散水</u>	共8-10
<u>8-29 盤台施設</u>	共8-10
<u>8-30 歩道作設及び補修歩掛</u>	共8-10
<u>8-31 作業道(自動車道)作設</u>	共8-11
<u>8-32 治山事業標示板</u>	共8-11

第9 市場単価

9-1	鉄筋工（太径鉄筋を含む）	(治山林道必携)
9-2	鉄筋工（ガス圧接）	(〃)
9-3	区画線工	(〃)
9-4	防護柵設置工（ガードレール）	(〃)
9-5	防護柵設置工（横断・転落防止柵）	(〃)
9-6	防護柵設置工（落石防止柵）	(〃)
9-7	防護柵設置工（落石防止網）	(〃)
9-8	防護柵設置工（ガードパイプ）	(〃)
9-9	道路標識設置工	(〃)
9-10	道路付属物設置工	(〃)
9-11	排水構造物工	共9-1
9-12	コンクリートブロック積工	共9-1
9-13	法面工		
9-13-1	モルタル吹付工	(治山林道必携)
9-13-2	コンクリート吹付工	(〃)
9-13-3	植生基材吹付工	(〃)
9-13-4	客土吹付工	(〃)
9-13-5	種子散布工	(〃)
9-13-6	枠内吹付工（コンクリート、モルタル、植生基材）	(〃)
9-13-7	植生マット工、植生シート工、繊維ネット工	共9-2
9-13-8	植生筋工、筋芝工、張芝工	共9-2
9-14	吹付枠工	(治山林道必携)
9-15	構造物とりこわし工	共9-2
9-16	軟弱地盤処理工	(治山林道必携)
9-17	鉄筋挿入工（ロックボルト工）	(〃)

第2編 治山編

第1 山地治山土工

1-1 機械土工

1-1-1 適用基準	治1-1
1-1-2 施工概要及び施工形態	(治山林道必携)
1-1-3 掘削法及び機種の選定(土砂)	治1-1
1-1-4 機械別土工歩掛	治1-3
1-2 岩石工	
1-2-1 掘削工法の選定	(治山林道必携)
1-2-2 山地治山岩石工	治1-3
1-3 掘削面整形	
1-3-1 土砂掘削面整形歩掛	治1-4
1-3-2 岩盤掘削面整形歩掛	治1-4
1-4 岩盤清掃歩掛	治1-5
1-5 コンクリート間詰「標準」埋戻し	治1-5

第2 治山ダム工

2-1 コンクリート工

2-1-1 適用範囲	治2-1
2-1-2 コンクリートの割増率	治2-2
2-1-3 投入打設工法の選定	治2-2
2-1-4 人力投入打設歩掛	治2-3
2-1-5 コンクリートポンプ車打設歩掛	治2-3
2-1-6 クレーン車類投入打設歩掛	治2-4
2-1-7 コンクリート養生	(治山林道必携)
2-1-8 型枠工	治2-4
2-2 打継面処理(チッピング)歩掛	治2-6
2-3 打継面清掃歩掛	治2-6
2-4 止水板設置(塩化ビニール樹脂止水板)歩掛	(治山林道必携)
2-5 土工機械解体・組立	治2-7
2-6 鋼製ダム工歩掛	
2-6-1 バットレス式鋼製ダム	治2-9
2-6-2 (参考歩掛)スリットダム歩掛	(治山林道必携)
2-7 (参考歩掛)挿し筋による水平打継面処理工歩掛	(〃)
2-8 (参考歩掛)現場混合コンクリート歩掛	
2-8-1 人力混合投入打設歩掛	(治山林道必携)
2-8-2 機械混合	治2-9
2-8-3 コンクリート材料の割増率	(治山林道必携)

2-9	残存型枠工(プレキャスト)	(治山林道必携)
2-10	ソイルセメント工	(〃)
2-11	<u>水抜管布設歩掛(ヒューム管)</u>	治2-9
2-12	<u>水抜管布設歩掛(硬質塩化ビニール管) VU管</u>	治2-10
2-13	<u>水抜管布設歩掛(円筒型枠)</u>	治2-10
2-14	<u>天端保護工歩掛</u>	治2-11
2-15	<u>伸縮継目歩掛</u>	治2-11
2-16	<u>堤名板の取付</u>	治2-12
2-17	<u>昇降金具取付歩掛</u>	治2-12

第3 山腹工

3-1	のり切工	治3-1
3-2	かご工(A)	
3-2-1	<u>かご工(A)</u>	治3-1
3-2-2	<u>土のう積土留工</u>	治3-2
3-3	積苗工	
3-3-1	<u>(1) 緑化柵工(高さ0.3m)</u>	治3-3
3-4	筋工	
3-4-1	<u>(1) 植生帶筋工歩掛</u>	治3-3
3-4-2	<u>(2) 植生袋筋工歩掛</u>	治3-4
3-4-3	<u>(3) 植生土のう筋工歩掛</u>	治3-4
3-4-4	<u>(4) 植生土のう積工歩掛</u>	治3-5
3-4-5	<u>(5) 植生盤筋工(L-Gグリーン使用)歩掛</u>	治3-5
3-4-6	<u>(6) 植生盤筋工歩掛</u>	治3-6
3-4-7	<u>(7) 筋工に使用する斜面整地歩掛</u>	治3-6
3-5	実播工	
3-5-1	<u>(1) 斜面実播工歩掛</u>	治3-7
3-6	航空実播工	
3-6-1	<u>(1) 飛行経費</u>	治3-8
3-6-2	<u>(2) 地上作業</u>	治3-8
3-6-3	<u>(3) 積上げ共通仮設費の積算</u>	治3-9
3-6-4	<u>(4) 大型航空実播工</u>	治3-10
3-7	伏工	
3-7-1	<u>(1) マット伏工(金網付き)歩掛</u>	治3-14
3-7-2	<u>(2) マット伏工(金網別)歩掛</u>	治3-14
3-7-3	<u>(3) 鋼製伏工(緑化安定盤)歩掛</u>	治3-14
3-7-4	<u>(4) その他の伏工歩掛</u>	治3-14
3-8	階段切付	(治山林道必携)
3-9	階段間法面仕上げ歩掛	(〃)
3-10	斜面整地歩掛	(〃)

3 - 1 1	階段掘起歩掛	(治山林道必携)
3 - 1 2	溝切付歩掛	(〃)
3 - 1 3	材料採取	(〃)
3 - 1 4	山腹水路工	(〃)
3 - 1 5	山腹水路工（練石、植生、張芝等）	治 3 - 1 5
<u>3 - 1 6</u>	<u>土のう積立歩掛</u>	治 3 - 2 1
<u>3 - 1 7</u>	<u>コンクリート土のう積歩掛</u>	治 3 - 2 1

第4 地すべり防止工

4 - 1 小口径ボーリング

(1)	適用範囲	(治山林道必携)
(2)	使用機械	(〃)
(3)	編成人員	(〃)
(4)	運転時間	(〃)
(5)	1日当たり作業量	(〃)
(6)	サイクルタイム	(〃)
(7)	作業係数	(〃)
(8)	消耗品損耗量	(〃)
(9)	小口径ボーリング単価表	治 4 - 1
(10)	機械運転経費	(治山林道必携)
(11)	保孔管設置	(〃)
(12)	機械据付、足場組立撤去歩掛	(〃)

4 - 2 中口径ボーリング

(1)	適用範囲	(〃)
(2)	使用機械	(〃)
(3)	編成人員	(〃)
(4)	運転時間	(〃)
(5)	1日当たり作業量	(〃)
(6)	サイクルタイム	(〃)
(7)	作業係数	(〃)
(8)	消耗品損耗量	(〃)
(9)	中口径ボーリング単価表	治 4 - 2
(10)	機械運転経費	(治山林道必携)
(11)	保孔管設置	(〃)
(12)	機械据付、足場組立撤去歩掛	(〃)

4 - 3 大口径ボーリング

(1)	適用範囲	(治山林道必携)
(2)	施工概要	(〃)
(3)	機種の選定	(〃)
(4)	編成人員	(〃)
(5)	施工歩掛	(〃)
(6)	杭1本当たりモルタル及びコンクリート使用量	治 4 - 3
(7)	やぐらの設置・撤去	(治山林道必携)

(8) ビット等損耗費	(治山林道必携)
(9) 諸雑費	(〃)
(10) 泥水(ベントナイト)の処理費	(〃)
4-4 集水井工		
4-4-1 集水井工 (ライナープレート土留工法)	治4-4
(1) 適用範囲	(治山林道必携)
(2) 施工概要	(〃)
(3) 工法の選定	(〃)
(4) 機種の選定	(〃)
(5) 編成人員	(〃)
(6) 施工歩掛	(〃)
(7) コンクリート工	(〃)
(8) 井戸蓋工	(〃)
(9) 昇降用設備設置工	(〃)
(10) 堀削作業設備の組立・解体	(〃)
(11) 内訳書及び単価表	(〃)
<u>(12) 標識板設置</u>	治4-4
4-4-2 集水井工 (プレキャスト土留工法)	(治山林道必携)
4-5 アンカーワーク	(〃)
4-6 集排水ボーリング孔洗浄工	(〃)
4-7 ボーリング工 (ロータリーパーカッション式)	(〃)
4-8 アンカーワーク (ロータリーパーカッション式)	(〃)
4-9 (参考歩掛) ダウンザホールハンマ工	(〃)
4-10 排土工	治4-4
4-11 押え盛土工	治4-4

第5 森林整備

5-1 森林整備		
5-1-1 植裁 (A)	治5-1
5-1-2 植裁 (B)	(治山林道必携)
5-1-3 植裁 (C)	治5-2
5-1-4 地拵え等	(治山林道必携)
5-1-5 客土歩掛	(〃)
5-1-6 仮植歩掛	(〃)
5-1-7 施肥	治5-3
5-1-8 苗木運搬歩掛	(治山林道必携)
5-1-9 下刈歩掛 (全刈り (1回刈り))	(〃)
5-1-10 除伐	(〃)
5-1-11 (参考歩掛) 本数調整伐歩掛	治5-3
5-1-12 追肥歩掛	治5-4
5-1-13 つる切り歩掛	治5-4
5-1-14 寒伏せ・寒起し	治5-4
5-1-15 枝落し	治5-4
5-1-16 天然下種更新	治5-5
5-1-17 作業道	治5-5
5-2 支柱工	(治山林道必携)
5-3 管理歩道作設工	(〃)

5 - 4 (参考歩掛) なだれ予防柵設置工 (治山林道必携)

第 6 海岸林造成

6 - 1 (参考歩掛) 生育基盤盛土工 (治山林道必携)

6 - 2 海岸植裁 (治山林道必携)

6 - 3 コンクリート根固ブロック工 (治山林道必携)

参 考 資 料

- 1 緑化等の播種量の算定 参 1 - 1
- 2 土石流の発生・到達のおそれのある現場での工事における安全対策について… 参 2 - 1

治山事業設計積算要綱

第1 趣 旨

治山事業の設計書の作成に関する事務取扱いについては、次の要領等に定められるもののほか、この要綱に定めるところに準拠して行うものとする。

①森林整備保全事業設計積算要領

(平成12年3月31日付け12林野計第138号林野庁長官通知)

②森林整備保全事業設計積算要領等の細部取扱い

(平成11年7月1日付け11-13林野庁指導部長通知)

③森林整備保全事業標準歩掛の制定について

(平成11年4月1日付け11林野計第133号林野庁長官通知)

④森林整備保全事業における施工パッケージ型積算方式の試行の実施について

(平成28年3月31日付け27林整計第351号林野庁長官通知)

⑤森林整備保全事業建設機械経費積算要領

(平成11年4月1日付け11林野計第134号林野庁長官通知)

⑥森林整備保全事業建設機械等賃料積算基準

(平成11年4月1日付け11林野計第135号林野庁長官通知)

⑦森林整備保全事業に係る仮設材損料算定基準

(平成11年4月1日付け11林野計第136号林野庁長官通知)

⑧森林整備保全事業に係る仮設材賃料算定基準

(平成11年4月1日付け11林野計第137号林野庁長官通知)

⑨森林土木木製構造物設計等指針

(平成16年5月14日付け16林整計第41号林野庁森林整備部長通知)

⑩その他、他省庁標準歩掛及び刊行物、見積書等

第2 設計に関する基本的事項

1 設計の指針

治山事業の実施にあたり、設計の指針として次のものを採用する。

治山技術基準（解説）（総則・山地治山編、地すべり防止編、防災林造成編、
保安林整備編） 林野庁

コンクリート標準示方書 土木学会

2 標準設計

標準設計の完成しているもの及び類似工種については原則として標準設計を使用する。

適用にあたっては現場の条件が設計条件に合致しているかチェックする。

標準設計があるもの	重力式コンクリート擁壁	(財)林業土木コンサルタンツ
	重力式コンクリート橋台、橋脚	"
	治山ダム、土留工断面表	"

3 標準と異なる設計

工期を標準より著しく短縮する必要がある場合、冬期にコンクリート工事を施工する必要
がある場合、緑化工を最適期以外に施工する場合などは必要な設計を行わなければならない。

4 新工法の積極的採択

治山林道必携（積算・施工編）、森林土木木製構造物施工マニュアル及びこの要綱に集録さ
れていない工法、歩掛であっても有利なものは積極的に採択するものとする。

ただし歩掛け、仕様等の不明なものについては、局と協議するものとする。

標 準 歩 掛

歩掛コードNo.は、普通作業員と山林砂防工の両方を作成している歩掛については、原則、偶数番号を普通作業員として記載している。(次の番号が同步掛の山林砂防工)普通作業員と山林砂防工の区分のない歩掛については、偶数、奇数を指定していない。

第1 土工

1-1-1 土質の分類

土 質		分 類
砂・砂質土		砂、砂質土、普通土、砂質ローム
粘 性 土		粘土、粘性土、シルト質ローム、砂質粘性土、火山灰質粘性土、有機質土、粘土質ローム
礫 質 土		礫まじり土、砂利まじり土、礫
岩塊・玉石		岩塊・玉石まじり土、破碎岩
軟 岩 (I)	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3紀の岩石で固結程度が弱いもの、風化がはなはだしく、きわめてもろいもの。 ○ 指先で離しうる程度のもので、亀裂間の間隔は1~5cmぐらいのもの。
	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3紀の岩石で固結の程度が良好なもの。風化が相当進み、多少変色を伴い軽い打撃により容易に割り得るもの、離れ易いもの。亀裂間の間隔は5~10cm程度のもの。
軟 岩 (II)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 凝灰質で団結しているもの、風化は目にそって相当進んでいるもの、亀裂間の間隔は10~30cm程度で軽い打撃により離しうる程度、異種の岩が硬い互層をなしているもので、層面を楽に離しうるもの。
中 硬 岩		<ul style="list-style-type: none"> ○ 石灰岩、多孔質安山岩のように特にち密でないが、相当の硬さを有するもの風化の程度があまり進んでいないもの、硬い岩石で間隔が30~50cm程度の亀裂を有するもの。
軟 岩 (I)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 花崗岩は、結晶片岩など全く変化していないもの、亀裂の間隔は1m内外で相当密着しているもの、硬い良好な石材を取り得るようなもの。
硬 岩 (II)		<ul style="list-style-type: none"> ○ けい岩、角岩などの石英質に富んだ岩質が硬いもの、風化していない新鮮な状態のもの、亀裂が少なくよく密着しているもの。

備考 1 破碎後(ルーズの状態)の軟岩類(軟岩(I)Aを含む。)は礫質土として取扱う。

2 破碎岩として取扱うものは中硬岩以上の硬岩類とする。

3 磯まじり土、玉石まじり土とは、礫、玉石の混合率が概ね30%以上のものをいう。

4 転石とは、概ね径30cm以上のものをいう。

5 土の種類の粒径区分を参考に示すと次のとおり。

粒 径 (mm)

粘土	シルト	砂	礫	玉石	転石
0.005	0.074	2.0	75.0	300.0	

1 - 1 - 2 土量変化率

1 土量の変化

土量の変化は次の3つの状態の土量に区分して考える。

地山の土量……………掘削すべき土量

ほぐした土量……………運搬すべき土量※

締固め後の土量……………でき上がりの盛土量

3つの状態の体積比を次式のように表し、L及びCを土量の変化率という。

$$L = \text{ほぐした土量} / \text{地山の土量} (\text{m}^3)$$

$$C = \text{締固め後の土量} / \text{地山の土量} (\text{m}^3)$$

土量の配分計画又は残土運搬処理計画を立てる場合には、この土量変化率を用いて、切土、盛土の土量計算を行う。

※必携では、「運搬土量=ほぐした土量」となっているが、「第1編共通工 第2運搬工 2-8ダンプトラック運搬」の算定式のとおり「地山の土量」により積算すること。(詳細は、下記「第1編共通工 第1土工 1-18 残土運搬処理工」を参照すること。)

1 - 2 伐開・除根

チェンソー伐開歩掛

歩掛コードNo.	3352
----------	------

(100 m²当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	0.01	
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		〃	0.4 (〃)	
特 殊 作 業 員		〃	0.1	
機 械 損 料	鋸長500mm	日	0.1	
燃 料 費	混合油25:1		0.36	
チエーンオイル		〃	0.01	

備考 1 本表は樹冠疎密度、中位の伐開である。

2 20m以内の片付を含む。

1 - 3 人力土工(土砂) (治山林道必携)

1 - 4 機械土工（土砂）

(1) バックホウによる掘削・積込み作業の機種選定

掘削積込機械の適用機種の標準

作業の種類	作業内容	バックホウの規格
・地山の掘削 積込み	1箇所当たりの施工土量が 100m ³ 程度 まで、又は平均施工幅 1 m 未満の場合	小規模土工(下記「第 1 編共通工 第 1 土工 1 - 12 小規模土工」を参照)
・ルーズな状 態の積込み	対象土量 50,000m ³ 未満 平均施工幅 1 m 以上 2 m 未満又は狭 隘で旋回範囲に制限がある場合	排出ガス対策型（第 1 次基準値）クロ ーラ型 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)
	対象土量 50,000m ³ 未満	排出ガス対策型（第 2 次基準値）クロ ーラ型 山積 0.80m ³ (平積 0.60m ³)
	対象土量 50,000m ³ 以上	排出ガス対策型（第 1 次基準値）クロ ーラ型 山積 1.40m ³ (平積 0.80m ³)
作業土工（床 掘工）	1箇所当たりの施工土量が 100m ³ 程度 まで、又は平均施工幅 1 m 未満の場合	小規模土工(下記「第 1 編共通工 第 1 土工 1 - 12 小規模土工」を参照)
	平均施工幅 1 m 以上 2 m 未満又は狭 隘で旋回範囲に制限がある場合	排出ガス対策型（第 1 次基準値）クロ ーラ型 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)
	上記以外	排出ガス対策型（第 2 次基準値）クロ ーラ型 山積 0.80m ³ (平積 0.60m ³)

(注 1) 上表で示す土量は、1 工事当たりの扱い土量である。

(注 2) 機種の選定にあたっては、積込み作業を伴う場合にあっては、「・地山の掘削積込」「・
ルーズな状態の積込」により適用機種を選定し、積込み作業を伴わない掘削、床掘作業等
については、「作業土工（床掘工）」により適用機種を選定すること。

(2) ブルドーザ掘削押土（土砂）歩掛

歩掛コード No.	4970 (変動)
-----------	-----------

1) 1 時間当たり土工量 (V_B)

1 時間当たり土工量の算定式は、次のとおりとする。

$$V_B = \frac{60}{C_m} \times q \times E \quad (m^3/h\ r)$$

q : 1 サイクル当たり掘削押土量 (m³)

E : 作業効率

C_m : 1 サイクルの所要時間 (min)

2) 1サイクル当たりの掘削押土量 (q)

規 格	q (m³)
普通 1 1 t 級	1 . 2 8
普通 1 5 t 級	1 . 7 3
湿地 2 0 t 級	<u>2 . 1 1</u>
普通 2 1 t 級	2 . 8 5

1-5 埋戻工 (治山林道必携)

1-6 クラムシェル掘削 (〃)

1-7 機械土工 (岩石) (〃)

(1) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
リッパ装置付ブルドーザ	18t級	機 - 1	
バ ッ ク ホ ウ	0.6 m³	機 - 1	
大型ブレーカ (バックホウ装着)		機 - 3	機械損料 1 → バックホウ 0.6 m³ 機械損料 2 → 大型ブレーカ 油圧式 1,300kg級 単位 → 日 数量 → 1 / T T : バックホウ運転日当たり運転時間
空 気 圧 縮 機	可搬式スクリュ 5.0m³/min	機 - 16	運転時間 → 4.5 h / 日

1-8 転石破碎工 (治山林道必携)

1-9 ホイールローダ掘削積込み (〃)

1-10 盛土 (〃)

1-11-1 盛土 (ブルドーザ敷均し) (狭幅) (〃)

1-11-2 振動ローラ締固め (狭幅) (〃)

1-12 小規模土工

(1) 機種の選定

機種の選定

作業の種類	作業の内容	機械名	規格	摘要
・掘削積込 ・積込み	標準	バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値）クローラ型 山積 0.28m ³ （平積 0.20m ³ ）	
	上記以外	小型 バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値）クローラ型 山積 0.13m ³ （平積 0.10m ³ ）	
舗装版破碎積込	—	〃	〃	
床掘り	—	バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値）クローラ型 後方超小旋回型 山積 0.28m ³ （平積 0.20m ³ ）	
埋戻し	—	〃	〃	はねつけ
	タンパ	60～80kg		締固め
運搬	ダンプ	4t 積		バックホウ山積 0.28m ³ （平積 0.20m ³ ） の場合
	トラック	2t 積		バックホウ山積 0.13m ³ （平積 0.10m ³ ） の場合

(注1) 作業の内容における上記以外とは、構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な箇所及び1箇所当たりの施工土量が50m³以下の箇所とする。

(注2) タンパは賃料とする。

(注3) 積込み作業を伴う場合にあっては、「・掘削積込」「・積込」又は「舗装版破碎積込」により適用機種を選定し、積込み作業を伴わない掘削、床掘作業等については、「床掘り」「埋戻し」により適用機種を選定すること。

1-13-1 安定処理工 (治山林道必携)

1-13-2 安定処理工(バックホウ混合) (〃)

1-14 機械法面整形 (〃)

1-15 人力法面整形 (〃)

1-16 構造物取りこわし工

1-16-1 コンクリート構造物取りこわし工

(1) 適用範囲

- 1) 本歩掛は、既設コンクリート構造物の取りこわしで、建築物及び舗装版（鋼橋床版を除く）には適用しない。
- 2) 本歩掛は、構造物の取りこわし及び作業場内の片付けで床掘、埋戻コンクリート殻の積込、運搬等の搬出は含まれない。
なお、用心鉄筋は、無筋扱いとする。
- 3) 取りこわしコンクリート殻の処理は土工〔破碎岩〕を適用する。
- 4) バックホウの運転経費は機械土工、空気圧縮機の機械経費は、岩石工を適用する。

(2) 工法・機種の選定 (治山林道必携)

(3) 施工歩掛 (〃)

(4) 取りこわしコンクリート殻の処理工 (〃)

1-16-2 (参考歩掛) 吹付法面とりこわし工 (〃)

1-17 (参考歩掛) 骨材再生工 (自走式) (〃)

1-18 残土運搬処理工

残土を運搬処理する場合の設計積算にあたっては、残土処理場における出来型寸法により算出された数量を基に計上するものとする。

出来型数量から運搬土量への換算については、「第1土工 1-1-2 土量変化率」により算出するものとする。

掘削積込み（地山→直接ダンプトラック）の数量については、出来型寸法からの換算土量ではなく、通常の床掘（掘削）数量計算書等の土量を計上する。

ルーズの積込み（一時仮置き→ダンプ トラック）の数量については、出来型寸法から「第1土工 1-1-2 土量変化率」によりほぐした土量へと換算し、算出する

礫質土の場合の計算

例)出来型寸法による数量（締固め後の土量）が 120m³ であった場合

$$\begin{aligned} \text{(1) 運搬土量(締固め後の土量を地山の土量に換算)} &= 120\text{m}^3 \times 1 / C \\ &= 120\text{m}^3 \times 1 / 0.90 = 133\text{m}^3 \text{ を計上} \end{aligned}$$

(2) 積込み土量

ア 地山を掘削し直接積込む場合の数量…通常の床掘（掘削）数量計算書等の土量とする。

注：積込み土量 ≥ 運搬土量 とする。

イ 一時仮置きされた土砂を積込む場合の数量

$$\begin{aligned} \text{(締固め後の土量をほぐした土量に換算)} &= 120\text{m}^3 \times L / C \\ &= 120\text{m}^3 \times 1.20 / 0.90 = 160\text{m}^3 \text{ を計上} \end{aligned}$$

単価表作成例:一時仮置きした場合

单 价 表

なお、発注時点で残土運搬処理工が必要となることが明らかであり、当初設計段階で計上する場合の数量計算については、想定する残土処理量から前記に準じて運搬土量等を算出するものとする。この場合であっても、最終的には出来型寸法による数量へと設計変更するものとする。

第2 運搬工

2-1 人力運搬

2-1-1 人肩運搬歩掛

(1) 仮置きされた土砂及び諸資材等の運搬歩掛

1) 適用範囲

本歩掛は、積込み～人肩運搬～人力取卸しの一連作業に適用する。

2) 施工歩掛

歩掛コードNo.	4975 [変動]
----------	-----------

種別 距離	ホーレスター 植生土の う(混土 入なし)	セメント 諸資材 鉄線 蛇籠	型枠	薄むしろ	二次製品 (編柵用 ビニール網 板)	編柵用 杭木 (ビニール 板)	苗木 (肥料木 2年生)	クリーンウォール (エキスパンド メタル)
単位	人/100枚	人/t	人/m³	人/1000m²	人/1,000m	人/100本	人/1000本	人/100m²
運搬	20	0.03	0.11	0.15	0.15	0.19	0.03	0.03
	40	0.04	0.14	0.19	0.19	0.23	0.05	0.04
	60	0.05	0.17	0.23	0.22	0.26	0.06	0.04
	80	0.06	0.21	0.28	0.25	0.30	0.08	0.05
	100	0.07	0.24	0.32	0.28	0.34	0.10	0.05
距離 ～ m	120	0.07	0.27	0.36	0.31	0.38	0.12	0.06
	140	0.08	0.31	0.41	0.34	0.41	0.14	0.06
	160	0.10	0.34	0.45	0.37	0.45	0.16	0.07
	180	0.11	0.37	0.50	0.41	0.49	0.18	0.07
	200	0.11	0.41	0.54	0.44	0.53	0.20	0.08
まで ～ ま	定距離 (c) 100m		(A) 0.077					
	当たり		(B) 0.165					

種別 距離	水路工用 杭木 (土のう ・マット)	植生 土のう	植生帶 (混土 入り なし)
単位	人/100本	人/100枚	人/100枚
運搬	20	0.03	0.60
	40	0.05	0.75
	60	0.06	0.89
	80	0.08	1.03
	100	0.10	1.17
距離 ～ m	120	0.12	1.31
	140	0.14	1.45
	160	0.16	1.59
	180	0.18	1.73
	200	0.20	1.87

※必携にないものを掲載。

- 備考 1 本表は原則として使用せず他の経済的な運搬方法を考慮する。
 2 本表は原則として 200m 以内の運搬に適用する。
 3 本表には、人肩用のモッコ代を含む。
 4 200m を超える場合は、次により計算する。

$$\text{運搬歩掛} = \frac{\text{運搬距離}}{\text{定距離 (C)}} \times \text{定乗数 (B)} + \text{定加数 (A)}$$

- 5 運搬距離とは斜距離片道とし比高のあるときは比高 1m について 6m を加算する。下り勾配は平地歩掛の 1.0 ~ 0.8 とする。
6 人肩運搬は斜距離で片道（比高加算をしない実距離）を限度とする。
7 運搬距離 20m は採取、床掘等の作業には小運搬として含まれているものがあるので、単独作業の場合のみ計上すること。
8 本表にないものは類似の品目規格のものを採用する。
9 小車運搬歩掛表に計上されている品目については、原則として人肩運搬をしない。
10 本表は積卸しを含む。
11 緑化袋及び植生土のうで混土入りでない場合は、植生帶及びホーレスターを準用する。
12 詳細は治山林道必携の「補正係数」等の項目を参照する。
13 治山関係事業にあっては、原則として山林砂防工を適用することを標準とする。

2-1-2 小車運搬歩掛 (治山林道必携)

2-2 テーラー運搬歩掛

治山関係事業にあっては、原則として山林砂防工を適用することを標準とする。

1) 施工歩掛

種別 距 離	萱	切
	株	芝
人/100束	人/100束	
m	人	人
以下		
200	0.21	0.11
300	0.23	0.11
400	0.25	0.12
500	0.26	0.13
750	0.30	0.14
1,000	0.36	0.16

歩掛コード No.4985 [変動]

- 備考 1 本表は積卸しを含む。
 2 テーラーの燃料、損料等一切を含む。

2-3 不整地運搬車運搬

2-3-1 小型不整地運搬車運搬

(1) 小型不整地運搬車運転単価表

歩掛コードNo.	2t	4990 [変動]
----------	----	-----------

(1日当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
特 殊 運 転 手		人	運転1h労務歩掛×T	1t積未満は特殊作業員とする。
燃 料 費		ℓ	運転1h燃料消費量×T	
賃 料	油圧ダブル式	供用日		
計				

備考 1 小型不整地運搬車の運転日当たり標準運転時間(T)は、6.9h/日とする。

2 特殊運転手は、人力による積込み及び荷卸し労務を含んでいる。

2-3-2 不整地運搬車運搬

(1) 積込・その他でバックホウを使用する場合の運転単価表

歩掛コードNo.		3060, 3061
----------	--	------------

(1時間当たり)

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
燃 料 費		ℓ	運転1h燃料消費量	
バッックホウ損料	平積0.6m ³	時間		
計				

備考 1 不整地運搬車の運転日当たり標準運転時間(T)は、6.9h/日とする。

2-4 ベルトコンベア運搬

(1) ベルトコンベア運搬単価表

(1日当たり)

歩掛コードNo.	名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
3410	電 力 科	(1.1kw)	(KWh)	4.3	
3412	燃 料 費	2.6kw	ℓ	9.3	ガソリン
	山 林 砂 防 工 (普通作業員)		人	4	
	機 械 損 料	7mホーファル	日	1	

備考 1 () 書きは原動機にモーターを使用した場合。

- 2 ベルトコンベアを数台連結して使用する場合は、燃料費及び機械損料のみ使用台分計算する。
- 3 人力運搬等と比較の上使用する。
- 4 床掘、切取等、直接ベルトコンベアに積込む場合は、山林砂防工(普通作業員)を1人とする。
- 5 日当たり運転時間は、7時間とする。
- 6 発動発電機による場合は賃料とする。

- 2-5 モノレール運搬 (治山林道必携)
2-6 (参考歩掛) タワー運搬 (リ)

2-7 ケーブルクレーン運搬

(1) ケーブルクレーンの設計

ア バケットの区分

- ① コンクリート運搬をともなう渓間工事等のバケット容量は 0.8m^3 を標準とする。
- ② コンクリート運搬をともなう山腹工事等のバケット容量は 0.5m^3 を標準とする。
- ③ コンクリート運搬をともなわない最大運搬物重量が 500kg 以下の工事のバケット容量は 0.3m^3 とする。

イ ケーブルクレーン(ワインチ)規格はコンクリート工事にあっては1日当たり練り上げ量(打設量)を勘案して決定する。

ウ コンクリートを使用しない場合(鋼材、土石運搬を主とする工事を除く)は、1t未満型を標準とする。

エ 数工種にまたがるときの施設は全延長1回とし歩掛は各工種毎にその区間距離のものを採用する。

オ 材料の積降しについてはその材料がクレーンの20m以内に集積してある(集積する)場合であって運搬を要するものは小運搬歩掛を別途計上すること。

カ 骨材の単位重量が判明している場合の1日当たり運搬重量は(1日当たり運搬容積×単位重量)として算出する。

キ 山腹工事等で1地域内で多数に架設する場合は、型式区分ごとに加重平均した架設及び運搬距離を使用する。

ク 本表にない資材は、人肩運搬歩掛表の備考欄を準用する。

ケ 2次クレーンを使用する場合は、1次クレーンに準じた型式及び運搬量とする。

(2) ケーブルクレーン型式(規格)決定方法

- 1 (7) 設計荷重及び索の決定早見表からケーブルクレーンの規格及びワインチ規格を決定する。(架設距離と勾配)
- 2 1日当たり運搬量は実運搬距離と勾配の関係からコンクリートは(9)、その他資材は(8)により決定する。
- 3 吊上、吊下げ高さが標準と著しく相違する場合は別途計算によることができる。

(3) 機械小屋架設撤去歩掛

(1棟当たり)

歩掛けコード			区分 (構造物体積)	山林砂防工 (普通作業員)		大工		資材費		
架設	撤去	架設撤去		架設	撤去	架設	撤去	素材	小器材費	亜鉛引鉄板
3491		3485	500m³未満	人	人	0.153m³	4%	枚		
3493	3497	3487	1,000m³以上	0.4	0.1	0.2	0.245	3〃	10.0	
3495		3489				0.307	2〃	(波0.25mm)		

備考 1 1t未満型の場合は、特に必要のないかぎり計上しない。

2 小器材はかすがい、釘、鉄線で素材価格に対する乗率する。

(4) アンカーライナ・架設・撤去歩掛

(1基当たり)

歩掛けコードNo.			アンカーライナ種別		丸太埋込み					
施工区分	規格	世話役		山林砂防工 (普通作業員)		機械運転				
		架設	撤去	架設	撤去	架設	撤去	架設	撤去	
人力施工	1t未満	1.1人	0.3人	8.6人	2.0人					
	1t以上2t未満	1.3	0.3	9.4	2.0					
	2t以上3t未満	1.4	0.3	10.3	2.0					
	3t以上4t未満	1.5	0.3	11.2	2.0					
	4t以上5t未満	1.6	0.3	12.1	2.0					
	5t未満	0.8	0.2	5.8	1.1	4	2			
機械施工										

(1基当たり)

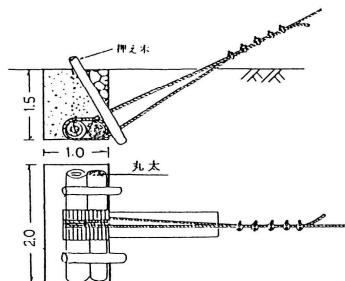
歩掛けコードNo.			アンカーライナ種別		根株・立木			
施工区分	規格	世話役		山林砂防工 (普通作業員)				
		架設	撤去	架設	撤去			
人力施工	1t未満	0.6人	0.2人	5.2人	1.0人			
	1t以上2t未満	0.8	0.2	6.0	1.0			
	2t以上3t未満	0.9	0.2	6.9	1.0			
	3t以上4t未満	1.0	0.2	7.8	1.0			
	4t以上5t未満	1.1	0.2	8.7	1.0			

備考 1 本歩掛けは、丸太埋込み又は根株・立木を利用したものを標準としたものである。

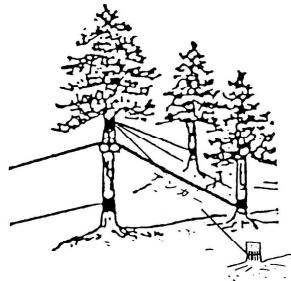
2 アンカーライナ(丸太)は次表を標準とし、材料費は全損で別途計上する。なお、根株・立木を利用する場合の材料費は計上しない。

区分	規格
丸太	末口径0.24~0.26m, 長さ2.0m*2本, 材積0.25m³

- 3 埋込み穴掘削に使用する機械は、ハックホウ（クローラ型・排出ガス対策型・山積0.28m³（平積0.2m³））を標準とする。
- 4 アンカー（3tの場合）の概念図は下表のとおりである。



【丸太埋込】



【根株・立木】

(5) ケーブルクレーン(複胴開放式)架設・撤去歩掛

(1基当たり)

歩掛け コード No.	施工内容		架設(機械据付・ワイヤ張付)				撤去(機械解体・ワイヤ撤去)				
	規格 (t)	支間長 (m)	名称	世話役 (人)	とび工 (人)	山林 砂防工 (普通 作業員) (人)	ワインチ 運転 (日)	世話役 (人)	とび工 (人)	山林 砂防工 (普通 作業員) (人)	ワインチ 運転 (日)
3553	1 t 未満	75以下	2	10	6	3	1	5	4	2	
3555		76~125	3	13	7	3	1	7	5	2	
3557		126~175	3	16	9	4	2	7	6	2	
3559		176~225	4	19	11	4	2	9	7	3	
3561		226~275	5	22	13	5	3	10	8	3	
3563		276~325	5	25	15	6	3	12	9	3	
3565		326~375	6	28	17	6	3	13	10	4	
3567		376~425	7	30	19	7	4	14	11	4	
3569		426~500	7	33	21	7	4	15	12	5	
		501~600	8	35	23	8	4	16	13	5	
		601~700	8	37	25	8	4	17	14	6	
		701~800	9	41	28	9	5	17	14	6	
		801~1000	9	43	29	9	5	18	14	6	
3571		75以下	3	14	9	3	2	7	5	2	
3573		76~125	4	17	10	3	2	9	6	2	
3575		126~175	4	20	13	4	3	9	7	2	
3577		176~225	5	23	15	4	3	11	8	3	
3579		226~275	6	26	16	5	4	12	9	3	
3581	1 t 以上 2 t 未満	276~325	6	29	18	6	4	14	10	3	
3583		326~375	7	32	20	6	4	15	11	4	
3585		376~425	8	34	22	7	5	16	12	4	
		426~500	8	37	24	7	5	18	13	5	
		501~600	9	39	26	8	5	18	14	5	
		601~700	9	41	28	8	5	19	15	6	
		701~800	10	45	31	9	6	19	15	6	
		801~1000	10	47	32	9	6	20	15	6	
3587	2 t 以上 3 t 未満	75以下	4	20	12	3	3	9	6	2	
3589		76~125	5	22	14	3	3	11	7	2	
3591		126~175	6	25	16	4	3	12	8	2	
3593		176~225	6	28	18	4	4	13	9	3	
3595		226~275	7	31	20	5	4	15	10	3	
3597		276~325	8	34	21	6	5	16	11	3	
		326~375	8	37	24	6	5	17	12	4	
		376~425	9	40	25	7	5	19	13	4	
3599		426~500	10	43	27	7	6	20	14	5	
3601		501~600	10	45	29	8	6	20	15	5	
3603		601~700	10	47	31	8	6	21	16	6	
3605		701~800	11	51	34	9	7	21	16	6	
		801~1000	11	53	37	9	7	22	16	6	

(1基当たり)

歩掛け コード No.	施工内容		架設(機械据付・ワイヤ張付)				撤去(機械解体・ワイヤ撤去)			
	規格 (t)	名称 支間長 (m)	世話役 (人)	とび工 (人)	山林 砂防工 (普通 作業員) (人)	ワインチ 運転 (日)	世話役 (人)	とび工 (人)	山林 砂防工 (普通 作業員) (人)	ワインチ 運転 (日)
3607	3 t 以上	75以下	5	23	15	3	3	9	7	2
		76~125	6	26	16	3	3	11	8	2
		126~175	6	29	19	4	4	12	8	2
		176~225	7	32	20	4	4	14	9	3
		226~275	8	35	22	5	4	15	11	3
		276~325	8	38	24	6	5	16	12	3
		326~375	9	41	26	6	5	18	12	4
		376~425	10	44	27	7	6	19	13	4
		426~500	10	47	30	7	6	21	14	5
		501~600	10	49	32	8	6	21	15	5
3609	4 t	601~700	10	51	34	8	6	22	16	6
3611	未満	701~800	11	55	37	9	7	22	16	6
3613		801~1000	11	57	40	9	7	23	16	6
3615	4 t 以上	75以下	6	26	16	3	3	10	7	2
		76~125	6	29	18	3	3	12	8	2
		126~175	7	32	20	4	4	12	9	2
		176~225	8	34	22	4	4	14	10	3
		226~275	8	38	24	5	4	16	12	3
		276~325	9	40	26	6	5	17	12	3
		326~375	10	44	27	6	5	18	13	4
		376~425	10	47	29	7	6	19	14	4
		426~500	11	50	31	7	6	21	15	5
		501~600	11	52	34	8	6	21	16	5
3617	5 t	601~700	11	54	36	8	6	22	17	6
3619	未満	701~800	12	58	39	9	7	22	17	6
3621		801~1000	12	60	41	9	7	23	17	6

備考 1 伐開を必要とする場合は別途計上する。

2 架線を張り替えて使用する場合は、必要な労務資材を別途計上する。

3 試運転に要する経費は、ワインチ運転1日分を加算する。

(6) 積卸し時間、ロープスピード及び運搬回数

1) 積卸し時間、ロープスピード

積卸しに要する時間			コンクリート運搬2分、その他3分					
吊上(下)高			30m					
ロープス ピード			22m/分					
横行速度		距離		50m以下	51~100	101~200	201~300	300以上
m/分		m/分		65	80	95	110	135

2) 運搬回数

$$T = \frac{2\ell_1}{V_1} + \frac{2\ell_2}{V_2} + d$$

N = 1日運搬回数 T = 1サイクルタイム ℓ_1 = 横行距離

ℓ_2 = 吊上下距離 V_1 = 横行速度 V_2 = 吊上下速度 d = 積卸時間

例：1日当たり運搬回数

○コンクリート運搬の場合 5.3時間 = 318分 N = 318 ÷ T

○その他資材等の運搬の場合 6.7時間 = 402分 N = 402 ÷ T

3) 資材別運搬量

運搬量表には、各資材別の運搬量を吊上下高さ固定し標準として示したものであり、これにより難い場合は、現地実態に合わせ別途計算する。

(7) 設計荷重及び索の決定早見表

①-ア (パケット0.3m³使用、勾配15度未満、中央垂下比0.04)

歩掛け コード No	区分		設計荷重(kg)					主索		巻上索		エンドレス 索		・ケ ウ イ ン ブ チ 規 格 ル ク レ ー ン (t)		
	支間長(m)		キ ヤ レ ー ジ	その 他 金 具	バ ケ ツ ト	最 大 積 載 物	エ 卷 上 ド ソ レ ス 索	計	索 長 (m)	索 径 (mm)	索 長 (m)	索 径 (mm)				
	区 分	平均														
1800	75以下	50	95	65	100	400	エ 卷 上 ド ソ レ ス 索	32.6	692.6	90	16.0	130	8.0	150	8.0	①
1802	76~125	100						50.1	710.1	140	16.0	180	8.0	250	8.0	①
1804	126~175	150						67.6	727.6	190	16.0	230	8.0	350	8.0	①
1806	176~225	200						85.0	745.0	240	16.0	280	8.0	450	8.0	①
1808	226~275	250						129.8	789.8	290	18.0	330	9.0	550	9.0	①
1810	276~325	300						151.9	811.9	340	18.0	380	9.0	650	9.0	①
1812	326~375	350						174.1	834.1	390	18.0	430	9.0	750	9.0	①
1814	376~425	400						196.2	856.2	440	18.0	480	9.0	850	9.0	①
1816	426~500	450						277.6	937.6	505	20.0	545	10.0	980	10.0	①
1818	501~600	550						479.5	1139.5	590	22.4	630	12.0	1200	12.0	②
1820	601~700	650						558.1	1218.1	690	24.0	730	12.0	1400	12.0	②
1822	701~800	750						1132.4	1792.4	790	32.0	830	16.0	1600	16.0	②
1824	801~1000	900						1699.2	2359.2	940	36.0	980	18.0	1900	18.0	③

①－イ (バケット0.3m³使用、勾配15度以上、中央垂下比0.04)

歩掛け コード No.	区分		設計荷重(kg)					主索		巻上索		エンドレス索		ケーブルクレーン ・ワインチ規格 (t)		
	支間長(m)		キヤ レ ー ジ	その 他 金 具	バ ケ ツ ト	最 大 積 載 物	エ ン ド ソ ラ ス 索	計	索 長 (m)	索 径 (mm)	索 長 (m)	索 径 (mm)	索 長 (m)	索 径 (mm)		
	区分	平均														
1828	75以下	50	95	65	100	400	エ ン ド ソ ラ ス 索	32.6	692.6	90	16.0	130	8.0	150	8.0	①
1830	76～125	100					エ ン ド ソ ラ ス 索	50.1	710.1	140	16.0	180	8.0	250	8.0	①
1832	126～175	150					エ ン ド ソ ラ ス 索	67.6	727.6	190	16.0	230	8.0	350	8.0	①
1834	176～225	200					エ ン ド ソ ラ ス 索	85.0	745.0	240	16.0	280	8.0	450	8.0	①
1836	226～275	250					エ ン ド ソ ラ ス 索	129.8	789.8	290	18.0	330	9.0	550	9.0	①
1838	276～325	300					エ ン ド ソ ラ ス 索	151.9	811.9	340	18.0	380	9.0	650	9.0	①
1840	326～375	350					エ ン ド ソ ラ ス 索	214.8	874.8	390	20.0	430	10.0	750	10.0	①
1842	376～425	400					エ ン ド ソ ラ ス 索	242.1	902.1	440	20.0	480	10.0	850	10.0	①
1844	426～500	450					エ ン ド ソ ラ ス 索	399.6	1059.6	505	22.4	545	12.0	980	12.0	②
1846	501～600	550					エ ン ド ソ ラ ス 索	479.5	1139.5	590	22.4	630	12.0	1200	12.0	②
1848	601～700	650					エ ン ド ソ ラ ス 索	759.3	1419.3	690	28.0	730	14.0	1400	14.0	②
1950	701～800	750					エ ン ド ソ ラ ス 索	1433.7	2093.7	790	36.0	830	18.0	1600	18.0	③
1852	801～1000	900					エ ン ド ソ ラ ス 索	1699.2	2359.2	940	36.0	980	18.0	1900	18.0	③

備考 1 ケーブルクレーン・ワインチ規格については次によるものとする。

①：1t未満 ②：1t以上2t未満 ③：2t以上3t未満 ④：3t以上4t未満

⑤：4t以上5t未満

2 本ケーブルクレーンは運搬物にコンクリートを含まず1回の運搬物が400～500kg以下

である場合に適用する。(コンクリート運搬のない山腹工等)

3 歩掛コードNo.が奇数の場合1ヶ月当たり損料、偶数の場合年当たり損料

設計荷量及び索の決定早見表（標準タイプ）

②-ア (パケット 0.5m³使用、勾配15度未満、中央垂下比0.04)

歩掛け コード No.	区分		設計荷量 (kg)					主 索		巻上索		エンドレス 索		・ケ ー ブ ル ク レ ー ン ・ ウ イ ン チ 規 格 (t)		
	支間長(m)		キ ヤ レ ー ジ	そ の 他 金 具	バ ケ ツ ト	最 大 積 載 物	エ ン ド レ ス 索 +	計	索 長 (m)	索 径 (mm)	索 長 (m)	索 径 (mm)	索 長 (m)	索 径 (mm)		
	区 分	平 均														
1856	75以下	50	95	65	170	1175	エ ン ド レ ス 索 +	73.4	1578.4	90	22.4	130	12.0	150	12.0	(2)
1858	76~125	100					エ ン ド レ ス 索 +	112.7	1617.7	140	22.4	180	12.0	250	12.0	(2)
1860	126~175	150					エ ン ド レ ス 索 +	152.0	1657.0	190	24.0	230	12.0	350	12.0	(2)
1862	176~225	200					エ ン ド レ ス 索 +	191.3	1696.3	240	24.0	280	12.0	450	12.0	(2)
1864	226~275	250					エ ン ド レ ス 索 +	313.7	1818.7	290	26.0	330	14.0	550	14.0	(2)
1866	276~325	300					エ ン ド レ ス 索 +	367.2	1872.2	340	26.0	380	14.0	650	14.0	(2)
1868	326~375	350					エ ン ド レ ス 索 +	420.7	1925.7	390	28.0	430	14.0	750	14.0	(2)
1870	376~425	400					エ ン ド レ ス 索 +	474.1	1979.1	440	28.0	480	14.0	850	14.0	(2)
1872	426~500	465					エ ン ド レ ス 索 +	710.7	2215.7	505	30.0	545	16.0	980	16.0	(3)
1874	501~600	550					エ ン ド レ ス 索 +	852.8	2357.8	590	32.0	630	16.0	1200	16.0	(3)
1876	601~700	650					エ ン ド レ ス 索 +	1256.7	2761.7	690	36.0	730	18.0	1400	18.0	(3)
1878	701~800	750					エ ン ド レ ス 索 +	1433.7	2938.7	790	36.0	830	18.0	1600	18.0	(3)
1880	801~1000	900					エ ン ド レ ス 索 +	1699.2	3204.2	940	36.0	980	18.0	1900	18.0	(4)

備考

1 ケーブルクレーン・ワインチ規格については次によるものとする。

② : 1t以上2t未満 ③ : 2t以上3t未満 ④ : 3t以上4t未満 ⑤ : 4t以上5t未満

2 最大積載物はコンクリート(2350kg/m³)で計算した。

3 キャレージ等付属金属及びパケットの重量は標準値とした。

4 索長は次式による。 主 索：支間長(平均) + 40.0m

巻上索：支間長(平均) + 30.0m × 2 + 20.0m

エンドレス索：支間長(平均) × 2 + 50.0m (支間長500mまで)、
支間長 × 2 + 100.0m (支間長500m越える)

5 主索の重量は構成記号6×7を、巻上索・エンドレス索の重量は構成記号6×19を標準とした。

6 支間長701~1000mは中央垂下比0.05

②-イ (パケット 0.5m³使用、勾配15度以上、中央垂下比0.04)

歩掛け コード No.	区分		設計荷量 (kg)					主 索		巻上索		エンドレス 索		・ケ ー ブ ル ク レ ー ン ・ ウ イ ン チ 規 格 (t)		
	支間長(m)		キ ヤ レ ー ジ	そ の 他 金 具	バ ケ ツ ト	最 大 積 載 物	エ ン ド レ ス 索 +	計	索 長 (m)	索 径 (mm)	索 長 (m)	索 径 (mm)	索 長 (m)	索 径 (mm)		
	区 分	平 均														
1884	75以下	50	95	65	170	1175	エ ン ド レ ス 索 +	73.4	1578.4	90	22.4	130	12.0	150	12.0	(2)
1886	76~125	100					エ ン ド レ ス 索 +	112.7	1617.7	140	24.0	180	12.0	250	12.0	(2)
1888	126~175	150					エ ン ド レ ス 索 +	152.0	1657.0	190	24.0	230	12.0	350	12.0	(2)
1890	176~225	200					エ ン ド レ ス 索 +	191.3	1696.3	240	24.0	280	12.0	450	12.0	(2)
1892	226~275	250					エ ン ド レ ス 索 +	313.7	1818.7	290	26.0	330	14.0	550	14.0	(2)
1894	276~325	300					エ ン ド レ ス 索 +	367.2	1872.2	340	26.0	380	14.0	650	14.0	(2)
1896	326~375	350					エ ン ド レ ス 索 +	420.7	1925.7	390	28.0	430	14.0	750	14.0	(2)
1898	376~425	400					エ ン ド レ ス 索 +	474.1	1979.1	440	28.0	480	14.0	850	14.0	(2)
1900	426~500	465					エ ン ド レ ス 索 +	710.7	2215.7	505	32.0	545	16.0	980	16.0	(3)
1902	501~600	550					エ ン ド レ ス 索 +	1079.7	2584.7	590	34.0	630	18.0	1200	18.0	(3)
1904	601~700	650					エ ン ド レ ス 索 +	1256.7	2761.7	690	36.0	730	18.0	1400	18.0	(3)
1906	701~800	750					エ ン ド レ ス 索 +	1433.7	2938.7	790	36.0	830	18.0	1600	18.0	(3)
1908	801~1000	900					エ ン ド レ ス 索 +	1699.2	3204.2	940	36.0	980	18.0	1900	18.0	(4)

備考

1 ②アの備考1~5に同じ

2 支間長701~1000mは中央垂下比0.05

3 支間長801~1000mは中央垂下比0.06

(③)ア (パケット 0.8m³使用、勾配15度未満、中央垂下比0.04)

歩掛け コード No.	区分		設計荷量 (kg)					主索		巻上索		エンドレス索		・ケ ウ イ ン チ 規 格 (t) ン	
	支間長(m)		キ ヤ レ ー ジ	その 他 金 具	バ ケ ツ ト	最 大 積 載 物	エ ン ド レ ス 索 +	計	索 長 (m)	索 径 (mm)	索 長 (m)	索 径 (mm)	索 長 (m)	索 径 (mm)	
	区 分	平 均													
1912	75以下	50	95	65	300	1880	99.8	2439.8	90	28.0	130	14.0	150	14.0	(3)
1914	76~125	100					153.3	2493.3	140	28.0	180	14.0	250	14.0	(3)
1916	126~175	150					270.3	2610.3	190	30.0	230	16.0	350	16.0	(3)
1918	176~225	200					340.2	2680.2	240	30.0	280	16.0	450	16.0	(3)
1920	226~275	250					410.1	2750.1	290	32.0	330	16.0	550	16.0	(3)
1922	276~325	300					480.0	2820.0	340	32.0	380	16.0	650	16.0	(3)
1924	326~375	350					696.2	3036.2	390	34.0	430	18.0	750	18.0	(4)
1926	376~425	400					784.7	3124.7	440	34.0	480	18.0	850	18.0	(4)
1928	426~500	465					899.8	3239.8	505	36.0	545	18.0	980	18.0	(4)
1930	501~600	550					1079.7	3419.7	590	36.0	630	18.0	1200	18.0	(4)
1932	601~700	650					1256.7	3596.7	690	36.0	730	18.0	1400	18.0	(4)
1934	701~800	750					1433.7	3773.7	790	36.0	830	18.0	1600	18.0	(4)
1936	801~1000	900					1699.2	4039.2	940	36.0	980	18.0	1900	18.0	(5)

備考

1 ②アの備考1-5に同じ

2 支間長501~700mは中央垂下比0.05

〃 701~1000mは中央垂下比0.06

(③)イ (パケット 0.8m³使用、勾配15度以上、中央垂下比0.04)

歩掛け コード No.	区分		設計荷量 (kg)					主索		巻上索		エンドレス索		・ケ ウ イ ン チ 規 格 (t) ン	
	支間長(m)		キ ヤ レ ー ジ	その 他 金 具	バ ケ ツ ト	最 大 積 載 物	エ ン ド レ ス 索 +	計	索 長 (m)	索 径 (mm)	索 長 (m)	索 径 (mm)	索 長 (m)	索 径 (mm)	
	区 分	平 均													
1940	75以下	50	95	65	300	1880	99.8	2439.8	90	28.0	130	14.0	150	14.0	(3)
1942	76~125	100					153.3	2493.3	140	28.0	180	14.0	250	14.0	(3)
1944	126~175	150					270.3	2610.3	190	30.0	230	16.0	350	16.0	(3)
1946	176~225	200					340.2	2680.2	240	30.0	280	16.0	450	16.0	(3)
1948	226~275	250					410.1	2750.1	290	32.0	330	16.0	550	16.0	(3)
1950	276~325	300					480.0	2820.0	340	32.0	380	16.0	650	16.0	(3)
1952	326~375	350					696.2	3036.2	390	34.0	430	18.0	750	18.0	(4)
1954	376~425	400					784.7	3124.7	440	36.0	480	18.0	850	18.0	(4)
1956	426~500	465					899.8	3239.8	505	36.0	545	18.0	980	18.0	(4)
1958	501~600	550					1079.7	3419.7	590	36.0	630	18.0	1200	18.0	(4)
1960	601~700	650					1256.7	3596.7	690	36.0	730	18.0	1400	18.0	(4)
1962	701~800	750					1433.7	3773.7	790	36.0	830	18.0	1600	18.0	(4)
1964	801~1000	900					1699.2	4039.2	940	36.0	980	18.0	1900	18.0	(5)

備考

1 ②アの備考1-5に同じ

2 支間長426~600mは中央垂下比0.05

〃 601~800mは中央垂下比0.06

〃 801~1000mは中央垂下比0.07

(8) 運搬量表(その他資材)

①ケーブル1t未満型(吊上げ+吊下げ=15M)

(1)

品目	単位	搬器区分	一般器 可搬量	運搬距離(m)まで							1t未満型		
				75m以下	76~125	126~175	176~225	226~275	276~325	326~375			
運搬回数	回			68	58	53	46	45	43	42			
砂利:砂	m3	A	0.20	13.6	11.6	10.6	9.2	9.0	8.6	8.4			
鋼鉄:鉄線蛇籠 諸資材	t	B	0.30	20.4	17.4	15.9	13.8	13.5	12.9	12.6			
土砂:玉石 野面石	m3	B	0.40	27.2	23.2	21.2	18.4	18.0	17.2	16.8			
コンクリートブロック	m2	B	1.00	68.0	58.0	53.0	46.0	45.0	43.0	42.0			
野面石・玉石	m2	B	1.00	68.0	58.0	53.0	46.0	45.0	43.0	42.0			
製材	m3	B	0.40	27.2	23.2	21.2	18.4	18.0	17.2	16.8			
コンクリート管:足場材	t	B	0.30	20.4	17.4	15.9	13.8	13.5	12.9	12.6			
素材	m3	B	0.40	27.2	23.2	21.2	18.4	18.0	17.2	16.8			
鋼製型枠	m2	B	9.00	612.0	522.0	477.0	414.0	405.0	387.0	378.0			
木製型枠	m2	B	14.00	952.0	812.0	742.0	644.0	630.0	602.0	588.0			
水	m3	B	0.40	27.2	23.2	21.2	18.4	18.0	17.2	16.8			
緑化袋:(混土入り)	枚	B	80.00	5,440.0	4,640.0	4,240.0	3,680.0	3,600.0	3,440.0	3,360.0			
植生土のう	"	B	20.00	1,360.0	1,160.0	1,060.0	920.0	900.0	860.0	840.0			
セメント:肥料	t	B	0.30	20.4	17.4	15.9	13.8	13.5	12.9	12.6			
切り芝	束	C	80.00	5,440.0	4,640.0	4,240.0	3,680.0	3,600.0	3,440.0	3,360.0			
編柵用ビニール編板	m	C	350.00	23,800.0	20,300.0	18,550.0	16,100.0	15,750.0	15,050.0	14,700.0			
ワラムシロ(種肥付): 鋼鉄 グリーンマット	m2	C	250.00	17,000.0	14,500.0	13,250.0	11,500.0	11,250.0	10,750.0	10,500.0			
グリーンウォール:エクスパンドメタル	"	C	20.00	1,360.0	1,160.0	1,060.0	920.0	900.0	860.0	840.0			
稻わら:萱株	束	C	10.00	680.0	580.0	530.0	460.0	450.0	430.0	420.0			
粗ダ	"	C	5.00	340.0	290.0	265.0	230.0	225.0	215.0	210.0			
帯梢(22本束)	"	C	60.00	4,080.0	3,480.0	3,180.0	2,760.0	2,700.0	2,580.0	2,520.0			
編柵杭(木杭、パイプ杭)	本	C	50.00	3,400.0	2,900.0	2,650.0	2,300.0	2,250.0	2,150.0	2,100.0			
編柵杭(ビニール杭) 水路工(土のう、マット) 用杭	"	C	100.00	6,800.0	5,800.0	5,300.0	4,600.0	4,500.0	4,300.0	4,200.0			
グリーンベルト	枚	C	400.00	27,200.0	23,200.0	21,200.0	18,400.0	18,000.0	17,200.0	16,800.0			
ホーレスター	"	C	320.00	21,760.0	18,560.0	16,960.0	14,720.0	14,400.0	13,760.0	13,440.0			
薄ムシロ	m2	C	500.00	34,000.0	29,000.0	26,500.0	23,000.0	22,500.0	21,500.0	21,000.0			
苗木	本	C	3,000	204,000.0	174,000.0	159,000.0	138,000.0	135,000.0	129,000.0	126,000.0			

②ケーブル1t以上2t未満型(吊上げ+吊下げ=15M)

(2)

品目	単位	搬器区分	一般器 可搬量	運搬距離(m)まで				1t以上2t未満型						
				75m以下	76~125	126~175	176~225	226~275	276~325	326~375	376~425	426~500	501~600	601~700
運搬回数	回			68	58	53	46	45	43	42	39	35	32	28
砂利:砂	m3	A	0.40	27.2	23.2	21.2	18.4	18.0	17.2	16.8	15.6	14.0	12.8	11.2
鋼鉄:鉄線蛇籠 諸資材	t	B	0.60	40.8	34.8	31.8	27.6	27.0	25.8	25.2	23.4	21.0	19.2	16.8
土砂:玉石 野面石	m3	B	0.50	34.0	29.2	26.5	23.0	22.5	21.5	21.0	19.5	17.5	16.0	14.0
コンクリートブロック	m2	B	1.50	102.0	87.0	79.5	69.0	67.5	64.5	63.0	58.5	52.5	48.0	42.0
野面石・玉石	m2	B	1.50	102.0	87.0	79.5	69.0	67.5	64.5	63.0	58.5	52.5	48.0	42.0
製材	m3	B	0.50	34.0	29.0	26.5	23.0	22.5	21.5	21.0	19.5	17.5	16.0	14.0
コンクリート管:足場材	t	B	0.60	40.8	34.8	31.5	27.6	27.0	25.8	25.2	23.4	21.0	19.2	16.8
素材	m3	B	0.50	34.0	29.0	26.5	23.0	22.5	21.5	21.0	19.5	17.5	16.0	14.0
鋼製型枠	m2	B	12.00	816.0	696.0	636.0	552.0	540.0	516.0	504.0	468.0	420.0	384.0	336.0
木製型枠	m2	B	18.00	1,224.0	1,044.0	954.0	828.0	810.0	774.0	756.0	702.0	630.0	576.0	504.0
水	m3	B	0.40	27.2	23.2	21.2	18.4	18.0	17.2	16.8	15.6	14.0	12.8	11.2
緑化袋:(混土入り)	枚	B	80.00	5,440.0	4,640.0	4,240.0	3,680.0	3,600.0	3,440.0	3,360.0	3,120.0	2,800.0	2,560.0	2,240.0
植生土のう	"	B	20.00	1,360.0	1,160.0	1,060.0	920.0	900.0	860.0	840.0	780.0	700.0	640.0	560.0
セメント:肥料	t	B	0.30	20.4	17.4	15.9	13.8	13.5	12.9	12.6	11.7	10.5	9.6	8.4
切り芝	束	C	80.00	5,440.0	4,640.0	4,240.0	3,680.0	3,600.0	3,440.0	3,360.0	3,120.0	2,800.0	2,560.0	2,240.0
編柵用ビニール編板	m	C	350.00	23,800.0	20,300.0	18,550.0	16,100.0	15,750.0	15,050.0	14,700.0	13,650.0	12,250.0	11,200.0	9,800.0
ワラシロ(種肥付): 鋼鉄 グリーンマット	m2	C	250.00	17,000.0	14,500.0	13,250.0	11,500.0	11,250.0	10,750.0	10,500.0	19,750.0	8,750.0	8,000.0	7,000.0
グリーンウォール:エクスパンドメタル	"	C	20.00	1,360.0	1,160.0	1,060.0	920.0	900.0	860.0	840.0	780.0	700.0	640.0	560.0
稻わら:萱株	束	C	10.00	680.0	580.0	530.0	460.0	450.0	430.0	420.0	390.0	350.0	320.0	280.0
粗ダ	"	C	5.00	340.0	290.0	265.0	230.0	225.0	215.0	210.0	195.0	175.0	160.0	140.0
帶梢(22本束)	"	C	60.00	4,080.0	3,480.0	3,180.0	2,760.0	2,700.0	2,580.0	2,520.0	2,340.0	2,100.0	1,920.0	1,680.0
編柵杭(木杭、パイプ杭)	本	C	50.00	3,400.0	2,900.0	2,650.0	2,300.0	2,250.0	2,150.0	2,100.0	1,950.0	1,750.0	1,600.0	1,400.0
編柵杭(ビニール杭) 水路工(土のう、マット) 用杭	"	C	100.00	6,800.0	5,800.0	5,300.0	4,600.0	4,500.0	4,300.0	4,200.0	3,900.0	3,500.0	3,200.0	2,800.0
グリーンベルト	枚	C	400.00	27,200.0	23,200.0	21,200.0	18,400.0	18,000.0	17,200.0	16,800.0	15,600.0	14,000.0	12,800.0	11,200.0
ホーレスター	"	C	320.00	21,760.0	18,558.0	16,960.0	14,720.0	14,400.0	13,760.0	13,440.0	12,480.0	11,200.0	10,240.0	8,960.0
薄ムシロ	m2	C	500.00	34,000.0	29,000.0	26,500.0	23,000.0	22,500.0	21,500.0	21,000.0	19,500.0	17,500.0	16,000.0	14,000.0
苗木	本	C	3,000	204,000.0	174,000.0	159,000.0	138,000.0	135,000.0	129,000.0	126,000.0	117,000.0	105,000.0	96,000.0	84,000.0

③ケーブル2t以上3t未満型(吊上げ+吊下げ=15M)

(3)

品目	単位	搬器区分	一般器 可搬量	運搬距離(m)まで								2t以上3t未満型			
				75m以下	76~125	126~175	176~225	226~275	276~325	326~375	376~425	426~500	501~600	601~700	
運搬回数	回			68	58	53	46	45	43	42	39	35	32	28	
砂利:砂	m3	A	0.60	40.8	34.8	31.8	27.6	27.0	25.8	26.2	23.4	21.0	19.2	16.8	
鋼鉄:鉄線蛇籠 諸資材	t	B	0.90	61.2	52.2	47.7	41.4	40.5	38.7	37.8	35.1	31.5	28.8	25.2	
土砂:玉石 野面石	m3	B	0.60	40.8	34.8	31.8	27.6	27.0	25.8	25.2	23.4	21.0	19.2	16.8	
コンクリートブロック	m2	B	2.00	136.0	116.0	106.0	92.0	90.0	86.0	84.0	78.0	70.0	64.0	56.0	
野面石・玉石	m2	B	2.00	136.0	116.0	106.0	92.0	90.0	86.0	84.0	78.0	70.0	64.0	56.0	
製材	m3	B	0.50	34.0	29.0	26.5	23.0	22.5	21.5	21.0	19.5	17.5	16.0	14.0	
コンクリート管:足場材	t	B	0.90	61.2	52.2	47.7	41.4	40.5	38.7	37.8	35.1	31.5	28.8	25.2	
素材	m3	B	0.50	34.0	29.0	26.5	23.0	22.5	21.5	21.0	19.5	17.5	16.0	14.0	
鋼製型枠	m2	B	15.00	1,020.0	870.0	795.0	690.0	675.0	645.0	630.0	585.0	525.0	480.0	420.0	
木製型枠	m2	B	22.00	1,496.0	1,276.0	1,166.0	1,012.0	990.0	946.0	924.0	858.0	770.0	704.0	616.0	
水	m3	B	0.40	27.2	23.2	21.2	18.4	18.0	17.2	16.8	15.6	14.0	12.8	11.2	
緑化袋:(混土入り)	枚	B	80.00	5,440.0	4,640.0	4,240.0	3,680.0	3,600.0	3,440.0	3,360.0	3,120.0	2,800.0	2,560.0	2,240.0	
植生土のう	"	B	20.00	1,360.0	1,160.0	1,060.0	920.0	900.0	860.0	840.0	780.0	700.0	640.0	560.0	
セメント:肥料	t	B	0.30	20.4	17.4	15.9	13.8	13.5	12.9	12.6	11.7	10.5	9.6	8.4	
切り芝	束	C	80.00	5,440.0	4,640.0	4,240.0	3,680.0	3,600.0	3,440.0	3,360.0	3,120.0	2,800.0	2,560.0	2,240.0	
編柵用ビニール編板	m	C	350.00	23,800.0	20,300.0	18,550.0	16,100.0	15,750.0	15,050.0	14,700.0	13,650.0	12,250.0	11,200.0	9,800.0	
ワラムシロ(種肥付): 鋼鉄 グリーンマット	m2	C	250.00	17,000.0	14,500.0	13,250.0	11,500.0	11,250.0	10,750.0	10,500.0	9,750.0	8,750.0	8,000.0	7,000.0	
グリーンウォール:エキスパンドメタル	"	C	20.00	1,360.0	1,160.0	1,060.0	920.0	900.0	860.0	840.0	780.0	700.0	640.0	560.0	
稻わら:萱株	束	C	10.00	680.0	580.0	530.0	460.0	450.0	430.0	420.0	390.0	350.0	320.0	280.0	
粗ダ	"	C	5.00	340.0	290.0	265.0	230.0	225.0	215.0	210.0	195.0	175.0	160.0	140.0	
帶梢(22本束)	"	C	60.00	4,080.0	3,480.0	3,180.0	2,760.0	2,700.0	2,580.0	2,520.0	2,340.0	2,100.0	1,920.0	1,680.0	
編柵杭(木杭、パイプ杭)	本	C	50.00	3,400.0	2,900.0	2,650.0	2,300.0	2,250.0	2,150.0	2,100.0	1,950.0	1,750.0	1,600.0	1,400.0	
編柵杭(ビニール杭) 水路工(土のう、マット) 用杭	"	C	100.00	6,800.0	5,800.0	5,300.0	4,600.0	4,500.0	4,300.0	4,200.0	3,900.0	3,500.0	3,200.0	2,800.0	
グリーンベルト	枚	C	400.00	27,200.0	23,200.0	21,200.0	18,400.0	18,000.0	17,200.0	16,800.0	15,600.0	14,000.0	12,800.0	11,200.0	
ホーレスター	"	C	320.00	21,760.0	18,556.0	16,960.0	14,720.0	14,400.0	13,760.0	13,440.0	12,480.0	11,200.0	10,240.0	8,960.0	
薄ムシロ	m2	C	500.00	34,000.0	29,000.0	26,500.0	23,000.0	22,500.0	21,500.0	21,000.0	19,500.0	17,500.0	16,000.0	14,000.0	
苗木	本	C	3,000	204,000.0	174,000.0	159,000.0	138,000.0	135,000.0	129,000.0	126,000.0	117,000.0	105,000.0	96,000.0	84,000.0	

④ 9 ケーブル3t以上4t未満型(吊上げ+吊下げ=15M)

(4)

品目	単位	搬器区分	一般器 可搬量	運搬距離(m)まで								3t以上4t未満型				
				75m以下	76~125	126~175	176~225	226~275	276~325	326~375	376~425	426~500	501~600	601~700		
運搬回数	回			68	58	53	46	45	43	42	39	35	32	28		
砂利:砂	m3	A	0.80	54.4	46.4	42.4	36.8	36.0	34.4	33.6	31.2	28.0	25.6	22.4		
鋼鉄:鉄線蛇籠 諸資材	t	B	1.20	81.6	69.6	63.6	55.2	54.0	51.6	50.4	46.8	42.0	38.4	33.6		
土砂:玉石 野面石	m3	B	0.70	47.6	40.6	37.1	32.2	31.5	30.1	29.4	27.3	24.5	22.4	19.6		
コンクリートブロック	m2	B	2.60	176.8	150.8	137.8	119.6	117.0	111.8	109.2	101.4	91.0	83.2	72.8		
野面石・玉石	m2	B	2.60	176.8	150.8	137.8	119.6	117.0	111.8	109.2	101.4	91.0	83.2	72.8		
製材	m3	B	0.50	34.0	29.0	26.5	23.0	22.5	21.5	21.0	19.5	17.5	16.0	14.0		
コンクリート管:足場材	t	B	1.20	81.6	69.6	63.6	55.2	54.0	51.6	50.4	46.8	42.0	38.4	33.6		
素材	m3	B	0.50	34.0	29.0	26.5	23.0	22.5	21.5	21.0	19.5	17.5	16.0	14.0		
鋼製型枠	m2	B	18.00	1,224.0	1,044.0	954.0	828.0	610.0	774.0	756.0	702.0	630.0	576.0	504.0		
木製型枠	m2	B	26.00	1,768.0	1,508.0	1,378.0	1,196.0	1,170.0	1,118.0	1,092.0	1,014.0	970.0	832.0	728.0		
水	m3	B	0.40	27.2	23.2	21.2	18.4	18.0	17.2	16.8	15.6	14.0	12.8	11.2		
緑化袋:(混土入り)	枚	B	80.00	5,440.0	4,640.0	4,240.0	2,680.0	3,600.0	3,440.0	3,360.0	3,120.0	2,800.0	2,560.0	2,240.0		
植生土のう	"	B	20.00	1,360.0	1,160.0	1,060.0	920.0	900.0	860.0	840.0	780.0	700.0	640.0	560.0		
セメント:肥料	t	B	0.30	20.4	17.4	15.9	13.8	13.5	12.9	12.6	11.7	10.5	9.6	8.4		
切り芝	束	C	80.00	5,440.0	4,640.0	4,240.0	3,680.0	3,600.0	3,440.0	3,360.0	3,120.0	2,800.0	2,560.0	2,240.0		
編柵用ビニール編板	m	C	350.00	23,800.0	20,300.0	18,550.0	16,100.0	15,750.0	15,050.0	14,700.0	13,650.0	12,250.0	11,200.0	9,800.0		
ワラムシロ(種肥付): 鋼鉄 グリーンマット	m2	C	250.00	17,000.0	14,500.0	13,250.0	11,500.0	11,250.0	10,750.0	10,500.0	9,750.0	8,750.0	8,000.0	7,000.0		
グリーンウォール:エキスパンドメタル	"	C	20.00	1,360.0	1,160.0	1,060.0	920.0	900.0	860.0	840.0	780.0	700.0	640.0	560.0		
稻わら:萱株	束	C	10.00	680.0	580.0	530.0	460.0	450.0	430.0	420.0	390.0	350.0	320.0	280.0		
粗ダ	"	C	5.00	340.0	290.0	265.0	230.0	225.0	215.0	210.0	195.0	175.0	160.0	140.0		
帶梢(22本束)	"	C	60.00	4,080.0	3,480.0	3,180.0	2,760.0	2,700.0	2,580.0	2,520.0	2,340.0	2,100.0	1,920.0	1,680.0		
編柵杭(木杭、パイプ杭)	本	C	50.00	3,400.0	2,900.0	2,650.0	2,300.0	2,250.0	2,150.0	2,100.0	1,950.0	1,750.0	1,600.0	1,400.0		
編柵杭(ビニール杭) 水路工(土のう、マット) 用杭	"	C	100.00	6,800.0	5,800.0	5,300.0	4,600.0	4,500.0	4,300.0	4,200.0	3,900.0	3,500.0	3,200.0	2,800.0		
グリーンベルト	枚	C	400.00	27,200.0	23,200.0	21,200.0	18,400.0	18,000.0	17,200.0	16,800.0	15,600.0	14,000.0	12,800.0	11,200.0		
ホーレスター	"	C	320.00	21,760.0	18,560.0	16,960.0	14,720.0	14,400.0	13,760.0	13,440.0	12,480.0	11,200.0	10,240.0	8,960.0		
薄ムシロ	m2	C	500.00	34,000.0	29,000.0	26,500.0	23,000.0	22,500.0	21,500.0	21,000.0	19,500.0	17,500.0	16,000.0	14,000.0		
苗木	本	C	3,000	204,000.0	174,000.0	159,000.0	138,000.0	135,000.0	129,000.0	126,000.0	117,000.0	105,000.0	96,000.0	84,000.0		

⑤ケーブル 4t以上5t未満 型(吊上げ+吊下げ=15M)

(5)

品目	単位	搬器区分	一般器可搬量	運搬距離(m)まで						4t以上5t未満 型					
				75m以下	76~125	126~175	176~225	226~275	276~325	326~375	376~425	426~500	501~600	601~700	
運搬回数	回			68	58	53	46	45	43	42	39	35	32	28	
砂利:砂	m3	A	0.90	61.2	52.2	47.7	41.4	40.5	38.7	37.8	35.1	31.5	28.8	25.2	
鋼鉄:鉄線蛇籠 諸資材	t	B	1.50	102.0	87.0	79.5	69.0	67.5	64.5	63.0	58.5	52.5	48.0	42.0	
土砂:玉石 野面石	m3	B	0.80	54.4	46.4	42.4	36.8	36.0	34.4	33.6	31.2	28.0	25.6	22.4	
コンクリートブロック	m2	B	3.10	210.8	179.8	164.3	142.6	139.5	133.3	130.2	120.9	108.5	99.2	86.8	
野面石・玉石	m2	B	3.10	210.8	179.8	164.3	142.6	139.5	133.3	130.2	120.9	108.5	99.2	86.8	
製材	m3	B	0.50	34.0	29.0	26.5	23.0	22.5	21.5	21.0	19.5	17.5	16.0	14.0	
コンクリート管:足場材	t	B	1.50	102.0	87.0	79.5	69.0	67.5	64.5	63.0	58.5	52.5	48.0	42.0	
素材	m3	B	0.50	34.0	29.0	26.5	23.0	22.5	21.5	21.0	19.5	17.5	16.0	14.0	
鋼製型枠	m2	B	21.00	1,428.0	1,281.0	1,113.0	966.0	945.0	903.0	882.0	819.0	735.0	672.0	588.0	
木製型枠	m2	B	30.00	2,040.0	1,740.0	1,590.0	1,380.0	1,350.0	1,290.0	1,260.0	1,170.0	1,050.0	960.0	840.0	
水	m3	B	0.40	27.2	23.2	21.2	18.4	18.0	17.2	16.8	15.6	14.0	12.8	11.2	
緑化袋:(混土入り)	枚	B	100.00	6,800.0	5,800.0	5,300.0	4,600.0	4,500.0	4,300.0	4,200.0	3,900.0	3,500.0	3,200.0	2,800.0	
植生土のう	"	B	25.00	1,700.0	1,450.0	1,325.0	1,150.0	1,125.0	1,075.0	1,050.0	975.0	875.0	800.0	700.0	
セメント:肥料	t	B	0.40	27.2	23.2	21.2	18.4	18.0	17.2	16.8	15.6	14.0	12.8	11.2	
切り芝	束	C	100.00	6,800.0	5,800.0	5,300.0	4,600.0	4,500.0	4,300.0	4,200.0	3,900.0	3,500.0	3,200.0	2,800.0	
編柵用ビニール編板	m	C	450.00	30,600.0	26,100.0	23,850.0	20,700.0	20,250.0	19,530.0	18,900.0	17,550.0	15,750.0	14,400.0	12,600.0	
ワラムシロ(種肥付): 鋼鉄 グリーンマット	m2	C	310.00	21,080.0	17,980.0	16,430.0	14,260.0	13,950.0	13,330.0	13,020.0	12,090.0	10,850.0	9,920.0	8,680.0	
グリーンウォール:エキスパンドメタル	"	C	25.00	1,700.0	1,450.0	1,325.0	1,150.0	1,125.0	1,075.0	1,050.0	975.0	875.0	800.0	700.0	
稻わら:萱株	束	C	15.00	1,020.0	870.0	795.0	690.0	675.0	645.0	630.0	585.0	525.0	480.0	420.0	
粗ダ	"	C	6.00	408.0	348.0	318.0	276.0	270.0	258.0	252.0	234.0	210.0	192.0	168.0	
帯梢(22本束)	"	C	90.00	6,120.0	5,220.0	4,770.0	4,140.0	4,050.0	3,870.0	3,780.0	3,510.0	3,150.0	2,880.0	2,520.0	
編柵杭(木杭、パイプ杭)	本	C	60.00	4,080.0	3,480.0	3,180.0	2,760.0	2,700.0	2,580.0	2,520.0	2,340.0	2,100.0	1,920.0	1,680.0	
編柵杭(ビニール杭) 水路工(土のう、マット) 用杭	"	C	130.00	8,840.0	7,540.0	6,890.0	5,980.0	5,850.0	5,590.0	5,460.0	5,070.0	4,550.0	4,160.0	3,640.0	
グリーンベルト	枚	C	500.00	34,000.0	29,000.0	26,500.0	23,000.0	22,500.0	21,500.0	21,000.0	19,500.0	17,500.0	16,000.0	14,000.0	
ホーレスター	"	C	400.00	27,200.0	23,200.0	21,200.0	18,400.0	18,000.0	17,200.0	16,800.0	15,600.0	14,000.0	12,800.0	11,200.0	
薄ムシロ	m2	C	630.00	42,840.0	36,540.0	33,390.0	28,980.0	28,350.0	27,090.0	26,460.0	24,570.0	22,050.0	20,160.0	17,640.0	
苗木	本	C	3,800	258,400.0	220,400.0	201,400.0	174,800.0	171,000.0	163,400.0	159,600.0	148,200.0	133,000.0	121,600.0	106,400.0	

(9) コンクリート運搬量

① 溝間工

(1日当たり)

区 分 運搬距離	レディミクストコンクリート				
	コンクリート型式				
	小型 胴込	I 300m ³ 未満	II 600m ³ 未満	III 1000m ³ 未満	IV 1000m ³ 以上
50m (75以下)	10.0	25.0	30.0	40.0	45.0
100m (76~125)	10.0	25.0	30.0	40.0	43.2
150m (126~175)	10.0	25.0	30.0	38.4	
200m (176~225)	10.0	25.0	30.0	33.6	
250m (226~275)	10.0	25.0	23.0	32.0	
300m (276~325)	10.0	25.0	28.8		
350m (326~375)	10.0	25.0	28.8		
400m (376~425)	10.0	25.0	27.2		
465m (426~500)	10.0	24.8			
550m (501~600)	10.0	21.6			
650m (601~700)	10.0	19.2			
750m (701~800)	10.0	16.8			
900m (801~1000)	10.0	15.2			

備考 1. 空欄の場合は、コンクリート型式を直近下位（横方式）とする

2. クレーン型式はミキサー1日練上量（レミコンの場合は標準打設量）以上の運搬能力のものを選定する。

②山腹工事

区分		レディミクストコンクリート		
運搬距離	小型 胴込	コンクリート型式		
		I 300m ³ 未満	II 600m ³ 未満	
50m (75以下)	10.0	25.0	30.0	
100m (76~125)	10.0	25.0	27.0	
150m (126~175)	10.0	24.0	24.0	
200m (176~225)	10.0	21.0	21.0	
250m (226~275)	10.0	20.0	20.0	
300m (276~325)	10.0	18.0	18.0	
350m (326~375)	10.0	18.0	18.0	
400m (376~425)	10.0	17.0	17.0	
465m (426~500)	10.0	15.5		
550m (501~600)	10.0	13.5		
650m (601~700)	10.0	12.0		
750m (701~800)	10.0	10.5		
900m (801~1000)	9.5	9.5		

2-8 ダンプトラック運搬

(1) 1時間当たりの運搬土量

時間当たり運搬土量（地山土量）の算定式は次のとおりとする。

$$V_t = \frac{60}{c\ m} \times q \times E \quad (\text{m}^3/\text{h})$$

V_t : 1時間当たり運搬量 (m^3/h)

q : 1台当たり積載土量 (m^3)

$c\ m$: 1サイクルの所要時間 (min)

E : 作業効率

1) 1台当たり積載土量 (q)

$$q = \frac{W}{w} \quad (\text{m}^3)$$

ただし、 W …ダンプトラックの許容積載質量 (t)

w …地山の単位体積質量 (t/m^3)

q の値は次表による。

土質	車種					地山の単位・体積質量 (KN/m ³)
	2t車	4t車	6t車	8t車	10t車	
粘性土・砂・砂質土・礫質土	m^3	m^3	m^3	m^3	m^3	18
軟岩	1.1	2.2	3.3	4.4	5.3	22
アスファルト・コンクリート塊	0.8	1.7	2.5	3.3	4.0	24
硬岩	0.8	1.6	2.4	3.2	3.8	25
玉石・礫類	1.2	2.5	3.7	5.0	6.0	16

備考 1 車種の選定に当たっては、現場条件等を考慮して決定すること。

2 地山以外のルーズは土質の積載土量は実態に応じて換算する。

2) ダンプトラック運転単価表

歩掛コードNo.		硬岩以外	硬岩	硬岩以外	硬岩	硬岩以外	硬岩
		2.0t	4.0t	4.0t	10t	10t	
	タイヤ良	3120	3123	3126	3129	3144	3147
〃普	3121	3124	3127	3130	3145	3148	
〃不良	3122	3125	3128	3131	3146	3149	

(1時間当たり)

名称	単位	2t	4t	6t	8t	10t	摘要
燃料費	ℓ	3.8	5.8	7.1	7.7	11.0	
一般運転手	人	0.17	0.17	0.17	0.17	0.17	
機械損料	h	1	1	1	1	1	損料+タイヤ損料

備考 1 タイヤ損料の良、普通、不良は路面の状況をいい、良は舗装率（舗装区間延長÷全区間延長）が50%以上の場合、不良は現場内、普通はその他の場合とする。

2-9 貨物自動車運搬

2-9-1 貨物自動車の運賃料金

- (ア) 貨物自動車の運賃料金は各運輸局が公示した「一般貨物運送事業の貸切り運賃」によるものとする。
- (イ) ダンプトラックの積込みは原則として機械積込みとし、実情に応じて積込み専用機械を計上することができる。
- (ウ) 一車当たりの標準積載量は下表による。ただし、土石、コンクリート骨材等で単位当たり重量が測定されているものはその重量によって積算する。

2-9-2 貨物自動車標準積載量

品 目	規格・荷姿	単位	積 載 量			
			2t車	4t車	8t車	11t車
木 材	素 材	m ³	2.5	5.0	10.0	13.8
リ	製 材	リ	3.0	6.0	12.0	16.5
足 場 丸 太		本	—	240	480	660
セ メ ン ト	40kg入	袋	50	100	200	275
鉄筋コンクリート管	300mm	本	—	35	69	95
ヒ ュ 一 ム 管	300mm	リ	—	19	37	51
エタニットパイプ	150mm	リ	—	45	89	123
U 字 溝	240mm	箇	—	80	160	220
鋼 材		t	2	4	8	11
雜 割 石	控 長35cm	m ³	4.2	8.5	16.9	23.3
野 面 石	リ 30cm	リ	4.8	9.5	19.0	26.2
リ	リ 35cm	リ	4.7	9.4	18.8	25.8
リ	リ 40cm	リ	4.6	9.3	18.6	25.5
コンクリート積フロック	リ 35cm	リ	5.7	11.4	22.9	31.4
そ だ ・ 薩 株	1m繩〆	束	100	200	400	550
帶 梢	リ	リ	40	80	160	220
苗 木	スギ長35~45cm	本	10,400	31,200	44,600	63,600
	ヒノキ リ	リ	13,400	40,200	53,600	77,100
	アカマツ リ	リ	18,000	54,000	72,600	104,300
	カラマツ及び肥料木	リ	17,300	52,000	96,300	126,700

備考 1 本表に掲げる品目以外の品目の標準積載量は現地の実情、過去の実績等を考慮の上決定する。

2-9-3 トラックミキサー（アジテータトラック）運搬

(ア) 1時間当たり運搬量計算式

$$Q = \frac{60 \cdot q \cdot E}{c m}$$

Q = 1時間当たり運搬量 (m^3/h)

q = 1台当たり積載量

小型 積載量 $1.7 m^3$

大型 " $4.5 m^3$

E = 作業効率 = 1.0

$c m$ = サイクルタイム (min) (小数点以下四捨五入単位止)

$$60 (T_1 + T_2) + t_1 + t_2 + t_3$$

T_1 = 往路に要する時間 (h)

T_2 = 復路に要する時間 (h)

$$T_1, T_2 = \frac{D_1}{V_1} + \frac{D_2}{V_2} \dots \frac{D_n}{V_n}$$

$D_1 \cdot D_2 \cdot D_n$ = 速度別区間距離 (km/h)

$V_1 \cdot V_2 \cdot V_n$ = 区間別平均車速 (km/h)

標準車速 現場内 $10 km/h$

一般道路 $20 km/h$

t_1 = 積込時間 (min) = 小型15 (min)

大型18 (min)

t_2 = 荷卸時間 (min) = 3min

t_3 = 積込準備時間 (min) = 1min

(イ) 運転歩掛表

(1時間当たり)

歩掛コードNo.	車種	機種 (m^3)	機械損料	燃料費 (軽油)	一般運転手
3260	小型 (4t)	1.7	1時間	8.1ℓ	0.20人
3261	大型 (10t)	4.5	1時間	13.0	

(ウ) 距離別運搬作業量

(m³/時)

片道運搬距離	走行速度	10km/h (現場内)		20km/h (一般道路)	
		車種	小型	大型	小型
			1.7 m ³	4.5 m ³	1.7 m ³
0.1km	5.1		11.7		5.1
0.2	4.9		11.3		5.1
0.3	4.4		10.4		4.9
0.4	4.3		10		4.9
0.5	4.1		9.6		4.6
0.6	3.9		9.3		4.4
0.7	3.8		9		4.4
0.8	3.5		8.4		4.3
0.9	3.4		8.2		4.3
1	3.3		7.9		4.1
1.1	3.2		7.7		3.9
1.2	3.1		7.5		3.9
1.3	2.9		7.1		3.8
1.4	2.8		6.9		3.8
1.5	2.8		6.8		3.6
1.6	2.7		6.6		3.5
1.7	2.6		6.4		3.5
1.8	2.5		6.1		3.4
1.9	2.4		6		3.4
2	2.4		5.9		3.3
2.1	2.3		5.7		3.2
2.2	2.3		5.6		3.2
2.3	2.2		5.4		3.1
2.4	2.1		5.3		3.1
2.5	2.1		5.2		3
2.6	2		5.1		2.9
2.7	2		5		2.9
2.8	1.9		4.8		2.8
2.9	1.9		4.7		2.8
3	1.9		4.7		2.8
3.1	1.8		4.6		2.7
3.2	1.8		4.5		2.7
3.3	1.7		4.4		2.6
3.4	1.7		4.3		2.6
3.5	1.7		4.2		2.6
3.6	1.6		4.2		2.5
3.7	1.6		4.1		2.5
3.8	1.6		4		2.4
3.9	1.5		3.9		2.4
4	1.5		3.9		2.4
					5.9

- 備考 1. 運搬材料は容易にトラックを据付けられる位置において、容易に積載しうる状態にあるものとする。
2. 新設中の道路内、河床路は現場内を適用
既設林道等は一般路適用

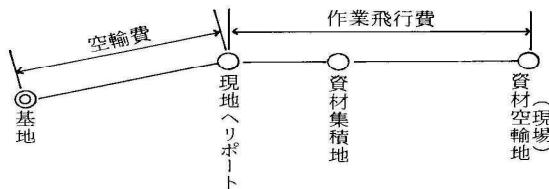
2-10 ヘリコプターによる資材運搬

(1) 飛行経費

飛行経費は、空輸費、作業飛行費、試験飛行費及び夜間繫留ヘリポートと荷積み地間の飛行費とする。

※ 空輸費及び作業飛行費の範囲は下図のとおりとする。

1) 空輸費



基地から現地ヘリポートに移動する経費をいい、次式によって算出し、共通仮設費に計上する。

$$\text{空輸費} = (\text{標準空輸距離}) \div \text{空輸飛行速度 (km/hr)} \times 1 \text{ 時間当たりの空輸料金}$$

備考 1 基地は、旭川、秋田、仙台、東京、名古屋、大阪、高松、福岡、鹿児島とし、最寄りの基地を選定する。

2 空輸距離は基地から荷積み地までの直線距離を原則とし、ヘリコプター機体移動標準距離表を参考として決定する。

2) 作業飛行費

実運搬作業に要する経費をいい、次式によって算出し、直接工事費に計上する。

$$\text{単位重量当たり運搬費} = 1 \text{ 回当たり作業飛行時間} \times 1 \text{ 時間当たり作業飛行料金} \\ \div 1 \text{ 回当たり積載量}$$

備考 1 1回当たり作業飛行時間は、次式によって算出する。

ア 荷積み地～荷卸し地間の勾配が1/10以下の場合

$$(\text{実搬水平距離} \div \text{実搬飛行速度}) + (\text{空搬水平距離} \div \text{空搬飛行速度}) + \text{荷の吊り上げ吊り下げ時間}$$

イ 荷積み地～荷卸し地間の勾配が1/10を超える場合

$$\text{アの } 1 \text{ 回当たり作業飛行時間} + \text{上昇時間}$$

但し、上昇時間は次式によって算出する。

$$(H - 0.1L) \div \text{上昇速度}$$

L : 片道水平距離(m)

H : 積卸し地点間の標高差(m)

(上昇速度 : (2)の2)による。)

荷卸し地点の標高が荷積み地点の標高より低い場合は、上昇時間を下降時間と読み替えて上の式を摘要する。

2 荷の吊上げ吊下げ時間は、1回の飛行についてそれぞれ30秒とし、機械類の運搬については、45秒とする。但し10m以上の長吊りについては、10mについてそれぞれ1分加算する。

3 飛行時間は秒単位まで算出する。

3) 飛行試験費

4) 夜間繫留ヘリポートと荷積み地間の飛行費

(2) 積上げ共通仮設費の積算

ヘリコプターにかかる積み上げ共通仮設費の積算は次による。

- 1) 運搬費
- 2) 準備費

ア 試験飛行費

イ 待機日

天候及びその他の支障により作業飛行不可能な日であって10日に3日を休止日とする。

待機日1日当たりの所要経費は、1時間あたりの空輸料金を計上する。

日数計算は次による。

$$\{[(\text{作業飛行時間} + \text{試験飛行時間}) \div 4] \div 10\} \times 3 = \text{待機日}$$

ウ 夜警費

夜警費は、夜間におけるヘリコプターの夜警に掛かる経費であり、普通作業員を夜警日1日当たり1人を計上する。夜警日の日数は繫留日数と待機日をあわせた日数とする。

なお、繫留日数は(3)-4)の夜間繫留ヘリポートと荷積み地間の飛行日の繫留日数とするが、ヘリポート間を飛行しない場合においても繫留が必要な場合は、繫留日数の算出方法と同様の内容で算出するものとする。

$$(\text{作業飛行時間} + \text{試験飛行時間}) \times 1/4 \times \{1 + (3/10)\} = \text{夜警日数(小数第1位四捨五入)}$$

$$\text{夜警日数} \times \text{普通作業員単価} = \text{夜警費}$$

エ 荷卸し地の整備

荷卸し地の面積は、1,600m²を標準とし、必要に応じて伐倒、刈払い等の経費を計上する。

- 3) 役務費
- 4) 営繕損料
- 5) 安全費

第3 コンクリート工

3-1 コンクリート工

3-1-1 適用範囲	(治山林道必携)
3-1-2 コンクリート打設工法の選定	(〃)
3-1-3 材料の使用量	(〃)
3-1-4 無筋・鉄筋構造物コンクリートポンプ車打設	(〃)
3-1-5 無筋・鉄筋構造物人力打設	(〃)
3-1-6 小型構造物クレーン車打設	(〃)
3-1-7 小型構造物人力打設	(〃)
3-1-8 養生工	(〃)

3-1-9 養生工（特殊養生）

参考 コンクリート養生(清水)

養生水(清水)として流水以外を使用する場合は、コンクリート10m³当たり300を別途加算する。

備考 1 水の材料割増率は10%とする。

2 水の運搬費は、「共通工 第2運搬工」により算出する。

3-1-10 鉄筋工	(治山林道必携)
3-1-11 型枠工	(〃)
3-1-12 足場・支保工	(〃)
3-1-13 単価表	(〃)
3-2 型枠工	(〃)
3-3 モルタル練	(〃)
3-4 鉄筋工	(〃)

第4 共通工（1）（溝渠工・法枠工等）

4-1 溝渠工（水路工）

4-1-1 適用範囲

本歩掛は、プレキャスト製品によるL型側溝、ヒューム管、ボックスカルバート、集水枠、暗渠排水管、コルゲートパイプ、コルゲートフリューム、鉄筋コンクリート台付管の据付作業の施工に適用する。

地すべり防止施設及び山腹工等斜面の水路工については、「第2編治山 3-14 山腹水路工」を適用する。

4-1-2 施工概要 (治山林道必携)

4-1-3 機種の選定 (〃)

4-1-4 L型側溝 (〃)

4-1-5 ヒューム管

(1) ヒュームB形管（ソケット管）

ヒュームB形管（ソケット管）据付歩掛は次表とする。

(10m当たり)

歩掛コードNo.	3868	3870	3872	3874	3876	3878	3880
----------	------	------	------	------	------	------	------

管 径 (mm)		150	200	300	400	500	700	800	1,100
名 称	単 位								1,200
世 話 役	人	0.3	0.2	0.2	0.4	0.4	0.6	0.7	1,350
特殊作業員	〃	0.3	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	
山林砂防工 (普通作業員)	(〃)	0.7	0.4	0.4	0.7	0.7	1.0		1.4
バックホウ(クレーン機能付)運転	h	-	2.4		3.1		3.8		-
ラフテレンクレーン運転	日	-	-		-		-		0.5
諸 雑 費 率	%	31							
ケーブルクレーン運転	日	-	0.18	0.27	0.33	0.43	0.53	0.63	

備考 1 歩掛は、運搬距離30m程度までの小運搬を含む据付作業であり、床掘、基礎碎石、巻きコンクリート、埋戻し、残土処理は含まない。

2 バックホウ（クレーン機能付）の規格は「4-1-3 機種の選定」による。

3 ラフテレンクレーンは賃料とし規格は「4-1-3 機種の選定」による。

4 上表歩掛は、仮設に使用する場合も適用できる。

5 撤去歩掛は据付歩掛の50%とする。

6 諸雑費は、目地モルタル、ヒューム管損失分の費用、カッターブレード損耗費、レバーブロック損料、コンクリートカッタ運転経費等の費用であり、労務費、賃料、機械損料及び運転経費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(2) ヒューム管用巻コンクリート (治山林道必携)

4-1-6 ボックスカルバート (〃)

4-1-7 集 水 枠 (〃)

4-1-8 コルゲートパイプ (〃)

4-1-9 暗渠排水管 (〃)

4-1-10 コルゲートフリューム (〃)

4-1-11 鉄筋コンクリート台付管 (〃)

4-1-12 単価表 (治山林道必携)
 4-2 法面工 (〃)

4-3 モルタル・コンクリート吹付工

4-3-1 留意事項 (治山林道必携)
 4-3-2 モルタル吹付工 (〃)
 4-3-3 コンクリート吹付工 (〃)
 4-3-4 特殊配合モルタル吹付工A (〃)
 4-3-5 特殊配合モルタル吹付工B (〃)

4-3-6 特殊配合モルタル吹付工C

(1) 金網張が有の場合

① 適用範囲

この歩掛は、風化・亀裂の発達した脆弱な露岩斜面に金網を張り特殊配合モルタルを亀裂内部及び表面に吹き付け、法面保護を行う工法に適用する。

② 施工歩掛

歩掛コードNo.	4008 4014	4010 4016	4012 4018
----------	--------------	--------------	--------------

(100m²当たり)

名 称	単位	数 量			摘要
		4cm	6cm	8cm	
世 話 役	人	2.3	2.6	2.8	
法 面 工	〃	6.4	6.9	7.4	
特 殊 作 業 員	〃	2.4	2.9	3.4	
山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)	〃 (〃)	4.5	5.0	5.5	
モルタルコンクリート吹付機運転	h	8.0	9.7	11.4	
空 気 圧 縮 機 運 転	日	1.7	2.0	2.2	
発 動 発 電 機 運 転	〃	1.8	2.1	2.3	
ベ ル ト コ ン ベ ア 損 料	〃	1.4	1.7	1.9	
小 型 ポ ン プ 損 料	〃	1.2	1.5	1.7	揚水用 φ50mm
計 量 器 損 料	〃	1.2	1.5	1.7	
諸 雜 費 率	%	5			労務費に対する率

- 備考 1 4-3-4 特殊配合モルタル吹付工A (4)-1)施工歩掛の備考1、2及び4～5を準用する。
 2 諸雑費は、吹付機のホース及び仮設ロープの損料、電気ドリル損料、法面清掃による発生する残土処理費（積込み、運搬）等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
 3 吹付は2回とし、1回目は亀裂への充填吹き、2回目は表面吹きとする。本表の数量欄は2回目の吹付量による区分であり、1回目及び2回目の合計数量を示すものである。
 4 本歩掛には、法面清掃、金網張を含む。
 5 ラス張が不要な場合は、100m²当たり世話役0.6人、法面工2.2人、山林砂防工(普通作業員)1.2人及び発動発電機運転0.6日を減じた数量を計上する。

③ 吹付材料配合表

歩掛コード No.	4004	4005	4006	4007
-----------	------	------	------	------

(100m²当たり)

名 称	規 格	単位	第 1 回 吹付け	第 2 回吹付け		
				4cm	6cm	8cm
接 着 剤	エ チ レ ン 系 樹 脂	kg	24.9	37.0	55.0	74.0
セ メ ン ト	普 通 ポ ル ト ラ ン ド	〃	248.2	1,852	2,779	3,705
砂	φ 5 m m 以 下	m ³	—	4.8	7.3	9.7
水	清 水	ℓ	248.2	928	1,393	1,857

備考 1 本表の第1回吹付量は100m²当たり330ℓとする。

2 本表は、6%の第1回吹付ロス分及び10%の第2回吹付ロス分を含む。

3 着色剤の添加量は、第2回吹付のセメント量の2%を標準とする。

(2) 金網張が無の場合

① 適用範囲

この歩掛は、特殊配合モルタル吹付工Cの施工にあたって金網張が不要となる場合に適用する。

② 施工歩掛

歩掛コード No.	4020	4022	4024
	4026	4028	4030

(100m²当たり)

名 称	単位	数 量			摘 要
		4cm	6cm	8cm	
世 話 役	人	1.7	2.0	2.2	
法 面 工	〃	4.2	4.7	5.2	
特 殊 作 業 員	〃	2.4	2.9	3.4	
山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)	〃 (〃)	3.3	3.8	4.3	
モルタルコンクリート吹付機運転	h	8.0	9.7	11.4	
空 気 圧 縮 機 運 転	日	1.7	2.0	2.2	
発 動 発 電 機 運 転	〃	1.2	1.5	1.7	
ベ ル ト コ ン ベ ア 損 料	〃	1.4	1.7	1.9	
小 型 ポ ン ブ 損 料	〃	1.2	1.5	1.7	揚水用 φ 50mm
計 量 器 損 料	〃	1.2	1.5	1.7	
諸 雜 費 率	%	5.0			労務費に対する率

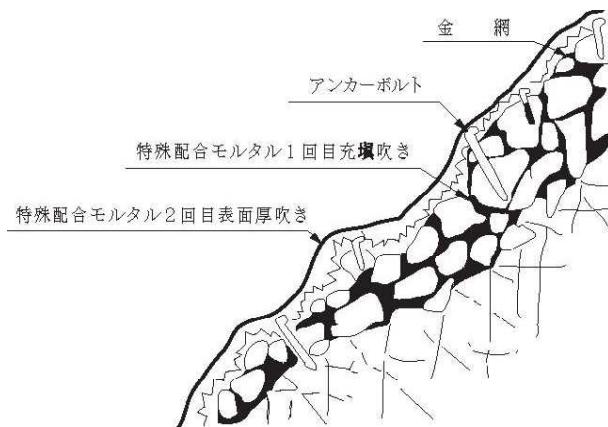
備考 1 4-3-4 特殊配合モルタル吹付工A(4)-1)施工歩掛の備考1、2及び4~5を準用する。

2 吹付は2回とし、1回目は亀裂への充填吹き、2回目は表面吹きとする。

本表の数量欄は2回目の吹付量による区分であり、1回目及び2回目の合計数量を示すものである。

③ 吹付材料配合表

4-3-6 (1) 金網張が有の場合の③を適用する。



(参考) 標準施工図

4-4 植生基材吹付工

4-4-1 植生基材吹付工・特殊植生基材吹付工

参考

植生基材吹付工における植生基材材料表

ア 植生基盤材は次表を標準とする。

(100m²当たり)

名 称	単位	数 量					備 考
		厚さ1cm	厚さ2cm	厚さ3cm	厚さ4cm	厚さ5cm	
生育基盤材等	m ³	1.3	2.6	3.9	5.2	6.5	基礎単価 1035
肥 料	kg	7.8	15.6	23.4	31.2	39.0	基礎単価 1075

- 1) 生育基盤材 1.0m³当たり 2,000L使い
- 2) 生育基盤材等は、粘着材、養生材をふくむ。
- 3) 肥料成分割合は、概ねN-15 P-15 K-15とする。
- 4) 本表は補正後の数量である。

4-4-2 客土吹付工・特殊植生基材客土吹付工……………(治山林道必携)

4-4-3 客土吹付特殊工 ………………(〃)

4—5 種子吹付工

(1) 吹付材料

吹付材料は現地の状況に応じて積算するが、標準は次のとおり。

材料のロス、手直し等による割増率は20%を標準とする。 (100m²当たり)

材 料	内 容	数 量	摘 要
種 子	各種別途選定		参考資料の「1 緑化等の播種量の算定」を参照すること。 なお、積算時には算定数量を20% 割増しとする。
肥 料	N15 P15 K15	20.0 kg	数量は20%割増済
養 生 剤	ファイバー	15.0 "	"
緑化基盤材	パーク堆肥系	50.0 ℥	"
侵食防止剤	ルナゾール	1.0 kg	"

(2) 単価表

1) 種子吹付工100m²当たり単価表

名 称	規 格	单 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	0.1	4—5—(4)
法 面 工		"	0.2	"
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		" (")	0.2	"
種 子	肥料、養生材等を含む	m ²	120	"
種子吹付機運転	(車載式、種子専用) 2.5 m ³	h	0.6	"
トラック 運転	4.0~4.5 t 積	"	0.6	"
諸 雜 費 率		式	1	"
計				

2) 客土吹付工100m²当たり単価表

名 称	規 格	单 位	数 量	摘 要
世 話 役		人	0.3	4—4—2—(3)
法 面 工		"	0.4	"
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		" (")	0.7	"
客 土	種子、肥料、養生材等を含む	m ³		"
種子吹付機運転	(車載式、客土専用) 4.0 m ³	h	1.7	"
トラック 運転	8.0 t 積	"	1.7	"
諸 雜 費 率		式	1	"
計				

3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
種子吹付機	(車載式、種子専用) 2.5m ³	機-13	
〃	(車載式、客土専用) 4.0m ³	機-13	
トラック	4.0t～4.5t積	機-6	
〃	8.0t積	機-6	
モルタルコンクリート 吹付機	湿式 0.8～1.2m ³ /h	機-13	
空気圧縮機	可搬式エンジン 10.5～11.0m ³ /min	機-16	燃料消費量→105 賃料数量→1.75
発動発電機	ディーゼルエンジン駆動 13/15kVA	機-16	燃料消費量→20 賃料数量→1.09

4) 種子吹付機運転歩掛

項目	名称	規格	単位	数量		摘要
				トラック 4～4.5t	種子吹付機 車載式 2,000～3,000ℓ	
材料費	燃料費	軽油	ℓ	1時間当たり 5.9	1時間当たり 4.2	
労務費	運転手	一般	人	0.21	—	
機械損料			時、日	1	1	

備考 運転手(一般)は、ミキサ、吹付ポンプの助手も兼ねるものとする。

5) 単価表(例)

(100m²当たり)

名称	形状	数量	単位	備考
種子	混合		kg	参考資料参照
肥料	高度化成N15:P15:K15	20.00	〃	割増率20%
養生剤	ファイバー類	15.00	〃	〃
緑化基盤材	パーク堆肥系	50.00	ℓ	〃
侵食防止剤	ルナゾール	1.00	kg	
小計				
機械経費	種子吹付機	0.6	h	車載式2.5m ³
トラック運転経費	普通4～4.5t	0.6	〃	
世話役		0.1	人	
山林砂防工 (普通作業員)		0.2	〃 (〃)	混合
法面工		0.2	〃	吹付
諸雜費率		0.4	%	労務費の0.4%
計				

- 4—6 植生ネット工 (治山林道必携)
4—7 植生工 (〃)
4—8 (参考歩掛) 斜面安定工 (〃)

第5 共通工（2）（土留工・擁壁工等）

- 5-1 石材及び骨材の分類〔参考〕 (治山林道必携)
 5-2 石材採取歩掛 (〃)
 5-3 骨材等採取及び洗浄歩掛け (〃)
 5-4 巨石、コンクリートブロック積（張）工
 5-4-1 巨石積（張）工 (治山林道必携)
 5-4-2 コンクリートブロック積（張）工
 (1) コンクリートブロック積工
 1) 普通作業員を適用する 150kg/個未満の間知ブロック積工については、市場単価方式により積算する。（「第9 市場単価 9-12 コンクリートブロック積工」を参照）
 2) 山林砂防工を適用する 150kg/個未満の間知ブロック積工歩掛けは次表とする。

歩掛けコード No.	ブロック 質 量	コンクリートブロック積工歩掛け				(10m ² 当たり)
		名 称	規 格	単位	ブロックの種類 間知ブロック	
4077 [4075] 《4073》	150kg／個 未 満	世 話 役		人	0.2	
		ブ 口 ツ ク 工		〃	0.7	
		山 林 砂 防 工		〃	1.2 〔1.4〕 《1.8》	
		ラフテレンクレーン運転	油 圧 伸 縮 ジブ型16t吊	日	0.4	
		諸 雜 費 率	%		(3)	

- 備考 1 () の諸雑費は、水抜きパイプ及び吸出防止材を設置した場合の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じて得た金額を上限として計上する。
 2 ラフテレンクレーンの運転は、コンクリートブロック及び裏込材等の吊り上げ吊り下げ作業を含む。
 3 ラフテレンクレーンの運転は、賃料とする。なお現場条件等により16t吊りで施工が不可能な場合は、規格以上で最適の機種を選定するものとする。
 4 運搬距離20m程度の人力による小運搬を含む。
 5 山林砂防工の労務歩掛けは、ケーブルクレーンによりコンクリートブロック及び裏込材等の吊り上げ吊り下げ作業を行う場合〔 〕書を適用できるものとする。また、クレーン等の荷揚げ機械が使用できず人力により行う場合は、《 》書きを適用できるものとする。なお、これらの場合はラフテレンクレーンの賃料は計上しないものとする。
 6 現場条件により特に足場が必要な場合は別途計上することができる。
 7 コンクリートブロックの再利用を目的とする場合の撤去費は、設置費の50%とする。
 8 裏込栗石平均厚が50cm以上の場合、山林砂防工（普通作業員）は本表の1割増しとすることができる。
 9 既設築石を裏込栗石に使用する場合は、築石 1 m³当たり山林砂防工（普通作業員）0.5人を計上することができる。
 10 基礎コンクリート工は、基礎地盤が岩盤等で堅固な場合は省略する。
 11 伸縮目地は、延長20m以上になるときは、10~15mに1箇所程度の縁切りを設ける。

(2) コンクリートブロック張工

コンクリートブロック張工歩掛は次表とする。

コンクリートブロック張工歩掛

歩掛コードNo.	4096	4098	4100
----------	------	------	------

(10m²当たり)

ブロック 質量	名 称	規 格	単位	ブロックの種類		
				間知ブロック	平ブロック	連節ブロック
150kg/個 未 満	世 話 役		人	0.1	0.1	0.1
	ブ ロ ッ ク 工		〃	0.2	0.2	0.2
	特 殊 作 業 員		〃	0.2	0.1	0.1
	山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)		〃 (〃)	0.4	0.4	0.6
	ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型 25t吊	日	0.3	0.2	0.2
	諸 雜 費 率	%	—	(21)	1	

150kg/個 以 上	世 話 役		人	0.1	0.1	0.1
	ブ ロ ッ ク 工		〃	0.3	0.2	0.2
	特 殊 作 業 員		〃	0.1	0.1	0.2
	山 林 砂 防 工 (普 通 作 業 員)		〃 (〃)	0.3	0.2	0.4
	ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型 25t吊	日	0.2	0.1	0.2
	諸 雜 費 率	%	—	(26)	2	

- 備考 1 平ブロックの施工歩掛には、連結金具の組立歩掛を含む。ただし、連結金具は必要により別途計上する。
- 2 平ブロックの()内の諸雑費は、目地モルタルを使用した場合の材料費であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 3 連節ブロックの連結方式は鉄筋又は鋼線によるものとし、連結金具を使用する場合は別途考慮するものとする。
- 4 連節ブロックの施工歩掛には、鉄筋又は鋼線の加工・組立、溶接等の歩掛を含む。ただし、鉄筋又は鋼線は必要により計上とし、使用量は設計量×1.03とする。
- 5 連節ブロックの諸雑費は、溶接機の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 6 ラフテレーンクレーンの運転は、コンクリートブロック、胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込材の吊上げ吊下げ作業を含む。
- 7 ラフテレーンクレーンは、賃料とする。なお現場条件等により25t吊で施工が不可能な場合は、規格以上で最適の機種を選定するものとする。
- 8 運搬距離30m程度の小運搬を含む。
- 9 現場条件により特に足場が必要な場合は別途計上することができる。
- 10 既設築石を裏込栗石に使用する場合は、築石1m³当たり山林砂防工(普通作業員)0.5人を計上することができる。
- 11 基礎コンクリート工は、基礎地盤が岩盤等で堅固な場合は省略する。
- 12 伸縮目地は、延長20m以上になるときは、10~15mに1箇所程度の縁切りを設ける。

(3) 板状排水材取付け歩掛 (石積、ブロック積用)

歩掛コード No.	(4114), (4116)
-----------	----------------

(1m²当たり)

種別	規格	数量	単位	摘要
板状排水材	カルドレーン30cm幅	3.33	m	1mは0.3m ² 、 $1.0 \div 0.3 = 3.33$ m
"	カルドレーン、ジョイナーP	0.33	箇	3m ² 当たり1本、 $1.0 \div 3.0 = 0.33$ ヶ
"	" " H	0.40	"	
山林砂防工 (普通作業員)		0.03	人 (〃)	カルドレーン加工、張付け

- 備考 1 ジョイナーPは、水抜の接続用で3m²当たり1箇使用とする。
 2 ジョイナーHは、カルドレーンの水平継目用で5mの間隔に千鳥状に配置する。
 3 本表は延長10m以上の構造物の標準数量で、延長10m未満の構造物でジョイナーHの数量が実態に合わない場合は0.50ヶ/m²とする。
 4 床掘及び埋戻しについては、山林砂防工(普通作業員)0.25人/m²を標準として積算することができる。
 5 ジョイナーPのみを使用する場合は、山林砂防工(普通作業員)0.02人/m²とする。

(4) 脳木基礎工歩掛

(10m当たり)

種類	松丸太	松丸太	ボルト	型わく工	普通作業員
規格	長3.6m 末口12cm	長1.0m 末口9cm	長24cm 径12mm		
種類	土台木用	杭木および桟木用			
一本土台	(3.0本) 0.16m ³				0.30人
止杭一本土台	(3.0) 0.16	(10本) 0.08m ³	(10本) 3.71kg	0.20人	0.20
片梯子土台	(3.0) 0.16	(10) 0.08	(10) 3.71	0.20	0.30
梯子土台	(6.0) 0.31	(10) 0.08	(20) 7.42	0.50	0.50

備考 止杭一本土台の杭打歩掛は別に加算する。

5-5 基礎・裏込工

- 5-5-1 基礎・裏込碎石工 (治山林道必携)
 5-5-2 基礎・裏込栗石工 ("")
 5-5-3 基礎・裏込・中詰(碎石・栗石)工 (人力施工)

(1) 適用区分

この歩掛は、人力施工による無筋構造物、鉄筋構造物、小型構造物の基礎・裏込・中詰碎石及び栗石工に適用する。

適用区分は下記を標準とする。

区分	構造物の種類
基礎	構造物の基礎に使用する場合。
裏込	積(張)工、擁壁、護岸の裏込に使用する場合。
中詰	法枠工等の中詰に使用する場合。

- 5-6 鉄筋コンクリート片法枠工歩掛 (治山林道必携)
 5-7 鋼製枠工歩掛 (〃)
 5-8 鋼製落石防止柵・壁組立て歩掛 (〃)
 5-9 落石防護柵工
 5-9-1 落石防護柵(ストーンガード)設置工 (治山林道必携)
 5-9-2 落石防止網(ロックネット)設置工 (〃)
 5-9-3 鋼製落石防止柵工(直立式)

(1) 古タイヤ取付歩掛

作業職種	歩掛	結束用鉄線
山林砂防工		10#
(普通作業員)	2.09人／100本	75kg／100本

備考 1 本表には20m以内の小運搬を含む

2 タイヤ孔加工を含む。

3 乗用車のタイヤ程度使用。

参考

古タイヤ取付歩掛に伴う数量算出例

※ 落石防護工等のクッション材として使用する場合に適用する。

① 乗用車のタイヤ、平均外径 $\phi = 0.65\text{m}$ の場合張付斜面積(10m²当たり)

$$10.0\text{m}^2 \div (0.65 \times 0.65) = 23.66 \approx 23.7\text{本}$$

23.7 × 1 = 23.7本 1段張付

23.7 × 2 = 47.4本 2段張付

23.7 × 3 = 71.1本 3段張付

② 1段張付、2段張付、3段張付の場合は、次による。

1段張付	鉄線	17.8kg	山林砂防工(普通作業員)	0.50人
2段張付	〃	35.6kg	〃	0.99〃
3段張付	〃	53.3kg	〃	1.49〃

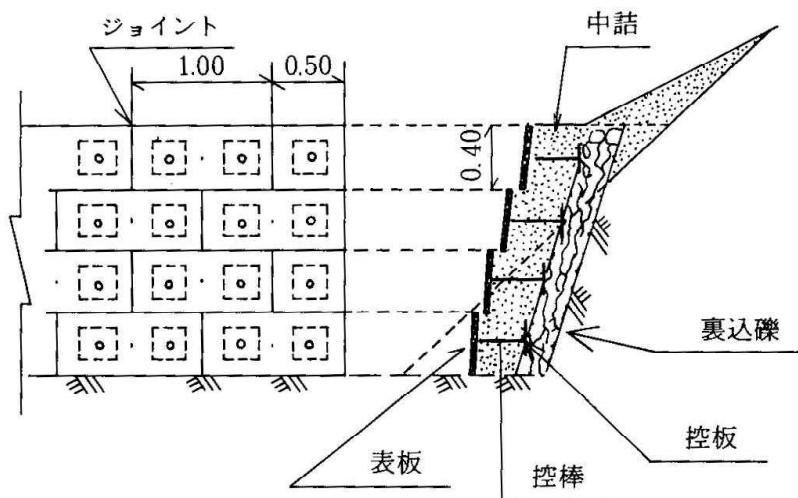
- 5-9-4 固定工(ロープ伏工) (治山林道必携)
 5-9-5 高エネルギー吸収柵工 (〃)
 5-10 井桁ブロック土留工歩掛 (〃)
 5-11 エキスパンドメタル擁壁工 (〃)
 5-12 L型プレキャスト擁壁工 (〃)
 5-13 擁壁工(補強土壁工) (〃)
 5-14 (参考歩掛) ジオテキスタイル工 (〃)

5-15 コンクリート板土留工

(10m²当たり)

名 称	形 状・寸 法	単位	数 量	摘 要
コンクリート板	100×40×3cm	組	25.0	1組表板、控板、控棒、止ビン
裏込礫	径2~10cm	m ³	3.0	
世話役		人	0.5	
山林砂防工 (普通作業員)		"	1.5 (〃)	組立て

- 備考 1. ソイルコンクリート使用 (1m²当たり 0.4m³使い) の場合は、山林砂防工(普通作業員)を2.5人とする。
2. ソイルコンクリートの配合、練り上げは、別途計上する。
3. 裏込礫投入歩掛は別途計上する。



(1) ソイルコンクリート機械練歩掛

(1m³当たり)

種 別	規 格	数 量	単位	摘 要
セメント		200.0	kg	
ソイル	5mm 以下	1,670.0	"	現地採取
ガソリン		0.29	L	
雑 材 料		1	式	ガソリン金額の20%
特殊作業員		0.13	人	
山林砂防工 (普通作業員)		0.88 (〃)	"	
内訳{		0.50	"	ソイル採取ふるい分小運搬
		0.38	"	配合練合せ一切
機械損料		0.13	日	0.1m ³ ミキサー

- 備考 1. ソイルの含水比が15.5% を標準として積算してあるので含水比が15.5% 以下の場合は必要に応じて混合水を積算する。
2. ソイルの採取の難易により3割以内の増減ができる。
3. セメントは損失量を1% とする。

(2) ソイルコンクリート手練歩掛

(1 m³当たり)

種別	規格	数量	単位	摘要
セメント		200.0	kg	
ソイル	5mm 以下	1670.0	〃	現地採取
山林砂防工 (普通作業員)	内訳	1.6	人	
		0.5	〃	ソイル採取ふるい分け一切
		1.1	〃	配合練合せ一切

- 備考 1. ソイルの含水比は15.5% を標準として積算してあるので含水比が15.5% 以下の場合は必要に応じて混合水を積算する。
2. ソイルの採取の難易により3割以内の増減ができる。
3. セメントは損失量を1% とする。

5-16 鋼製編柵(エキスパンドメタル編柵)工 (治山林道必携)

5-17 (参考歩掛) 簡易鋼製擁壁工 (〃)

5-18 かご工(B) (〃)

5-19 かご枠工 (〃)

5-20 大型ふとんかご工 (〃)

5-21 (参考歩掛) 石積(張)工

5-21-1 空石積工歩掛 (治山林道必携)

5-21-2 練石積工歩掛 (1 m²当たり)

材種 職種及 び数量 控長	30cm					35cm					40cm					
	世 話	石 数	(山 普 通 砂 作 防 業 工 員)	個 数	胴 込 コ ト ン 量	世 話	石 数	(山 普 通 砂 作 防 業 工 員)	個 数	胴 込 コ ト ン 量	世 話	石 数	(山 普 通 砂 作 防 業 工 員)	個 数	胴 込 コ ト ン 量	
	役 工				m ³	人	人	(0.34)	個 数	m ³	人	人	人	(0.36)	個 数	m ³
雑割石	人	人	人	個	m ³	人	人	(0.34)	個 数	m ³	人	人	人	(0.36)	個 数	m ³
野面石又は、	—	—	—	—	—	0.04	0.15	0.38	13	0.18	—	—	—	(0.36)	—	—
雑石	0.03	0.11	0.31	21	0.10	0.03	0.12	0.36	16	0.12	0.04	0.15	0.40	14	0.13	

備考 1. 水抜パイプ及び吸出し防止マットの施工歩掛(材料費を除く)を含む。

2. 本表の山林砂防工(普通作業員)は、石工手伝、胴込コンクリート及び裏込礫投入ならびに材料小運搬を含む。
3. 石積は法勾配が1割より急なものとする。
4. 裏込栗石平均厚が50cm以上場合、山林砂防工(普通作業員)は本表の1割増しとすることができる。
5. 既設築石を裏込栗石に使用する場合は、築石1m³当たり山林砂防工(普通作業員)0.5人を計上することができる。

6. 間詰等の短い袖石積（張）は石工、山林砂防工（普通作業員）0.05人を割増しすることができる。

7. 材料の荷上げにラフテレーンクレーン（標準 排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型16t吊）を使用する場合には、山林砂防工（普通作業員）は（ ）書きを適用し、ラフテレーンクレーン経費を計上する。

8. コンクリートの割増率及び裏込コンクリートの投入打設歩掛は、コンクリートブロック積工を準用する。

9. 基礎コンクリート工は、基礎地盤が岩盤等で堅固な場合は省略する。

10. 伸縮目地は、延長20m以上になるときは、10~15mに1箇所程度の縁切りを設ける。

5-21-3 空石張工歩掛 (治山林道必携)

5-21-4 練石張工歩掛 (")

5-22 (参考歩掛) 目地・止水板設置工 (")

5-23 名板取付

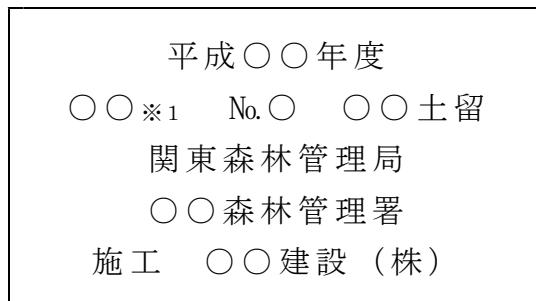
谷止工、床固工に準ずる規模の土留工については、下記のとおり名板を設置する。

基 準			(1枚当たり)
歩掛コードNo.	土留工の体積	板の大きさ	摘要
4108	300m ³ 未満	0.3×0.4 m	彫刻文字は下記の例による。 材質は軽合金または石材とする 価格は素材代加工彫刻運搬を含む。
4110	300~1000m ³	0.4×0.55m	
4112	1000m ³ 以上	0.6×0.8 m	

備考 (ア) 鋼製土留は鋼材1tをコンクリート40m³と換算して適用する。

(イ) 取付は山林砂防工（普通作業員）0.1人を計上する。

<例>



備考 書体は楷書とする。

※1 地区名等を記載する。

第6 基礎工

6-1 桁打工 (治山林道必携)

第7 木材利用工

7-1 土留工・擁壁工

7-1-1 丸太積土留工 (A)

歩掛コードNo.	4160
----------	------

(10m²当たり)

名 称	形 状	数 量	単 位	備 考
杭 木	長さ0.7m以上 径8cm以上	13.6	本	現地着価格
横 木	長さ2.0m以上 径10cm以上	27.3	〃	〃
控 木	長さ0.8m以上 径10cm以上	90.9	〃	〃
(かすがい)	φ9mm × 120mm	90.9	〃	〃
(雑草木株)	茎長30cm 打違い1m縄〆	5.00	束	現地採取
鉄 線	なまし3.2mm 1ヶ所1.4m	16.1	kg	現地着価格 結束用
(砂質土切取)		5.24	m ³	
世 話 役		0.60	人	
山林砂防工 (普通作業員)		4.21	〃 (〃)	
	(1.05)	〃		雑草木株採取5.0束×0.21人／1束
	1.80	〃		杭打、積上げ、緊結仕上げ、埋土
	(1.36)	〃		切取5.24m ³ ×0.26人
計				

備考 1 高さは1m程度を標準とし、材料は所要量を計上する。

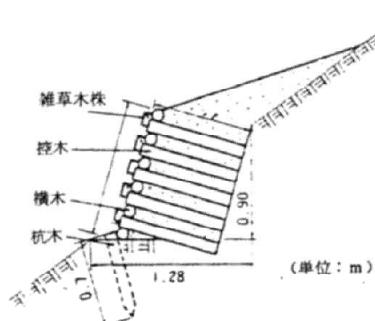
2 用材現地採取の場合は杭打～埋土処理に0.50人/10m²を加算する。

3 皮はぎを必要とする場合は0.01人/本を加算する。

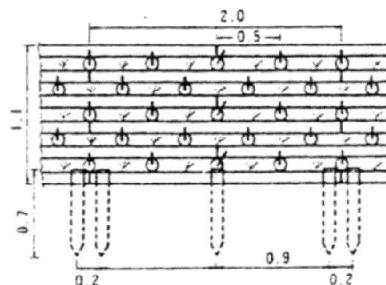
4 「かすがい」は必要に応じて計上する。

(参考) 標準施工図

断面図



正面図



7-1-2-1 丸太積土留工 (B) (治山林道必携)

7-1-2-2 丸太積土留工 (C)

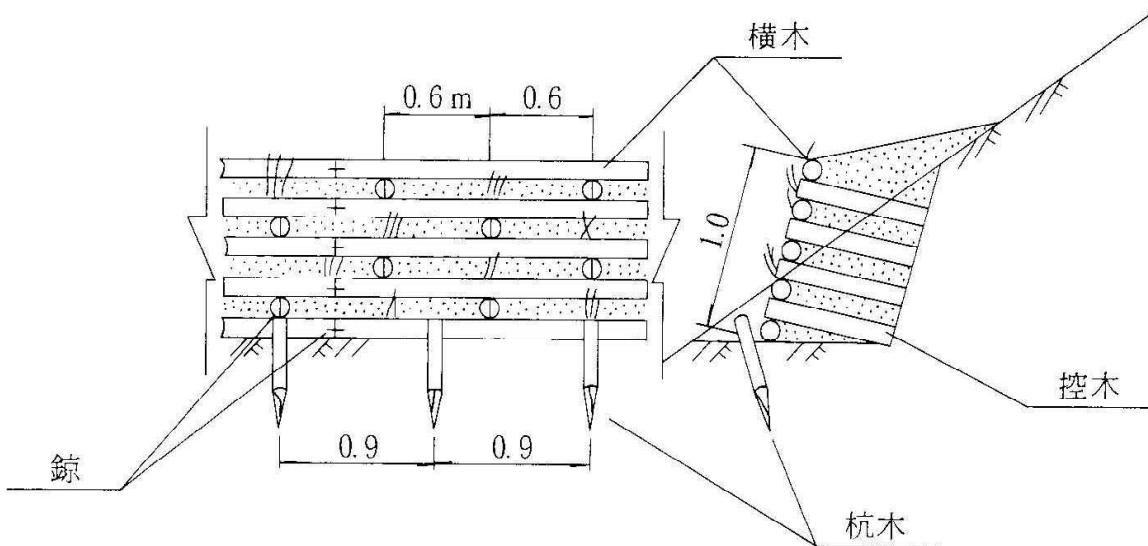
歩掛コードNo.	4162, 4164
----------	------------

(10m²当たり)

名 称	形 状 尺 法	単位	数 量	摘 要
杭 木	長さ0.7m、末口8~14cm	本	11.1	
横 木	" 3.0m " "	"	16.7	
控 木	" 0.8m " "	"	33.3	
かすがい	9×150mm	kg (本)	4.41 (33.4)	横木連結用2本／1ヶ所使用
"	9×120 "	kg (本)	6.97 (67.7)	横・控木 "
雜 草 株	茎長30cm、打違1m 繩〆	束	5.0	
植 生 帯	種子入50×10×1cm	枚	(87.0)	
目 串	洋釘 15cm	kg	(3.92)	
世 話 役		人	0.60	
山林砂防工 (普通作業員)		" (")	(3.48) 4.16	
内訳		"	1.05	雜草株採取
		"	(0.52)	植生帯張付
		"	0.15	雜草株植付
		"	1.80	杭打、積上げ、緊結仕上げ、埋土
		"	1.16	切取り・床拵

備考 1 () 植生帯使用の場合に適用する。

2 材料運搬は必要により別途積算する。



7-1-3 木製ブロック積工 (治山林道必携)

7-1-4 L型木製土留工 ("")

7-1-5 木製井桁積工 ("")

7-1-6 (参考歩掛) 木製校倉式土留工 ("")

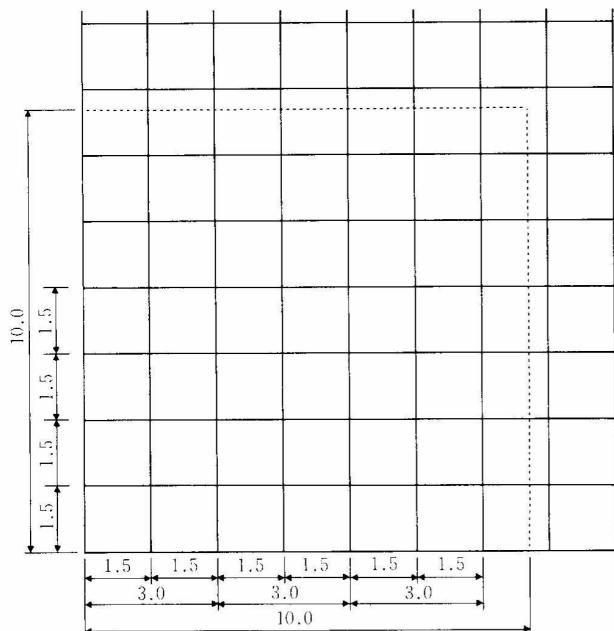
7 - 2 法面保護工

- 7 - 2 - 1 丸太法杵工 (A) (治山林道必携)
7 - 2 - 2 - 1 " (B) (" "
7 - 2 - 2 - 2 " (C)

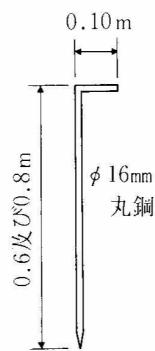
(100m²当たり)

名 称	形 状 尺 法	数量	単位	摘 要
横 丸 太	末口径8~14cm 長さ3.0m	23.3	本	加工品現場着価格
縦 丸 太	末口径8~14cm 長さ1.4m	46.7	"	"
補 足 材	" 長さ1.5m	4.7	"	"
鉄 杭	φ16mm 長さ80cm	23.3	"	
"	φ " 長さ60cm	23.3	"	
かすがい	9mm 角 長さ150mm	116.8 15.42	本 kg	116.8*0.132kg／本 = 15.42kg
人 工 芝	ホーレスター50×60cm	267.0	枚	1枚 (1.5×1.5) 2.25m ² に6枚張付 100/2.25× 6 = 266.7 ≈ 267枚
世 話 役		0.16	人	
山林砂防工 (普通作業員)		13.94	" (")	
内訳		3.60	"	斜面整地、礫まじり土 10m ³ 当たり0.36人
		5.34	"	人工芝・張付仕上 10枚当たり0.2人
		5.00	"	法枠組立仕上げ一切

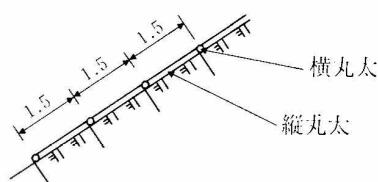
丸太法粹工



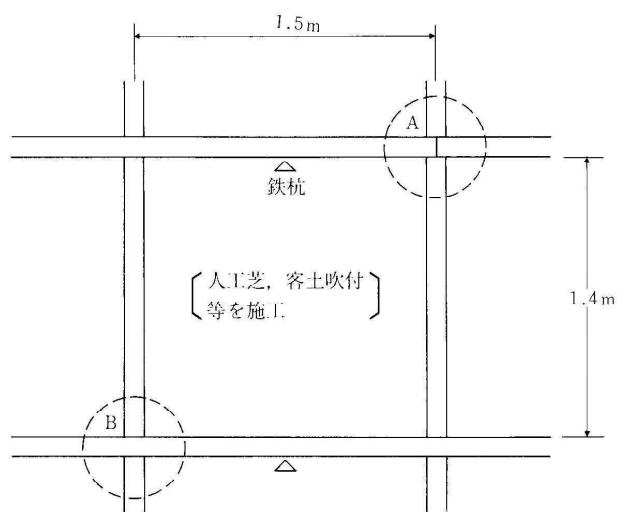
鉄杭



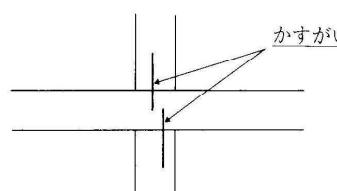
側面[以]



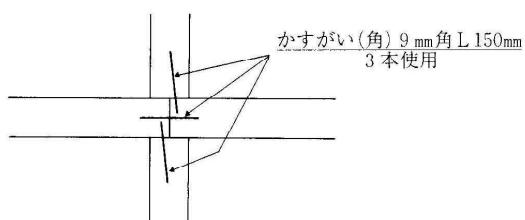
丸太法枠工



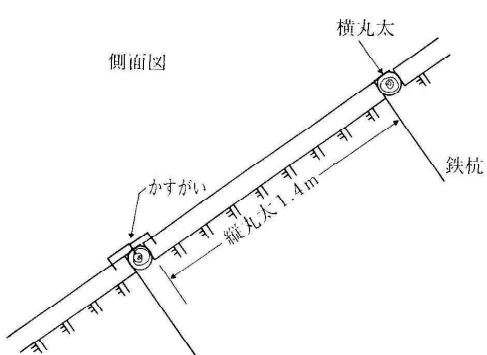
B 詳細図



A 詳細図



側面図



資材表

木 材					(100m ² 当たり)
名 称	末口径	長 さ	単材積	本 数	摘 要
横丸太	0.11m (8~14cm)	3.0m	0.036m ³	23.3本	
縦丸太	0.11m (8~14cm)	1.4〃	0.017〃	46.7〃	
補足材	0.11m (8~14cm)	1.5〃	0.018〃	4.7〃	縦丸太の10%計上
計					

鉄 製 品					(100m ² 当たり)
	形 状 尺 法	単位当たり数量	数 量	摘 要	
鉄 杭	φ16mm L 800mm	横枠1本当たり2本使用) 46.6本		
〃	φ16mm L 600mm	〃			
かすがい	9mm角 L 150mm	詳細図参照	116.8		
計					

〔算出基礎〕 100m²当たり

横丸太 $\frac{10}{3} \times 7 = 23.3$ 本

縦丸太 $\frac{10}{1.5} \times 7 = 46.7$ 本

鉄 杭 $23.3 \times 2 = 46.6$ 本

かすがい $46.7 \times \frac{3+2}{2} = 116.8$ 本

7-2-3 木製軽量法枠工 (治山林道必携)

7-2-4 (参考歩掛) 丸太伏工 (〃)

7-2-5 法尻保護工 (〃)

7-3 檻 工

7-3-1 木柵工(A) (治山林道必携)

7-3-2 〃(B) (〃)

7-3-3 〃(C) (〃)

7-3-4 〃(D) (〃)

7-3-5 〃(E) (〃)

7-3-6 帯梢編柵工 (〃)

7-3-7 ネット柵工(金網柵工) (〃)

7-3-8 編柵工歩掛(高さ0.5m) (〃)

7-3-9 木柵工歩掛(高さ0.45m) (〃)

7-3-10 パネル柵工 (〃)

7-3-1-1 板柵工歩掛 (高さ0.45m)

歩掛コードNo.	4174
----------	------

(10m当たり)

名 称	形 状 尺 法	単位	数 量	摘 要
杭 木	長1.5m、末口径9cm	本	13.0	杭間隔0.75m
背 板	長2.1m、幅15cm、厚1.5cm	m ³	0.07	L 2.1 × H 0.15 × W 0.015 × 15枚 = 0.07
萱 株	茎長30cm、打違1m繩〆	束	1.5	
釘	長100mm	kg	0.15	
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	0.4	組立て、緊結、仕上げ
〃		〃	0.78	杭打ち0.06人／本

7-3-1-2 鋼製柵工(ソイルフェンス)歩掛

歩掛コードNo.	4176
----------	------

(10m当たり)

名 称	形 状 尺 法	単位	数 量	摘 要
ソイルフェンス	長さ1m×幅33cm×高35cm	m	10.0	
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	0.6	組立て付、仕上、埋戻一切
〃	階段幅0.5m	〃	0.21	階段切付符歩掛による(標準礫質土)

備考 材料運搬は必要により別途積算する。

7-3-1-3 樹脂網柵工(ソイルコ)歩掛

歩掛コードNo.	4178
----------	------

(10m当たり)

名 称	形 状 尺 法	単位	数 量	摘 要
杭	長さ1.2m、末口径8cm	本	20.0	杭間隔50cm、高さ40cm
ソイルコ	長さ5m、幅50cm	m	10.0	
洋 釘		kg	0.1	
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	0.50	組立て、仕上、埋戻一切
〃		〃	0.80	杭打ち0.04人／本

備考 1 杭を採取する場合は採取運搬の他に杭先仕上10本当たり0.29人を計上する。

2 材料運搬及び階段切付等は必要に応じて別途計上する。

7-3-1-4 鋼板柵工(GHSプレート)歩掛

(9.8m当たり)

種 目	規 格	単位	数 量	摘 要
鋼 板	トタン加工13mm、丸孔34ヶ 0.4×410×1,814mm	kg 枚	(15.72) 6.0	重ね部分21.4cmとする
主 柱	厚1.6mm φ 25.4mm ℓ = 1,100mm	kg 本	(15.60) 13.0	
根 力 セ	P L 1.0 × 1.50 × 200mm	kg 枚	(3.12) 13.0	
プレート止鉄線	亜鉛引鉄線14# 10.4m	kg 本	(0.26) 13.0	1ヶ所0.8m使用
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	1.22	床拵え、杭打、組立仕上一切

7-3-15 丸太柵工

歩掛コードNo.	4182(4183), 4184(4185), 4186(4187), 4188 (4189)
----------	---

(10m当たり)

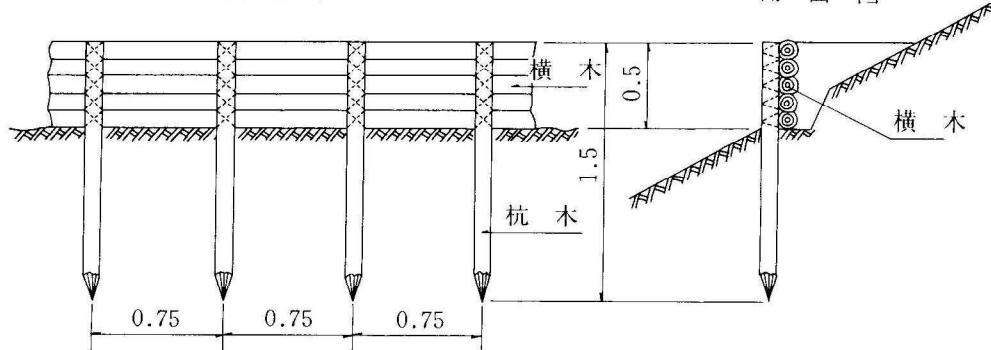
名 称	形 状 尺 法	単 位	数 量	摘要
杭 木	素材長さ1.5m 末口径8~14cm	本	13.3	材積 $13.3 \times 0.018 = 0.239$ (m ³)
横 木	〃 〃 3.0m 〃 〃	〃	16.7	材積 $16.7 \times 0.036 = 0.601$ (m ³)
雜 草 株	莖長30cm 打違1m 繩〆	束	1.5	
植 生 帯	種子入 50×10×1cm	枚	(20.0)	
目 串	洋釘 15cm	kg	(0.90)	
鉄 線	なまし #10	〃	6.29	1箇所当たり1.5m使用
山林砂防工 (普通作業員)		人	(1.32)	
		(〃)	1.57	
	内訳	〃	0.80	杭打
		〃	0.40	組立、緊結仕上げ
		〃	0.32	雜草株採取
		〃	(0.12)	植生帯張付
		〃	0.05	雜草株植付

備考 1 () は植生帯使用の場合に適用する。

2 材料運搬は必要により別途積算する。

3 鉄杭を使用する場合の鉄線使用量は、本表の2/3程度を計上する。

正 面 図



側 面 図

7-4 筋工

7-4-1

① 丸太筋工 (治山林道必携)

② 丸太筋工 (A) 横木3段

歩掛コードNo.	4198~4205
----------	-----------

(10m当たり)

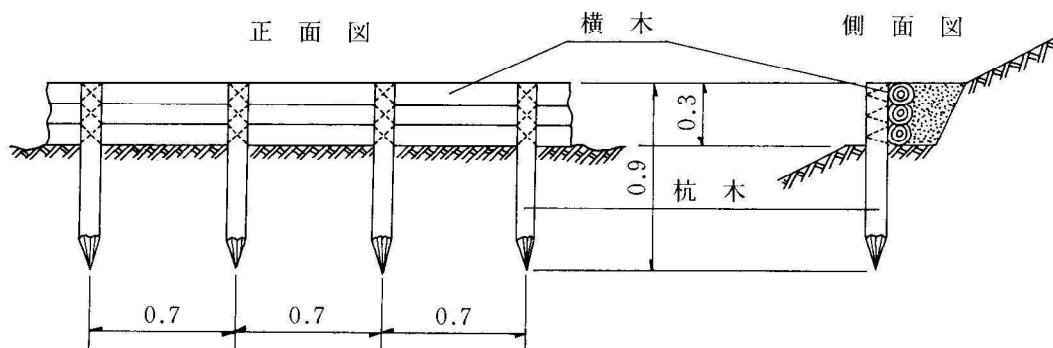
名 称	形 状 尺 法	単位	数 量	摘 要
杭 木	長さ 0.9m 末口径 8~14cm	本	14.3	材積 $14.3 \times 0.011 = 0.157$ (m ³)
横 木	〃 3.0m 〃 〃	〃	10.0	材積 $10.0 \times 0.036 = 0.36$ (m ³)
雜 草 株	茎長 30cm 打違 1m 繩 ✕	束	1.0	
植 生 帯	種子入 50×10×1cm	枚	(20.0)	
目 串	洋釘 15cm	kg	(0.90)	
鉄 線	なまし #10	〃	4.06	1箇所当たり 1.5m 使用
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		人	(0.72)	
		(〃)	0.81	
	内 訳	〃	0.60	杭打、緊結仕上げ
		〃	0.21	雜草株採取
		〃	(0.12)	植生帯張付

備考 1 () は植生帶使用の場合に適用する。

2 材料運搬は必要により別途積算する。

3 鉄杭を使用する場合の鉄線使用量は、本表の2/3程度を計上する。

4 階段切付を必要に応じ、別途積算する。



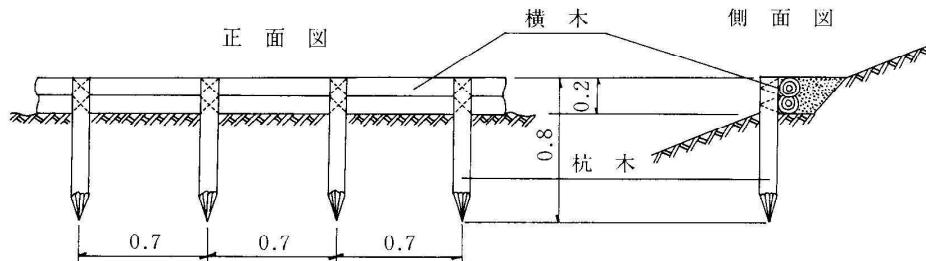
③ 丸太筋工 (B) 横木2段

歩掛コートNo.	4206~4213
----------	-----------

(10m当たり)

名 称	形 状 尺 法	単位	数 量	摘 要
杭 木	長さ 0.8m 末口径8~14cm	本	14.3	材積 $14.3 \times 0.01 = 0.143$ (m ³)
横 木	" 3.0m " "	"	6.7	材積 $6.7 \times 0.036 = 0.241$ (m ³)
雜 草 株	莖長30cm 打違1m 繩〆	束	1.0	
植 生 帯	種子入 50×10×1cm	枚	(20.0)	
目 串	洋釘 15cm	kg	(0.90)	
鉄 線	なまし #10	"	2.71	1箇所当たり 1.5m 使用
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		人 (〃)	(0.60) 0.69	
	内 訳	"	0.48	杭打、緊結仕上げ
		"	0.21	雜草株採取
		"	(0.12)	植生帯張付

備考 (A) に同じ



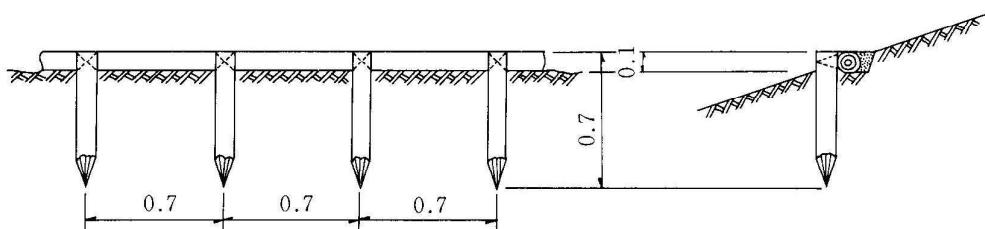
④ 丸太筋工 (C) 横木1段

歩掛コートNo.	4214~4221
----------	-----------

(10m当たり)

名 称	形 状 尺 法	単位	数 量	摘 要
杭 木	長さ 0.7m 末口径8~14cm	本	14.3	材積 $14.3 \times 0.008 = 0.114$ (m ³)
横 木	" 3.0m " "	"	3.3	材積 $3.3 \times 0.036 = 0.119$ (m ³)
雜 草 株	莖長30cm 打違1m 繩〆	束	1.0	
植 生 帯	種子入 50×10×1cm	枚	(20.0)	
目 串	洋釘 15cm	kg	(0.90)	
鉄 線	なまし #10	"	1.35	1箇所当たり 1.5m 使用
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		人 (〃)	(0.48) 0.57	
	内 訳	"	0.36	杭打、緊結仕上げ
		"	0.21	雜草株採取
		"	(0.12)	植生帯張付

備考 (A) に同じ



7-4-2	木製筋工	(治山林道必携)
7-5	防風工	(〃)
7-6	静砂工・堆砂工	(〃)
7-7	路面・路盤工	(〃)
7-8	排水施設	(〃)
7-9	標識工	(〃)
7-10	型枠工	(〃)
7-11	歩道工	(〃)
7-12	木製治山ダム工	(〃)
7-13	落石防護工	(〃)
7-14	木材チップ化	(〃)

第8 仮設工

8-1 仮設工 (治山林道必携)

8-2 土のう締切工

(1) 土のう締切工歩掛

歩掛コードNo.	4230
----------	------

(10m²当たり)

名 称	単 位	数 量	摘 要
土 砂	m ³	5.0	
土 の う	袋	170	62×48cmの小口並べ
山林砂防工 (普通作業員)	人 (〃)	6	土のう拵、積立、取除き一式

備考 1 現場の状況を検討し、廻排水、水替等と合わせて設計、積算するものとする。

2 土のう締切の数量は、締切延長×平均高さとして算出する。

3 土のう1袋当たり、詰土量0.029m³、重量49kg

4 土のう使用量は下記を標準とする。

集水面積 10ha以下	(高さ 0.3m × 延長 7.0m)	面積 2.1m ²
50ha 〃	(〃 0.7m × 〃 10.0m)	〃 7.0 〃
50～200ha以下	(〃 1.5m × 〃 15.0m)	〃 22.5 〃

5 200ha以上の場合は、掘割、盛土、蛇籠、コンクリート、練積等を併用する。

8-3 土俵、石俵拵及び積立 (治山林道必携)

8-4 水替工

8-4-1 水替工

(1) 水替日数の算出

ア 谷止、床固（鋼製も含む）等において床掘量1,000m³未満の場合は次式によることができる。

$$y = 1 / 45 x + 1.78 \text{ (小数2位四捨五入1位止)}$$

y = 水替日数

x = 床掘量 (1,000m³未満)

イ 上記アによることが不適な場合または床掘量1,000m³以上の場合のコンクリート谷止、床固等は、次により積算する。

(ア) 水替日数 = 床掘日数 + 型枠組立日数 + コンクリート打設日数

(イ) 作業功程

床掘	人力の場合	1日当たり山林砂防工(普通作業員)5.0人
	機械の場合	土質区分による1日当たり功程(運転日当たり運転時間×1時間功程とする)
型枠組立	1日当たり	15.0m ²
コンクリート打設	1日当たり	打設量

ウ 上記アによることが不適な場合または床掘量1,000m³以上の場合の鋼製枠谷止、床固等は、次により積算する。

(ア) 水替日数 = 床掘日数 + 鋼製枠組立日数 + 詰石日数

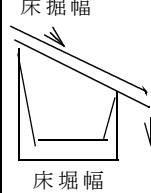
(イ) 作業功程

床掘	人力の場合	1日当たり山林砂防工(普通作業員)5.0人
	機械の場合	土質区分による1日当たり功程(運転日当たり運転時間×1時間功程とする)
鋼製枠組立	1日当たり	3.96t (バックホウ山積0.8m ³ 使用の場合)
詰石	1日当たり	31.5m ³ (バックホウ山積0.8m ³ 使用の場合)

(2) 回水管歩掛表 (硬質塩化ビニール管 $\varnothing = 4.0\text{m}$)

(1式当たり)

歩掛コードNo.			床掘幅	回水管		支柱木材		支柱鋼材		金物類	山林砂防工 普通作業員	備考
200mm	300mm	400mm		長さ	損率 (20%)	本数	材積	損率 (60%)	本数	重量		
4240	4254	4268	m以下	m	m	本	m ³	m ³	本	kg	kg	人
4242	4256	4270	2.5	4	0.80	4	0.160	0.096	2	30.8	1.5	1.5 径10cm
4244	4258	4272	5	8	1.60	12	0.480	0.288	4	61.6	3.0	2.0 長さ4.0m
4246	4260	4274	8	12	2.40	18	0.720	0.432	6	92.4	4.5	3.0 鋼材は丸鋼
4248	4262	4276	11	16	3.20	24	0.960	0.576	8	123.2	6.0	4.0 径25mm
4250	4264	4278	14	20	4.00	30	1.200	0.720	10	154.0	7.5	4.5 長さ4.0m
4252	4266	4280	17	24	4.80	36	1.440	0.864	12	184.8	9.0	5.4 床掘幅
		4282	20	28	5.60	42	1.680	1.008	14	215.6	10.5	6.3
		4294	23	32	6.40	48	1.920	1.152	16	246.4	12.0	7.2
			26	36	7.20	54	2.160	1.296	18	277.2	13.5	8.1



- 備考 1 金物類（鉄線、釘、かすがい等）は鋼材一般二次製品を、支柱は小丸太を使用する。
- 2 2列、3列使用の場合は、支柱、金物、山林砂防工（普通作業員）を2*2/3、3*3/5とし4列以上はこの比率で減ずる。
- 3 使用管径は集水面積等を考慮し、下記を標準として現地の実情に応じて決定する。
- | | | | | | |
|------|--------|-------|------------|---------|--------------|
| 集水面積 | 10ha以下 | 200mm | 50~200ha以下 | 400mm | |
| | 50ha | 〃 | 300mm | 200ha以上 | 400mmを2列以上使用 |
- 4 床掘幅は床掘図面中の渓床最低部の上幅を標準とする。

(3) 箱樋排水歩掛

歩掛コードNo.	4298	4300	4302	4304	4306	4308	4310	(1組2m当たり)	
型式 種別	規格	A (巾50cm ×深20cm)	B (50 × 40)	C (60 × 50)	D (80 × 50)	E (100 × 60)	F (100 × 70)	G (150 × 60)	摘要
製材品	板材 厚2cmN	0.01m ³	0.02m ³	0.02m ³	0.02m ³	0.03m ³	0.03m ³	0.03m ³	損料30%
〃	角材 5cm角N		0.01〃	0.01〃	0.01〃	0.01〃	0.01〃	0.01〃	〃
雜丸太	末口10cm L	0.03〃	0.03〃	0.03〃	0.04〃	0.04〃	0.04〃	0.04〃	〃
支保材	カラマツ 末口10cm					0.01〃	0.01〃	0.01〃	〃
鉄線	なまし10#	1.51kg	1.51kg	1.51kg	1.51kg	1.51kg	1.51kg	1.51kg	損料100%
洋釘	N 45-100	0.36〃	0.52〃	0.64〃	0.72〃	0.88〃	0.96〃	1.08〃	〃
かすがい	9 × 150mm	0.53〃	0.53〃	0.53〃	0.53〃	0.53〃	0.53〃	0.53〃	損料50%
型わく工		0.27人	0.39人	0.48人	0.54人	0.66人	0.72人	0.81人	製作一切
山林砂防工 (普通作業員)		0.70〃	0.95〃	1.14〃	1.29〃	1.57〃	1.70〃	1.96〃	製作手伝足場架設撤去一切

- 備考 1 型式区分は集水面積により次を標準とするが、施工時の常水、施工時期等考慮して現地に合った型式を採用すること。

集水面積 A, 15ha未満 B, 15~40ha C, 40~70ha D, 70~100ha
E, 100~150ha F, 150~200ha G, 200~300ha未満

- 2 上記以上の規模が必要の場合には別途積算すること。
3 1 m²当り型わく工0.15人、山林砂防工（普通作業員）、製作手伝0.28人/m²、足場架設0.05人/空m³で積算してある。
4 数量は損率を見込んだものである。

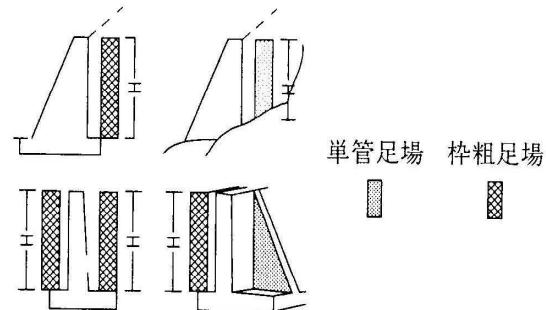
8-4-2 水替工（小口径） (治山林道必携)

8-5 足場工 (治山林道必携)

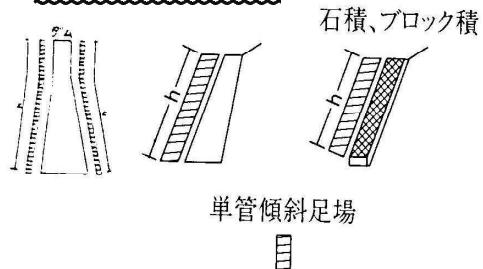
8-6 キヤットウォーク

足場数量の計上方法

(1) 枠組足場及び単管足場



(2) 单管傾斜足場



鋼製足場の数量は、下記による。

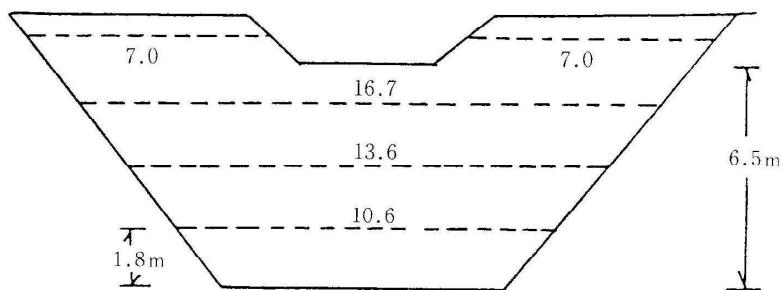
- 1 設置面が平坦な場合は枠組足場を用い、設置面が平坦でない場合は、単管足場を用いる。
- 2 高さ (H) が 2.0m 未満は原則として計上しない。
- 3 足場工面積 (掛 m²)
 $\ell = \text{延長} \quad H = \text{高さ}$
計上面積 = $H \times \ell$
- 4 盛土部の石積み、ブロック積みは足場を計上しない。

鋼製足場の数量は、下記による。

- 1 設置面に關係なく、構造物面の勾配が 1 分以上の場合は、単管傾斜足場を用いる。
- 2 高さ 2.0m 未満は原則として計上しない。
- 3 足場工面積 (掛 m²)
 $\ell = \text{延長} \quad h = \text{法長}$
計上面積 = $h \times \ell$

(2) キヤットウォーク足場数量計算例

正面図



計算式

$$(10.6 + 13.6 + 16.7 + 7.0 + 7.0) \times 2 = 109 \text{ m}$$

(上下流を計上)

備考 同時打間詰等の場合で、ベタ打ち部分は数量計算に含めない。

- 8-7 支保工 (治山林道必携)
 8-8-1 仮囲い設置・撤去工 (〃)
 8-8-2 雪寒仮囲い工 (〃)
 8-9 大型土のう工 (〃)
 8-10 敷鉄板敷設・撤去工 (〃)
 8-11 鋼矢板(H形鋼)工(バイブロハンマ工・油圧圧入引抜工) (〃)
 8-12 鋼矢板工(アースオーガ併用圧入工) (〃)
 8-13 鋼矢板(H形鋼)工(クレーン引抜工) (〃)
 8-14 仮設材設置撤去工 (〃)
 8-15 仮橋・仮桟橋工 (〃)
 8-16 切土及び発破防護柵工 (〃)
 8-17 掘削(発破)防護柵工 (〃)
 8-18 法面工(仮設用モルタル吹付工) (〃)

8-19 ロープ足場

歩掛コードNo.	4334
----------	------

(100m²当たり)

労務費	資材費			摘要
山林砂防工 (普通作業員)	マニラロープ	アンカー	雑品	
0.20人	5.0m (18mm)	0.1本 (22×800)mm	ロープ金額の 15%	

備考 1 本表は、法切、種子吹付、モルタル吹付等、急傾斜地で転落のおそれのある場所の作業に適用する。(面積は10m²未満四捨五入、10m²止)

2 数量は1作業ごとに計上する。ただし、ロープを張替えないで作業できる場合は1作業とする。

8-20 落石防護柵(A)

歩掛コードNo.	4336
----------	------

(10m²当たり)

労務費	資材費					摘要
山林砂防工 (普通作業員)	丸パイプ	金網	ジョイント	クランプ	鉄線	
0.80人	57.4m	(40×50) mm 1.0m ²	7.5個	33.0個	(普#8) 2.9kg	

備考 1 本表は落石の少ない場所で作業する場合に適用する。

2 各資材の損率は仮設資材損率表による。ただし供用日数は40日とする。

8-2-1 落石防護柵 (B)

歩掛コードNo.	4338
----------	------

(10m²当たり)

労務費	資材費						摘要
山林砂防工 (普通作業員)	製材	素材	金網	かすがい	釘	鉄線	
4.0人	0.074m ³	0.402m ³	(40×50)mm 1.0m ²	2.0kg	0.4kg	2.4kg	(普#8)

8-2-2 斜面落石防護網 (A)

歩掛コードNo.	4340
----------	------

(10m²当たり)

労務費	資材費			摘要
山林砂防工 (普通作業員)	化織網	アンカーピン	クリップ	
0.20人	4.0m ²	(19×750)mm 0.9本	(12mm) 0.9個	

備考 1 本表は、切取斜面等で、落石の少ない場所で作業する場合に適用する。

8-2-3 斜面落石防護網 (B)

歩掛コードNo.	4342
----------	------

(10m²当たり)

労務費	資材費								摘要
山林砂防工 (普通作業員)	ワイヤー	ワイヤー	金網	ワイヤー	ワイヤー	結合	クロス	素材	
2.0人	ワイヤー ロープ (12mm) 2.0人	ワイヤー ロープ (8mm) 6.1m	金網 (40×50)mm 1.0m ²	ワイヤー クリップ (12mm) 5.3個	ワイヤー クリップ (8mm) 1.2個	結合 コイル 15.5個	クロス クリップ (12mm) 3.0個	素材 0.013m ³	

備考 1 本表は、崩壊地下部等、落石の多い場所で作業する場合に適用する。

8-2-4 頭上防護柵 (A)

歩掛コードNo.	4344
----------	------

(1m当たり)

労務費		資材費						摘要
とび工	山林砂防工 (普通作業員)	丸パイプ	クランプ	ジョイント	ベース	金網	鉄線	
4.5人	2.0人	58.2m	30.0個	8.3個	1.3個	(40×50) mm 0.6m ²	(#8) 0.8kg	

(県道等一般車輌の運行する箇所に使用する場合)

備考 1 本表は、ケーブルクレーン等が道路等を横断する場合に適用する。

2 器材の損料計算は下表による。

3 固定歩掛りとする。

(1m当たり)

名 称	規 格	単位	数量	摘要	
丸パイプ	φ 48.6mm	m	58.2		
クランプ		個	30.0		
ジョイント		〃	8.3		
ベース		〃	1.3		
金 網	40×5.0mm	m ²	4.8	80% (3ヵ月未満)	
鉄 線	#8	kg	0.8	全損	

備考 1 ただし、供用日数は40日とする。

8-2-5 頭上防護柵 (B)

歩掛コードNo.	4346
----------	------

(1m当たり)

労務費		資材費						摘要
とび工	山林砂防工 (普通作業員)	丸パイプ	クランプ	ジョイント	ベース	金網	鉄線	
2.25人	1.0人	29.1m	15.0個	4.2個	1.3個	(40×50) mm 0.6m ²	(#8) 0.4kg	

(林道、運搬路等一般車輌の通行しない箇所に使用する。)

備考 1 本表は、ケーブルクレーン等が道路等を横断する場合に適用する。

2 丸パイプ、クランプ、ジョイント、ベース等の損料は仮設材損料基準による。(IV)

ただし、供用日数は40日とする。

3 固定歩掛りとする。

8-2-6 防護ネット

歩掛コードNo.	4348(4349)	4350(4351)	4352(4353)
----------	------------	------------	------------

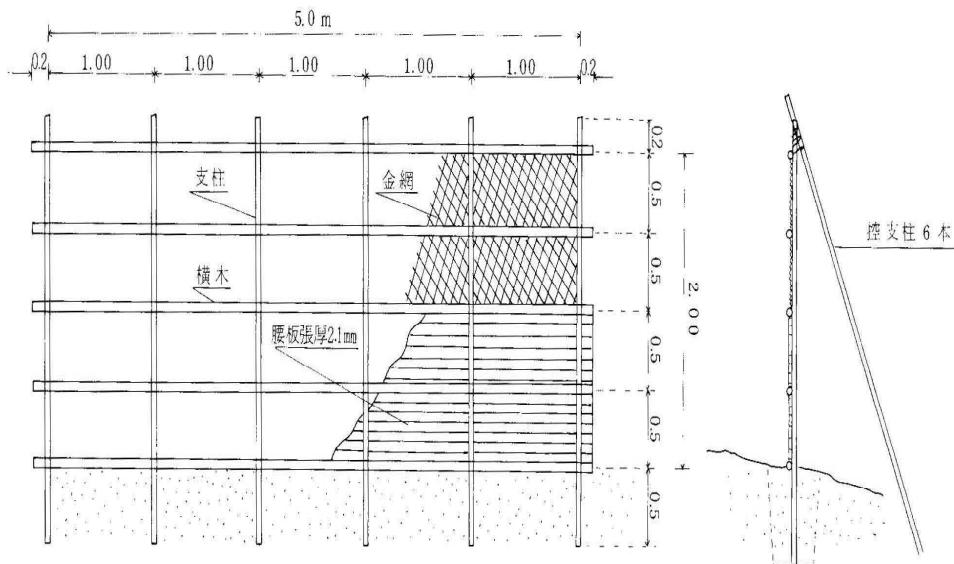
(1基当たり 30m²)

名称	形状寸法	単位	3カ月未満		6カ月未満		1年未満	
			数量	備考	数量	備考	数量	備考
支柱	スギ末口 径14cm 長6.0m	(本) m ³	(4) 0.324	損率 60% (0.540×0.60)	(4) 0.378	損率 70% (0.540×0.60)	(4) 0.486	損率 90% (0.540×0.60)
補助支柱	〃 10cm 〃 6.0m	〃	(4) 0.175	〃 60% (0.292×0.60)	(4) 0.204	〃 〃	(4) 0.263	〃 〃
斜柱	〃 10cm 〃 5.0m	〃	(4) 0.120	〃 60% (0.200×0.60)	(4) 0.140	〃 〃	(4) 0.180	〃 〃
筋違貫	〃 6cm 〃 8.0m	〃	(4) 0.122	〃 60% (0.204×0.60)	(4) 0.143	〃 〃	(4) 0.184	〃 〃
梁	〃 14cm 〃 5.2m	〃	(2) 0.122	〃 60% (0.204×0.60)	(2) 0.143	〃 〃	(2) 0.184	〃 〃
〃	〃 10cm 〃 5.2m	〃	(2) 0.062	〃 60% (0.104×0.60)	(2) 0.073	〃 〃	(2) 0.094	〃 〃
桁	〃 14cm 〃 6.2m	〃	(2) 0.168	〃 60% (0.280×0.60)	(2) 0.196	〃 〃	(2) 0.252	〃 〃
〃	〃 10cm 〃 6.2m	〃	(2) 0.090	〃 60% (0.150×0.60)	(2) 0.105	〃 〃	(2) 0.135	〃 〃
金網	菱形金網 φ3.2 (10#)50×50	m ²	3	〃 10% (30×0.1)	6	〃 20% (30×0.2)	9	〃 30%
ボルト	ナット付 φ13×300	(本) kg	(20) 8.48	〃 100% (0.424×20)	(20) 8.48	〃 100% (0.424×20)	(20) 8.48	〃 100%
かすがい	φ9×150	〃	(30) 3.96	〃 100% (0.132×30)	(30) 3.96	〃 100% (0.132×30)	(30) 3.96	〃 〃
その他		%	10	釘、その他 上記金額の10%	10	釘、その他 上記金額の10%	10	釘、その他 上記金額の10%
世話役		人	0.15	10m ² 当たり 0.05人	0.15	10m ² 当たり 0.05人	0.15	10m ² 当たり 0.05人
とび工		〃	0.75	10m ² 当たり 0.25人	0.75	10m ² 当たり 0.25人	0.75	10m ² 当たり 0.25人
山林砂防工 (普通作業員)		〃 (〃)	1.74		1.74		1.74	
	内訳		0.84	架設撤去 10m ² 当たり 0.28人	0.84	架設撤去 10m ² 当たり 0.28人	0.84	架設撤去 10m ² 当たり 0.28人
			0.90	金網張り及び 撤去10m ² 当たり 0.30人	0.90	金網張り及び 撤去10m ² 当たり 0.30人	0.90	金網張り及び 撤去10m ² 当たり 0.30人

備考 1 本表は、索道線下の防護工等に使用する場合適用する。

2 パイプ類等の使用材料は、必要数量を計上し、損料は共8-5足場工に準ずる。

8-27 防護柵(木柵ネット張り)



床掘 $0.2^2 \times 314 \times 0.5 \times 12$ カ所 = 0.75 m^3

歩掛コード No.	4354(4355)	4356(4357)	4358(4359) (10m ² 当たり)
-----------	------------	------------	--------------------------------------

名称	形状寸法	単位	3ヵ月未満		6ヵ月未満		1年未満	
			数量	備考	数量	備考	数量	備考
支柱	スギ末口 径10cm 長2.7m	(本) m ³	(6) 0.097	損率 60% (0.162×0.60)	(6) 0.113	損率 70% 0.146	(6)	損率 90%
控支柱	〃 10cm 〃 3.0m	〃	(6) 0.108	〃 〃 (0.180×0.60)	(6) 0.126	〃 〃 0.162	(6)	〃 〃
横木	〃 10cm 〃 5.4m	〃	(5) 0.162	〃 〃 (0.270×0.60)	(5) 0.189	〃 〃 0.243	(5)	〃 〃
板材	厚2.1cm 1×5m	〃	0.063	〃 〃 (0.105×0.60)	0.074	〃 〃 0.095	〃 〃	〃 〃
金網	菱形 φ3.2 (10#) 50×50	m ²	0.5	〃 10% (1×5m)	1.0	〃 20%	1.5	〃 30%
なまし 鉄線	10#	kg	1.14	〃 100% (3m×6カ所 ×63.1g)	1.14	〃 100%	1.14	〃 100%
洋釘	50~60mm	〃	2.5	〃 〃 (0.5kg×5m ²)	2.5	〃 〃	2.5	〃 〃
かすがい	φ9 × 150	(本) kg	(30) 3.96	〃 〃 (0.132×30)	(30) 3.96	〃 〃 3.96	(30)	〃 〃
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	3.88		3.88		3.88	
内訳		2.00	枠組撤去、床 掘を含む10m ² 当たり 2.0人	2.00	枠組撤去、床 掘を含む10m ² 当たり 2.0人	2.00	枠組撤去、床 掘を含む10m ² 当たり 2.0人	
		1.38	板張り撤去 10m ² 当たり 2.75人	1.38	板張り撤去 10m ² 当たり 2.75人	1.38	板張り撤去 10m ² 当たり 2.75人	
		0.50	金網張り 10m ² 当たり 1.00人	0.50	金網張り 10m ² 当たり 1.00人	0.50	金網張り 10m ² 当たり 1.00人	

備考 工期を標準とする。

8-28 路面散水

(1時間当たり)

名 称	数 量	単位	摘 要
機械損料	1.0	h	散水車
燃 料 費	5.8	ℓ	タンク容量5,500~6,500ℓ 軽油
一般運転手	0.18	人	
計			

備考 1 車速は5km/hrを標準とする。

2 給水等の必要がある場合は山林砂防工(普通作業員)の0.10人を計上することができる。

3 給水施設が必要な場合は、別途に計上する。

8-29 盤台施設

	区 分	架 設	撤 去	架設撤去	架 設	撤 去	架設撤去	架 設	撤 去	架設撤去
山腹工	歩掛コードNo.	4368	4374	4362	4370	4374	4364	4372	4374	4366
渓間工	"	4384	4390	4378	4386	4390	4380	4388	4390	4382

区 分	種 別	山林砂防工 (普通作業員)		3ヵ月未満		6ヵ月未満		1年未満	
		架設	撤去	松 板	杉丸太	松 板	杉丸太	松 板	杉丸太
盤台	4.0m ² 山腹	2.0	1.0	0.023m ³	0.075m ³	0.036m ³	0.120m ³	0.045m ³	0.15m ³
	9.0m ² 渓間	5.5	1.5	0.050m ³	0.175m ³	0.080m ³	0.280m ³	0.100m ³	0.35m ³

備考 1 山腹工でも渓間工に類似している場合は、渓間を適用する。

2 小器材費として資材費の20%を計上する。

8-30 歩道作設及び補修歩掛

歩掛コードNo.	4394	4396	4398
----------	------	------	------

(100m当たり)

区 分 職 種	容 易 な 新 設	困 难 な 新 設	歩 道 補 修	摘 要
山林砂防工 (普通作業員)	3.0 人	4.3 人	0.6 人	

備考 1 本表は本工事施工における作業員の歩道作設及び補修に適用する。

2 歩道を新設する場合の延長は次により算出することができる。

歩道の平均傾斜	算出方法 (m)
10°	5.67×H
20°	2.92×H

(注) 1 ほぼ平坦の場合は実測によること。

2 Hは運搬始点から現場の中心までの標高差とする。ただし中間に最大標高(最低標高)がある場合は区分して算出し合算する。

1 算出した距離は4捨5入10m単位とする。

8-3-1 作業道（自動車道）作設

歩掛コードNo.	4402	4404	4406	4408
"	4410	4412	4414	4416

(10m当たり)

名 称	規 格	単位	数 量				摘要
			密 林	疎 林	笹竹林	畑地・草地	
バックホウ運転経費 山林砂防工 (普通作業員)	0.35m ³	時	0.41	0.27	0.16	0.09	
		人 (〃)	0.14	0.10	0.06	0.03	
バックホウ運転経費 山林砂防工 (普通作業員)	0.60m ³	時	0.17	0.13	0.09	0.06	
		人 (〃)	0.05	0.03	0.03	0.02	

備考 1 本表は幅員3.6mを標準とし、切取、盛土が少量で、機械を自走しながら作設する場合に適用する。

2 切取、盛土が多量で本表により難い場合は、別途に積算する。

8-3-2 治山事業標示板

治山事業の実施が、国土保全、水資源のかん養等について重要な役割を果していることを周知せしめるため、次により標示板を設置する。

(1) 請負に付する場合の積算

- ① 原則として直接工事費1,000万円以上且つ工期が150日以上の工事であってPR効果のある設置場所が確保できる場合。
- ② 森林整備事業設計積算要領第5.1.(2)間接工事費 ア共通仮設費(ヶ)(d)により積算する。

(2) 治山事業標示板〔地すべり防止工事以外に適用〕

組立・解体歩掛

歩掛けコードNo.	4420
-----------	------

(1式当たり)

名 称	規 格	単位	数量	摘要
標示板(A)	合板910×1,820×5.5mm	(枚) 組	(3) 1	3回使用 (円 / 枚 × 3枚) × $\frac{1}{3}$ =
"(B)	合板455×1,820×5.5mm	(枚) 組	(6) 1	3回使用 (円 / 枚 × 6枚) × $\frac{1}{3}$ =
支柱損料	鋼パイプφ48.6×3,500mm	本	6	3.5m × 供用1日当たり損料 × 120日 =
連結パイプ損料	鋼パイプφ48.6×3,000mm	"	8	3.0m × 供用1日当たり損料 × 120日 =
取付金具損料 (縦横パイプ取付)	直交クランプ	個	24	2.5回使用 標準単価 × $\frac{1}{2.5}$ =
取付金具損料 (標示板取付)	角ボルト(型)	"	36	2.5回使用 標準単価 × $\frac{1}{2.5}$ =
連結金具損料 (横パイプ連結)		"	8	2.5回使用 標準単価 × $\frac{1}{2.5}$ =
根かせ	L形鋼30×30×300mm	組	6	2回使用 標準単価 × 2本 / 組 × $\frac{1}{2}$ =
控え番線	亜鉛引鉄線 8# 2本撲り	kg	11.1	(4.0×2) m / ヶ所 × 14ヶ所 ÷ 10.1m/kg =
アンカーエ杭	φ16mm、ℓ1,000mm	本	14	
小計				
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	5.01	
小計				
計				

労務内訳

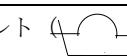
作業内容	単位	数量	摘要
[設置]			
掘削	人	0.51	礫まじり土 $(0.5 \times 0.5 \times 0.6) m^3 \times 6\text{ヶ所} \times 0.47 \times 1.2 =$
支柱パイプ建込 横パイプ取付等	"	0.72	$0.3h / 本 \times 3人 \times 6本 \div 7.5h / 日 =$
標示板取付	"	0.90	$0.25h / 枚 \times 3人 \times 9枚 \div 7.5h / 日 =$
控アンカー打込	"	0.56	$0.04人 / 本 \times 14 =$
控え番線取付	"	0.56	$0.10h / 本 \times 3人 \times 14本 \div 7.5h / 日 =$
小計	"	3.25	
[解体]			
標示板横パイプ取外し	人	0.90	標示板取付と同じ
支柱掘起し解体	"	0.41	掘削の80% $0.51 \times 0.8 =$
控アンカー、番線 引き抜き、整理	"	0.45	控アンカー打込みの80% $0.56 \times 0.8 =$
小計	"	1.76	
計	"	5.01	

(3) 治山事業標示板〔地すべり防止工事に適用〕

組立・解体歩掛

歩掛コードNo.	4421
----------	------

(1式当たり)

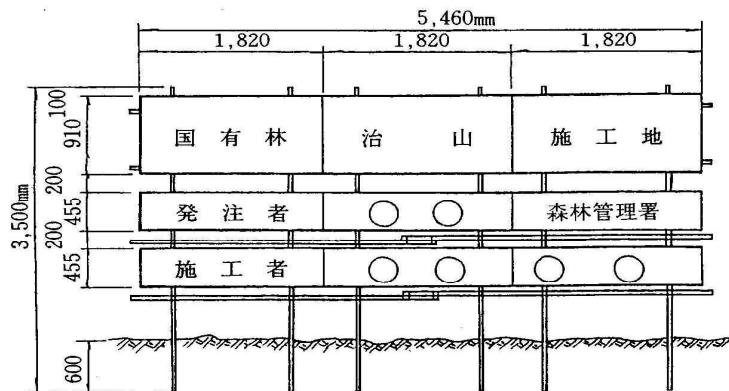
名称	規格	単位	数量	摘要
標示板(A)	合板910×1,820×5.5mm	(枚)組	(4) 1	3回使用 (円／枚×4枚) $\times \frac{1}{3} =$
" (B)	合板455×1,820×5.5mm	(枚)組	(6) 1	3回使用 (円／枚×6枚) $\times \frac{1}{3} =$
支柱損料	鋼パイプ $\phi 48.6 \times 3, 500mm$	本	8	$3.5m \times \text{供用1日当たり損料} \times 120 \text{日} =$
連結パイプ損料	鋼パイプ $\phi 48.6 \times 3, 000mm$	"	8	$3.0m \times \text{供用1日当たり損料} \times 120 \text{日} =$
取付金具損料 (縦横パイプ取付)	直交クランプ	個	32	$2.5\text{回使用 標準単価} \times \frac{1}{2.5} =$
取付金具損料 (標示板取付)	角ボルト  型	"	48	$2.5\text{回使用 標準単価} \times \frac{1}{2.5} =$
連結金具損料 (横パイプ連結)		"	8	
根かせ	L形鋼30×30×300mm	組	8	$2\text{回使用 標準単価} \times 2\text{本}/組 \times \frac{1}{2} =$
控え番線	垂鉛引鉄線 8# 2本撓り	kg	14.3	$(4.0 \times 2) m / \text{ヶ所} \times 18\text{ヶ所} \div 10.1m/kg =$
アンカーエ杭	$\phi 16mm, \ell 1,000mm$	本	18	
小計				
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	6.20	
小計				
計				

労務内訳

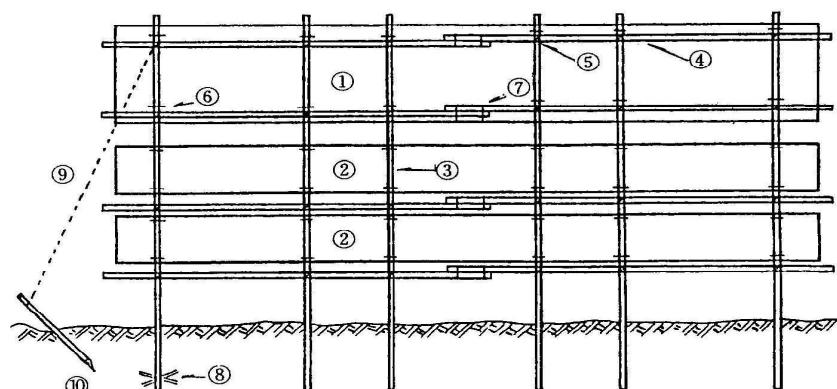
作業内容	単位	数量	摘要
[設置]			
掘削	人	0.68	礫まじり土($0.5 \times 0.5 \times 0.6$)m ³ ×8ヶ所×0.47人×1.2=
支柱パイプ建込 横パイプ取付等	"	0.96	0.3h／本×3人×8本÷7.5h／日=
標示板取付	"	1.00	0.25h／枚×3人×10枚÷7.5h／日=
控アンカー打込	"	0.72	0.04人／本×18=
控え番線取付	"	0.72	0.10h／本×3人×18÷7.5h／日=
小計	"	4.08	
[解体]			
標示板横パイプ取外し	人	1.00	標示板取付と同じ
支柱掘起し解体	"	0.54	掘削の80% 0.68×0.8=
控アンカー、番線引抜き、整理	"	0.58	控アンカー打込みの80% 0.72×0.8=
小計	"	2.12	
計	"	6.20	

治山事業標示板設置図 (1) S = $\frac{1}{50}$

正 面 図



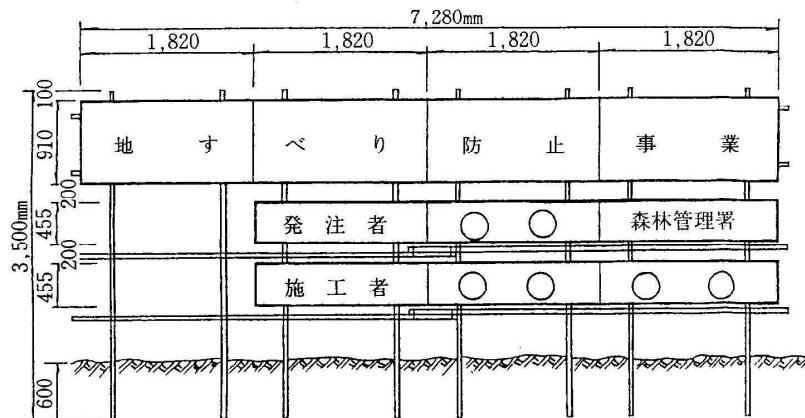
裏 面 図



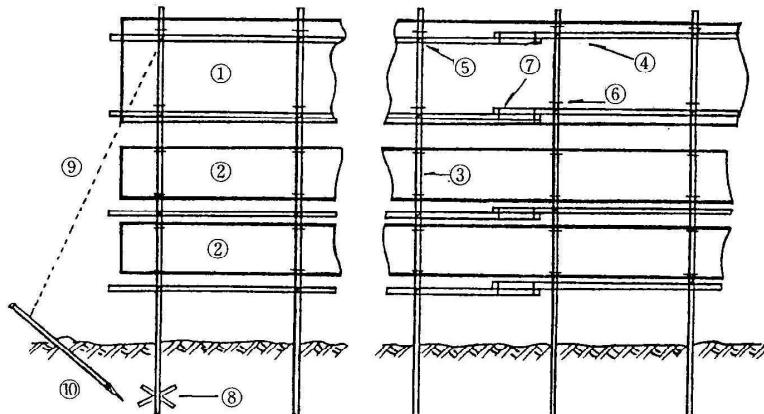
組立材料内訳表				
番号	品 名	品質・寸法等	数量	備 考
①	標示板 (A)	合板 910×1,820×5.5mm	3 枚	
②	〃 (B)	〃 455×1,820×5.5mm	6 〃	
③	支柱	鋼パイプ $\phi 48.6 \times 3,500\text{mm}$	6 本	
④	横パイプ	〃 $\phi 48.6 \times 3,000\text{mm}$	8 〃	
⑤	取付金具	直交クランプ 支柱と横パイプ接続	24 個	
⑥	〃	图示型 支柱と標示板接続	36 〃	
⑦	連結金具	横パイプ連結 直線ジョイント	8 〃	
⑧	根かせ	L形鋼 30×30×300mm	6 組	損料
⑨	控え番線	亜鉛引鉄線 8# 支柱2横1本	14 本	
⑩	アンカーハン	$\phi 16\text{mm}$ 、 $\ell 1,000\text{mm}$	14 〃	損料

治山事業標示板設置図 (2) $S = \frac{1}{50}$

正 面 図



裏 面 図



組立材料内訳表				
番号	品名	品質・寸法等	数量	備考
①	標示板 (A)	合板 910×1,820×5.5mm	4 枚	
②	〃 (B)	〃 455×1,820×5.5mm	6 〃	
③	支柱	鋼パイプ $\phi 48.6 \times 3,500\text{mm}$	8 本	
④	横パイプ	〃 $\phi 48.6 \times 4,000\text{mm}$	8 〃	
⑤	取付金具	直交クランプ 支柱と横パイプ接続	32 個	
⑥	〃	U型 支柱と標示板接続		
⑦	連結金具	横パイプ連結 直線ジョイント		
⑧	根かせ	L形鋼 30×30×300mm	8 組	損料
⑨	控え番線	亜鉛引鉄線 8# 支柱2横1本	18本	
⑩	アンカーハン	$\phi 16\text{mm}$ 、 $\varnothing 1,000\text{mm}$	18 〃	損料

第9 市場単価

市場単価方式により積算を行う工種は、治山林道必携を参照すること。

ただし、山林砂防工を適用する箇所には適用しない。

なお、地理的条件により、地元市町村役場（支所等を含む。）から現場までの片道が1時間を超える場合は、10%の割増補正を行うことができるものとする。

市場単価方式による積算にあたっては、必ず市場単価の適用条件を確認するとともに、施工規模等による加算率や各条件による補正係数を適切に適用すること。

また、適用条件及び加算率・補正係数等の適用については、下記刊行物を参考にすること。

・土木コスト情報（発行：一般財団法人建設物価調査会）

・土木施工単価（発行：一般財団法人経済調査会）

なお、単価の決定にあたっては両誌に掲載されている単価の平均値を採用すること。

9-1 鉄筋工（太径鉄筋を含む） (治山林道必携)

9-2 鉄筋工（ガス圧接） (〃)

9-3 区画線工 (〃)

9-4 防護柵設置工（ガードレール） (〃)

9-5 防護柵設置工（横断・転落防止柵） (〃)

9-6 防護柵設置工（落石防止柵） (〃)

9-7 防護柵設置工（落石防止網） (〃)

9-8 防護柵設置工（ガードパイプ） (〃)

9-9 道路標識設置工 (〃)

9-10 道路付属物設置工 (〃)

9-11 排水構造物工

地すべり防止施設及び斜面の水路工については市場単価方式にはよらず、「第2編 治山 第3山腹工 3-14 山腹水路工」を適用すること。

9-12 コンクリートブロック積工

市場単価	150kg/個未満
コード No.	1656,1657

(1) 150kg/個未満の間知ブロック積工については、市場単価方式により積算する。

(2) 積算にあたっては、市場単価に含まれている費用（裏込・胴込コンクリートの施工費等）と別途計上する費用（裏込・胴込コンクリートの材料費等）とを適切に判別し、重複計上又は計上漏れのないよう留意すること。

9-13 法面工

9-13-1 モルタル吹付工 (治山林道必携)

9-13-2 コンクリート吹付工 (治山林道必携)
 9-13-3 植生基材吹付工 (〃)
 9-13-4 客土吹付工 (〃)
 9-13-5 種子散布工 (〃)
 9-13-6 枠内吹付工(コンクリート、モルタル、植生基材) (〃)
 9-13-7 植生マット工、植生シート工、繊維ネット工

市場単価 コード No.	植生マット工	植生シート工 (標準品)	植生シート工 (環境品)	繊維ネット工
	1665	1666	1667	1668

- (1) 市場単価において対応している資材は、物価資料（建設物価、積算資料）に掲載されている「植生マット」「植生シート」「繊維ネット」の品名・メーカーと同等品とする。
- (2) 「植生シート（環境品）」の市場単価については、(1)の「植生シート」の規格に合致し、かつ自然分解性素材（生分解性プラスチック、生分解性ジュートネット、ワラ、加工紙など）を使用し、植生後に主構成材料が残置しない植生シートの場合に適用する。
- (3) メーカーによっては、カタログ類、ホームページに市場単価適用製品と明示しているので、参考とすること。
- (4) 上記(1)、(2)及び(3)に該当しない資材を採用する場合には、積上げ方式による積算とする。

9-13-8 植生筋工、筋芝工、張芝工

- (1) 植生筋工については、切土法面には市場単価方式を適用しない。
- (2) 植生筋工については、物価資料（建設物価、積算資料）に掲載されている「筋芝」の品名・メーカーと同等品とする。
- (3) 筋芝工、張芝工については、市場単価方式は天然芝（野芝、高麗芝）の場合のみに適用となるので、適用にあたっては留意すること。

9-14 吹付枠工 (治山林道必携)

9-15 構造物とりこわし工

市場単価 コード No.	無筋構造物 (機械施工)	無筋構造物 (人力施工)
	1660	1661

- (1) 既設コンクリート構造物のとりこわし作業に市場単価方式を適用する。
- (2) 舗装版のとりこわし作業には、市場単価方式は適用しない。

9-16 軟弱地盤処理工 (治山林道必携)
 9-17 鉄筋挿入工(ロックボルト工) (〃)

第1 山地治山土工

1-1 機械土工

1-1-1 適用基準

- (1) 土工は機械施工を原則とするが、現場の諸条件、工事の規模等からやむを得ない場合に限り、人力により施工するものとする。
- (2) 山地治山工の機械土工については、切取りと床掘の区分はしないものとする。
- (3) 山地治山工（A）は、山林砂防工を適用する工事に適用する。
山地治山工（B）は、普通作業員を適用する工事に適用する。
- (4) 転石は径100cm程度以上のものについて破碎手間を計上する。
- (5) 軟岩（I）Aの床掘は、火薬類を計上しない。
- (6) コンクリート工事の床掘において機械施工の砂質土～軟岩（I）A部分については、掘削面整形歩掛を計上し、軟岩（I）B以上については岩盤清掃歩掛を計上する。

1-1-2 施工概要及び施工形態 (治山林道必携)

1-1-3 掘削法及び機種の選定（土砂）

- (1) バックホウによる掘削・積込作業の機種選定

掘削積込機械の適用機種の標準

作業の種類	作業内容	バックホウの規格
・地山の掘削 積込み	1箇所当たりの施工土量が 100m ³ 程度まで、又は平均施工幅 1 m 未満の場合	小規模土工(下記「(2) 小規模土工の機種選定」を参照)
・ルーズな状態の積込み	対象土量 50,000m ³ 未満 平均施工幅 1 m 以上 2 m 未満又は狭隘で旋回範囲に制限がある場合	排出ガス対策型（第1次基準値）クローラ型 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)
	上記以外	排出ガス対策型（第2次基準値）クローラ型 山積 0.80m ³ (平積 0.60m ³)
岩石掘削（機械）	平均施工幅 1 m 以上 2 m 未満又は狭隘で旋回範囲に制限がある場合	大型プロペラ油圧式 600 ~ 800kg 級 (ペースマシン：バックホウクローラ型 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³))
	上記以外	大型プロペラ油圧式 1,300kg 級 (ペースマシン：バックホウクローラ型 山積 0.80m ³ (平積 0.60m ³))
作業土工 (床掘工) (埋戻工)	1箇所当たりの施工土量が 100m ³ 程度まで、又は平均施工幅 1 m 未満の場合	小規模土工(下記「(2) 小規模土工の機種選定」を参照)
	平均施工幅 1 m 以上 2 m 未満又は狭隘で旋回範囲に制限がある場合	排出ガス対策型（第1次基準値）クローラ型 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)
	上記以外	排出ガス対策型（第2次基準値）クローラ型 山積 0.80m ³ (平積 0.60m ³)

(注 1) 上表で示す土量は、1工事当たりの扱い土量である。

(注 2) 機種の選定にあたっては、積込み作業を伴う場合にあっては、「・地山の掘削積込」「・ルーズな状態の積込」により適用機種を選定し、積込み作業を伴わない掘削、床掘作業等については、「作業土工（床掘工）（埋戻工）」により適用機種を選定すること。

(2) 小規模土工の機種選定

小規模土工の機種選定

作業の種類	作業内容	機械名	規格	摘要
・地山の掘削積込 ・ルーズな状態の積込	標準	バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値）クローラ型 山積 0.28m ³ （平積 0.20m ³ ）	
	上記以外	小型バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値）クローラ型 山積 0.13m ³ （平積 0.10m ³ ）	
舗装版破碎積込	—	〃	〃	
床掘り	—	バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値）クローラ型 後方超小旋回型 山積 0.28m ³ （平積 0.20m ³ ）	
埋戻し	—	〃	〃	はねつけ
	タンパ	60～80kg		締固め
運搬	ダンプ	4t 積		バックホウ山積 0.28m ³ （平積 0.20m ³ ） の場合
	トラック	2t 積		バックホウ山積 0.13m ³ （平積 0.10m ³ ） の場合

(注 1) 作業の内容における上記以外とは、構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な箇所及び1箇所当たりの施工土量が50m³以下の箇所とする。

(注 2) タンパは賃料とする。

(注 3) 施工歩掛は「第1編共通工 1-12 小規模土工」による。

(注 4) 積込み作業を伴う場合にあっては、「・掘削積込」「・積込」又は「舗装版破碎積込」により適用機種を選定し、積込み作業を伴わない掘削、床掘作業等については、「床掘り」「埋戻し」により適用機種を選定すること。

(3) 車道開設工事の機種選定、適用歩掛

車道開設工事における機種の選定、適用歩掛は、「第1編 共通工 第1土工」を適用する。

(4) 岩石工の機械損料補正

岩石工に使用されるショベル系掘削機、ブルドーザ、ダンプトラックについては、作業条件が過酷で機械の損耗が激しいので、「第1編 共通工 第1土工 1-7 5(1) 機械損料の補正」により割増しする。

1-1-4 機械別土工歩掛

(1) ブルドーザ歩掛

歩掛コードNo.	4970 (変動)
----------	-----------

1) 1時間当たり土工量 (V_B)

1時間当たり土工量の算定式は、次のとおりとする。

$$V_B = \frac{60}{C_m} \times q \times E \quad (m^3/h\ r)$$

q : 1サイクル当たり掘削押土量 (m^3)

E : 作業効率

Cm : 1サイクルの所要時間 (min)

2) 1サイクル当たりの掘削押土量 (q)

規格	q (m^3)
普通 11t 級	1.28
普通 15t 級	1.73
<u>湿地 20t 級</u>	<u>2.11</u>
普通 21t 級	2.85

1-2 岩石工

1-2-1 掘削工法の選定 (治山林道必携)

1-2-2 山地治山岩石工

(1) 岩石掘削 (機械) 歩掛

1) 大型ブレーカ使用の岩石掘削歩掛は、次表とする。

歩掛け コードNo.	1,300kg級	4473	4474	4475	4476	4477
	600~800kg級	4468	4469	4470	4471	4472

(10 m^3 当たり)

規格	名称	単位	土質・岩質分類				
			軟岩(I)B	軟岩(II)	中硬岩	硬岩(I)	転石
油圧式	大型ブレーカ運転	h	1.17	1.27	2.10	2.60	2.00
1,300kg級	諸雑費率	%	7	12	26	27	12
油圧式	大型ブレーカ運転	h	1.67	1.85	2.78	3.33	2.50
600~800kg級	諸雑費率	%	5	12	25	29	13

備考 1 作業範囲は、機械走行面より上下に5m以内とする。

2 上表には、破碎片除去、法面整形は含まない。

3 大型ブレーカのベースマシンはバックホウ油圧式クローラ型とし、1,300kg級ブレーカについては、山積0.80 m^3 (平積0.6 m^3)、600~800kg級ブレーカについては、山積0.45 m^3 (平積0.35 m^3) とする。

4 転石歩掛は、粒径50cm程度の大きさに破碎するものである。

5 大型ブレーカ用バックホウ運転1時間当たり機械損料の補正係数は+0.25とする。ただし、軟岩(I)B・軟岩(II)を掘削する場合の補正係数は+0.10とする。
(軟岩(I)B・軟岩(II)のブレーカ掘削後の積込排土は当該割増は適用しない)

6 諸雑費率は、大型ブレーカ用チゼル損耗費であり、大型ブレーカ運転経費に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

2) バックホウ岩石床掘

歩掛コード〔ブレーカ使用〕

(渓間)

区分		歩掛コード No.			
岩種	作業条件	0.35m ³		0.60m ³	
		(普)	(山)	(普)	(山)
軟岩 I (B)	普通	4480	4481	4496	4497
	不良	4482	4483	4498	4499
軟岩 II	普通	4484	4485	4500	4501
	不良	4486	4487	4502	4503
中硬岩	普通	4488	4489	4504	4505
	不良	4490	4491	4506	4507
硬岩	普通	4492	4493	4508	4509
	不良	4494	4495	4510	4511

(山腹)

歩掛コード No.	
0.35m ³	0.60m ³
(山)	(山)
4524	4532
4525	4533
4526	4534
4527	4535
4528	4536
4529	4537
4530	4538
4531	4539

(渓間) 歩掛コード〔火薬使用〕

区分		歩掛コード No.	
岩種	作業条件	0.60m ³	
		(普)	(山)
中硬岩	普通	4514	4515
	不良	4516	4517
硬岩	普通	4518	4519
	不良	4520	4521

1 - 3 堀削面整形

1 - 3 - 1 土砂堀削面整形歩掛

歩掛コード No.	4542	4544	4546	4548
(100m ² 当たり)				
土質 職種	砂、砂質土	粘性土 礫質土	岩塊・玉石	軟岩 (I) A
世話役	0.3人	0.4人	0.5人	0.7人
山林砂防工 (普通作業員)	2.0人	2.3人	3.1人	3.7人

備考 1 本表は機械施工のコンクリート構造物の基礎面について計上する。

2 適用範囲は、構造物の設置面であり、余掘部分は整形の対象としない。

1 - 3 - 2 岩盤堀削面整形歩掛 [軟岩 (I) B以上適用]

歩掛コード No.	4550
-----------	------

(10m²当たり)

名 称	単 位	数 量	摘 要
世話役	人	0.15	
山林砂防工 (普通作業員)	〃 (〃)	0.30	
特 殊 作 業 員	〃	0.30	
諸 雜 費 率	%	17	

- 備考 1 本歩掛は、機械施工のコンクリート構造物の基礎面について計上する。
- 2 土質区分は、軟岩 I (B)、軟岩 (II) 等で亀裂等が発達し、機械により基礎面まで掘削することが困難な場合に適用する。
- 3 諸雑費には、空気圧縮機、ピックハンマ等の費用とし、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 4 掘削及び清掃作業は含まない。
- 5 適用範囲は、構造物の設置面であり、余掘部分は整形の対象としない。

1-4 岩盤清掃歩掛 [軟岩(I)B以上適用]

歩掛コードNo.	4554
----------	------

(10m³当たり)

名 称	単 位	数 量	摘 要
世 話 役	人	0.1	
山 林 砂 防 工 (普通作業員)	〃 (〃)	0.4	
諸 雜 費 率	%	19	

- 備考 1 本歩掛は、コンクリート打設面の岩盤を清掃する場合に適用する。
- 2 諸雑費には、電力に関する経費、高圧洗浄機の運転経費等の費用とし、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 3 適用範囲は、構造物の設置面であり、余掘部分は整形の対象としない。

1-5 コンクリート間詰「標準」埋戻し

歩掛コードNo.	4558
----------	------

(10m³当たり)

名 称	単 位	土 質 区 分	
		砂・砂質土・粘性土・礫質土	岩塊・玉石、軟岩 (I) A
山林砂防工 (普通作業員)	人 (〃)	2.4	2.6

- 備考 1 人力盛土（埋戻し）は、仮置された土砂を人力により3m程度までの範囲で投棄し、さらに敷きならしするまでの一連の作業をいう。
- 2 小運搬が必要な場合は、別途計上する。
- 3 タンパ又は振動ローラを使用した締固めを必要とする場合は、締固め歩掛を別途計上する。
- 4 盛土法面整形は、別途計上する。
- 5 重力式コンクリート間詰の埋戻し体積を計算によらない場合は、コンクリート体積10m³当たり、埋戻し体積20m³を標準として良い。

第2 治山ダム工

2-1 コンクリート工

2-1-1 適用範囲

(1) この歩掛は、次表（コンクリート構造物の分類）に示すコンクリート構造物に適用する。ただし、トンネル工、コンクリート舗装工、消波根固ブロック工、橋台、橋梁床版、法枠工ブロック（石）積（張）工の胴込及び裏込コンクリート及び別途定めのあるコンクリート打設には適用しないものとする。

(2) コンクリートは重量配合を原則とする。ただし、小型構造物の場合は重量配合の換算による容積配合とすることができる。

また手練りは少量のモルタル等の場合のみとする。

(3) 玉石コンクリートの施工基準は、単純な経済比較のみでなく品質管理施工の点で十分検討し、現地で玉石を採取してさしつかえないところで純コンクリートと比較して低価の場合玉石コンクリートとする。コンクリート粗骨材は努めて大砂利を使用すること。

(4) コンクリート型式は1作業系統に2以上の工作物があるときはそのうちの最大の体積の工作物によって決定する。ただし、型式決定の対象とした工作物以外の工作物の打設量及び労務人員はそれぞれの規模に応じて計算する。

(5) コンクリート打設にあたっては、パイプレータを使用することを原則とする。

(6) 治山ダム等の水抜は、直径40cm以下については硬質塩ビ管、直径45cm以上はコンクリート管若しくは、水抜直径にかかわらず円筒紙製型枠で設計することを原則とする。

(7) 水抜のコンクリート管はダム1個毎、口径毎に集計して1m未満の端数のある場合は本（型枠用水抜管はm）単位に切上げる。（延長は水抜下縁の延長とする。管長1.2mのものについても1mものに準ずる。）

水抜の硬質塩ビ管、円筒紙製型枠については、水抜き箇所毎の延長を、切上げ10cm単位で集計する。

コンクリート構造物の分類

種 別	コンクリート構造物の種類
無 筋 構 造 物	重力式治山ダム工（谷止、床固）・護岸工等のマッシブな無筋構造物。単純な鉄筋を有する半重力式治山ダム工等の構造物。コンクリート三面張流路工、帶工。
鉄 筋 構 造 物	鉄筋量の多い構造物。
小 型 構 造 物	コンクリート断面積が1m ² 以下で連続している護岸工、治山ダムの間詰、コンクリート量が1m ³ 以下の点在する構造物。

2-1-2 コンクリートの割増率

コンクリート（混合物）は「第1編 共通工 第3コンクリート工 3-1コンクリート工
3-1-3 材料の使用量」による。

コンクリート（生産の場合）は2-8-3 コンクリート材料の割増率による。

胴込・裏込コンクリートは「第1編 共通工 第5共通工（2）5-4巨石コンクリートブロック積（張）工」の各補正係数による。

コンクリート (生産の場合)			コ シ ク リ 一 ト (混 合 物)				
セメント	砂	砂 利	無筋構造物	鉄筋構造物	小型構造物	胴込、 裏込コンクリート	
1%	10%	5%	4%	2%	6%	13%	17%

備考 本割増率はコンクリート及びコンクリート材料のみとする。

2-1-3 投入打設工法の選定

参考

コンクリート打設工法別歩掛適用表

区分	コンクリート				型枠	摘要
	打設工法	運搬費	損失率	養生費		
本体コンクリート コンクリート間詰 (同時打)	人 力	積算しない	4%	無筋構造物	治山ダム	○投入用ホッパ、 シート、コンベヤ類で打設できる場合に適用。
	ポンプ車 (ブームを含む) クレーン車	〃	〃	〃	〃	
	ケーブルクレーン	積算する	〃	〃	〃	
コンクリート間詰 (別打)	人 力 (小型構造物)	積算しない	6%	小型構造物	小型構造物	○本体コンクリートが人力打設の場合並びにポンプ車又はクレーン車打設の場合にも適用。
	ケーブルクレーン (小型構造物)	積算する	〃	〃	〃	
ブロック間詰	人 力 (胴込・裏込)	積算しない	12%	小型構造物	—	○本体コンクリートが人力打設の場合並びにポンプ車又はクレーン車打設の場合にも適用。
	ケーブルクレーン (胴込・裏込)	積算する	〃	〃	—	

(注) 1 コンクリート間詰をポンプ車又はクレーン車により打設する場合は、

同時打設を原則とする。

2 運搬費は、小運搬を除く運搬とする。

2-1-4 人力投入打設歩掛

「第1編 第3 コンクリート工 3-1 コンクリート工」による。

2-1-5 コンクリートポンプ車打設歩掛

(1) 作業能力

設計日打設量及び標準日打設量

条 件	設 計 日 打 設 量 (m³)				
	30 未満 45 未満	30 以上 60 未満	45 以上 100未満	60 以上 100未満	100以上
標準日打設量 (m³／日)	25	35	50	75	130
標準時間当たり	無筋構造物	10.0	14.0	16.0	20.0
打設量 (m³/h)	鉄筋構造物	8.0	11.0	12.0	14.0

備考 1 日当たり打設量は次による。

(ア) 設計打設量 = 総体積 ÷ 打設回数

(イ) 打設回数は、1 リフト高さを 2.0m として次式により算出する。

(小数第1位切上げ単位止)

↓ 袖天端分

a 伸縮継目がない場合 = 堤高 (放水路までの高さ) ÷ 2 + 1

b 伸縮継目がある場合

伸縮継目の区切られたそれぞれの部分の高さ(袖天端までの高さ) 合計 ÷ 2

c 伸縮継目が複数の場合

現状にあった打設回数を計上することができる。

(ウ) 本体間詰一体化工法の場合は、提底部の 1 リフト (H=1.0m) を 1 回 (伸縮継目がある場合は 2 回) とする。

↓ 袖天端分

a 伸縮継目がない場合 = 堤高から 1 リフト (1 m) 差し引いた高さ ÷ 2 + 1 + 1

b 伸縮継目がある場合

↑ 1 リフト分

(伸縮継目の区切られたそれぞれの部分の高さ(袖天端までの高さ) から 1 リフト

(1 m) 差し引いた高さの合計) ÷ 2 + 2

c 伸縮継目が複数の場合

↑ 2 リフト分

現状にあった打設回数を計上することができる。

2-1-6 クレーン車類投入打設歩掛

投入打設範囲

クレーン車による打設工法の標準機種は、ラフテレーンクレーンとして現場状況によりクローラクレーンを選定することができる。

クレーン車打設範囲

名 称	規 格	打 設 範 囲	
		打 設 高 さ	水 平 打 設 距 離
ラフテレーン クレーン	油 壓 式 16t吊	約17m以下	約17m以下
	油 壓 式 20t吊	約25m以下	約18m以下
	油 壓 式 25t吊	約25m以下	約20m以下
クローラクレーン	油 壓 式 50t吊		約30m以下

備考 1 クローラクレーンを使用する場合は、現場条件から打設高さを検討し、適当なブーム長さを設定する。

2 バケットは、0.6m³を標準とする。

2-1-7 コンクリート養生 (治山林道必携)

2-1-8 型 枠 工

(1) 打継型枠歩掛

1 この歩掛の適用は共3-2-3小型型枠とする。

2 型枠面積は1リフトを2mとして計算する。

型枠面積 = 打継箇所の総延長 × 0.6m (片側0.3m)

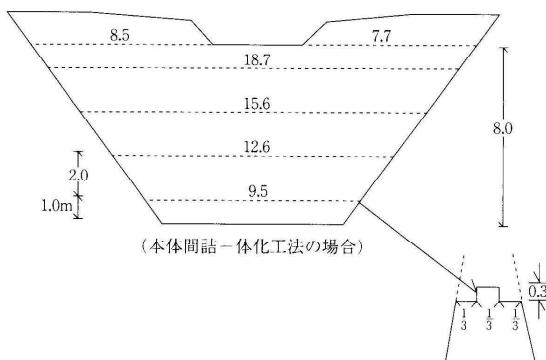
参考

1) 水平打継面型枠数量計算例

ア 小型構造物を計上する。

イ 打設高2m、設置高0.3mを標準とし数量を積算する。

正 面 図



計算例

体積419.3m³の場合 (同時間詰コンクリート数量を除く)

$$(9.5 + 12.6 + 15.6 + 18.7 + 8.5 + 7.7) \times (0.3 \times 2) = 43.56 \div 43.6 \text{ m}^2$$

10m³当たりに換算してコンクリート単価に含める。

$$43.6 \div 419.3 \times 10 = 1.040 \div 1.04$$

$$\text{答 } 1.04 \text{ m}^2 / 10 \text{ m}^3$$

参考

2) 水平打継面挿筋数量計算例

計算例 体積339.6m³の場合

1段 $11.28m \times 3.98m \times 1.30\text{本}/m^2 = 59.0\text{本}$

2段 $15.85m \times 3.08m \times 1.30\text{本}/m^2 = 64.0\text{本}$

3段 $20.42m \times 2.18m \times 1.30\text{本}/m^2 = 58.0\text{本}$

4段 $19.84m \times 1.50m \times 1.30\text{本}/m^2 = 39.0\text{本}$

計 220.0本

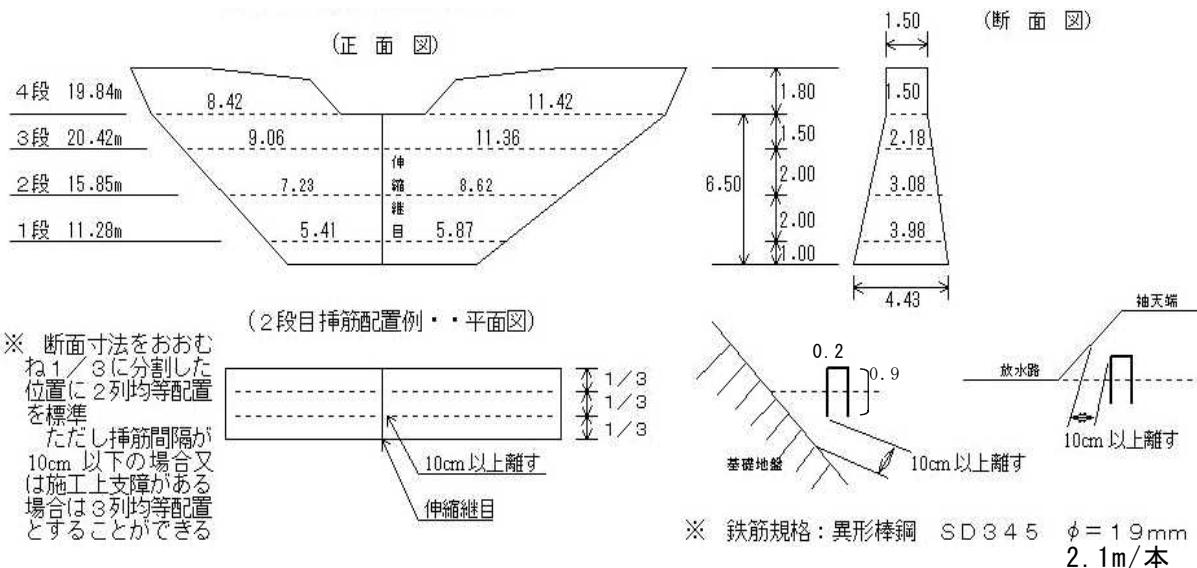
(各打継面毎に少数第1位切上げ単位止め)

※挿筋本数は水平打継面1m²当たり1.30本

※10m³当たりに換算してコンクリート単価に含める

$220\text{本} \div 339.6\text{m}^3 \times 10 = 6.47 \approx 6.5\text{本}/10\text{m}^3$

(少数第2位切上げ1位止め)



(2) 水抜箱抜型枠歩掛

歩掛けコード No.	4610
------------	------

(10m²当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	損 率	摘要
板 材	厚18mm	m ³	0.20	100 %	
角 材	45×60mm	〃	0.05	100 〃	
洋 釘	各種	kg	2.0	100 〃	
塗 布 剤		ℓ	1.0	100 〃	
世 話 役		人	0.1		組立、取除
型 枠 工		〃	2.25		製作、組立及取除
山林砂防工 (普通作業員)		〃	1.6 (〃)		〃

備考 本表は、水抜型枠、箱抜型枠、昇降階段に適用する。

2-2 打継面処理（チッピング）歩掛

（1）打継面処理（接着剤塗布）歩掛

歩掛コードNo.	4616
----------	------

(10m²当たり)

名 称	規 格	単位	数 量
接 着 剂	低 粘 度 樹 脂	kg	8.0
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		人 (〃)	0.3

備考 1 接着剤の塗布は、打継面のうち上流側、下流側の両端より幅1.0mの部分を標準とする。

2 接着剤は湿潤用を使用する。

2-3 打継面清掃歩掛

（1）適用範囲

本歩掛は、平均厚さ1m程度のマッシブなコンクリート構造物を打継ぐ場合の打継面のレイタス除去、水洗い等に適用する。

（2）施工歩掛

歩掛コードNo.	4620
----------	------

(10m³当たり)

名 称	単 位	数 量	適 用
世 話 役	人	0.02	
山林砂防工 (普通作業員)	〃 (〃)	0.10	
諸 雜 費 率	%	12	

備考 1 諸雑費は、高圧洗浄機、発動発電機等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額として計上する。
2 打継面清掃歩掛は治山ダム本体に適用する。

2-4 止水板設置（塩化ビニール樹脂止水板）歩掛 (治山林道必携)

2-5 土工機械解体・組立

(1) 積算

輸送費の積算は、次式により共通仮設費の運搬費に計上する。

$$P = M1 + M2 + Z$$

ただし、P : 分解・組立に要する費用

M1 : 分解に必要な労務費（分解工数は次表による。）

M2 : 組立に必要な労務費（組立工数は次表による。）

Z : 分解・組立に使用されるラフテレーンクレーン・クローラクレーン又はケーブルクレーンの運転に係る費用（次表による）

(1台当たり)

種別	部品質量分解時最大(t)	延工数	ケーブルクレーン運転日数 (日)	ラフテレーンクレーン又はクローラクレーン運転時間 (h)	諸雑费率 (%)
		特殊作業員(人)			
分解	3	$M = (1.4 \cdot W - 2.7) \cdot 1.3$	$D = 0.2 \cdot W - 0.4$	$H = 1.6 \cdot W - 3.0$	—
	4	$M = (1.2 \cdot W - 3.2) \cdot 1.3$	$D = 0.2 \cdot W - 0.5$	$H = 1.3 \cdot W - 3.6$	—
	5	$M = (0.6 \cdot W - 1.5) \cdot 1.3$	$D = 0.1 \cdot W - 0.2$	$H = 0.7 \cdot W - 1.6$	—
組立	3	$M = (1.6 \cdot W - 3.1) \cdot 1.3$	$D = 0.3 \cdot W - 0.5$	$H = 1.7 \cdot W - 3.2$	2
	4	$M = (1.4 \cdot W - 3.7) \cdot 1.3$	$D = 0.2 \cdot W - 0.6$	$H = 1.4 \cdot W - 3.8$	2
	5	$M = (0.7 \cdot W - 1.7) \cdot 1.3$	$D = 0.1 \cdot W - 0.3$	$H = 0.7 \cdot W - 1.7$	4

備考 1 M : 延工数(人), W : 機械質量(t), D : 運転日数(日), H : 運転時間(h)を示す。

- 2 M, D, H は小数点以下1位まで2位以下切捨てる。
- 3 Wの適用範囲は、それぞれの分解時最大部品質量を越え25tまでとする。
- 4 分解時及び組立時に使用する機械は現場条件を考慮し、ケーブルクレーン・ラフテレーンクレーン・クローラクレーンのうちいずれか一機種を選定する。
- 5 ケーブルクレーンの規格(吊上能力)は、分解時最大部品質量、コンクリート運搬量を考慮し決定する。
- 6 ラフテレーンクレーン・クローラクレーンの規格は、分解時最大部品質量、現場条件を考慮し決定する。
- 7 分解・組立に使用するクレーン類の回送時間は、上表の運転時間(日数)には含まれない。
- 8 ブルドーザ21t級については分解時最大部品質量が3tを越えるため4t又は5tを適用する。
- 9 搬入で分解・組立、搬出で分解・組立を計上する。
- 10 ケーブルクレーン1日当たり運転時間は6.7時間とする。
- 11 諸雑費は、分解・組立時に必要な消耗品(油圧作動油、鉄線等)であり、組立労務費の合計に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。
- 12 本歩掛は3tを標準とする。
- 13 ケーブルクレーンを使用する場合は、積卸し労務を計上しない。
- 14 ケーブルクレーンの運転経費は特殊作業員。

(2) 土工機械分解組立単価表

参考(1)

バックホウ分解・組立歩掛表 (分解時最大部品質量 : 3 t)

歩掛コードNo.			4630～4633, 4642	4636～4639, 4643	—
種 別			0.2 m ³	0.35 m ³	0.6 m ³
分解	特 殊 作 業 員	人	9.2	17.9	32.5
組立	特 殊 作 業 員	〃	10.5	20.5	37.1
諸 雜 費 %			組立労務費の2%		
ケーブルクレーン運転日数			日	2.6	4.9
ラフテレンクレーン 運転時間			時	16.9	32.6
					59.0

w : 0.2 m³→7.0t 0.35 m³→11.8t 0.6 m³→19.8t

参考(2)

バックホウ分解組立単価表							1.0式
(構造) 0.2 m ³ バックホウの場合の例							
名 称	形 式	数 量	単位	単価	金額	単価表番 号	備 考
バックホウ 分解組立		1.0	式	円	円		
特殊作業員		9.2	人				分解
		10.5	〃				組立
諸 雜 費		2.0	%				組立労務費×0.02
(ア) 小計							
ケーブルク レーン運転 経費	モッコ適用 ○型○m 架設	2.6	日				分解1.0 組立1.6
(イ) 小計							
トラックク レーン運転 経費	○t 吊	16.9	時				分解8.2 組立8.7
(ウ) 小計							
ケーブルクレーン使用 の場合	(ア) + (イ) × 2 (搬入 + 搬出)						
トラッククレーン使用 の場合	(ア) + (ウ) × 2 (搬入 + 搬出)						

2-6 鋼製ダム工歩掛

2-6-1 バットレス式鋼製ダム

(1) 施工歩掛

本歩掛は、バットレス式鋼製ダムの組み立てに適用する。

(1 t当たり)

区分 高さ	単位	4.5m以下	4.5~6.0m未満	6.0m以上
世話役	人	0.3	0.3	0.3
山林砂防工	〃	3.0	2.7	2.4
ラフテレーンクレーン	日	0.2	0.2	0.2
ケーブルクレーン	旦	0.25	0.25	0.25

備考 1 本表には20m以内の小運搬を含む。

2 ラフテレーンクレーンの規格は、油圧伸縮ジブ型16t吊を標準とする。

3 本表の高さは、基礎部から放水路天端までの直高とする。

2-6-2 (参考歩掛) スリットダム歩掛 (治山林道必携)

2-7 (参考歩掛) 挿し筋による水平打継面処理工 (〃)

2-8 (参考歩掛) 現場混合コンクリート

2-8-1 人力混合投入打設歩掛 (治山林道必携)

2-8-2 機械混合

モルタル打設歩掛 (10m³当たり)

区 分 ミサ容量	標準打設量	投 入 打 設		
		世話役	特殊作業員	山林砂防工(普通作業員)
0.1m ³	8.5m ³	0.35人	2.35人	2.00人
0.2	17.5	0.46	1.71	1.54
0.4	33.0	0.24	1.06	1.27
0.6	49.5	0.16	0.91	0.95

備考 1 この歩掛は、養生(一般養生)作業を含む。

2 小運搬を必要とする場合は別途積算する。

2-8-3 コンクリート材料の割増率 (治山林道必携)

2-9 残存型枠工(プレキャスト) (治山林道必携)

2-10 ソイルセメント工 (〃)

2-11 水抜管敷設歩掛表(ヒューム管)

共4-1-5

2-1-2 水抜管敷設歩掛表（硬質塩化ビニール管）V U 管

(10m当たり)

歩掛コードNo.	4660		4662		4664	4666	4668	4670	4672	4674
内径 区分	mm 50	75	100	125	150	200	250	300	350	400
山林砂防工 (普通作業員)	人 0.04	0.05	0.06	0.07	0.08	0.10	0.11	0.20	0.26	0.33
雜 材 料	水抜管価格の5%									
重 量	kg 5.2	11.6	17.4	27.4	39.4	65.7	97.6	137.0	180.5	230.6

備考 本表は、治山ダム等に使用する場合に適用し、ケーブルクレーン等の小運搬を含む。

2-1-3 水抜管敷設・撤去歩掛（円筒型枠）

内径m/m	厚m/m	外径m/m	長m/本	重量 kg/本	山林砂防工 (普通作業員) 人/m	歩掛けコードNo.	
						(山)	(普)
200	4.0	210	4	9.4	0.06	4681	4680
250	4.2	260	4	13.2	0.06	4683	4682
300	5.3	311	4	15.0	0.08	4685	4684
350	5.8	362	4	18.0	0.09	4687	4686
400	6.3	413	4	23.0	0.09	4689	4688
450	7.0	464	4	27.0	0.11		
500	7.1	515	4	33.0	0.11	4691	4690
550	8.0	566	4	38.0	0.14		
600	8.0	616	4	45.0	0.14	4693	4692
650	8.5	667	4	48.0	0.14		
700	9.0	718	4	55.0	0.15	4695	4694
750	9.5	769	4	63.0	0.15		
800	9.5	819	4	67.0	0.15	4697	4696
900	10.2	921	4	83.0	0.15	4699	4698
1000	10.2	1,021	4	92.0	0.17	4701	4700
1200	14.0	1,228	4	147.0	0.18		

2-14 天端保護工歩掛

(10m²当たり)

厚さ 1日当り 作業量	名称 規格	エポキシ プライマー	ダック コート	エキポシ 樹脂	硅砂 4号 6号	機械経費	特 殘 作業員	山 林 砂防工 (普通作 業員)
	5mm	40 m ²	2.20kg	3.50kg	16.00kg		0.25日	0.25人
10	30	2.20	3.50	32.00	172.00	0.33	0.33	0.33

備考 1 本表は総数量100m²以下の場合なので100m²以上の場合は20%減とする。

2 機械経費内訳表

機 械 名	規 格	機械損料	燃 料 費	摘 要
ペイントミキサー	0.57kw	1 日	—	—
モルタルミキサー	0.08m ² 1.5kw	1	—	—
発 動 発 電 機	3KVA5.5PS	1	3.5	

2-15 伸縮継目歩掛

(10m²当たり)

歩掛けコードNo.	名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
4704 ～ 4710	目 地 材	瀝青質 厚さ1cm	m ²	10.5	加工ロス含む
	型枠設置撤去		m ²	10.0	型枠設置・撤去歩掛け適用
	山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	0.5人	目地材加工取付け

備考 1 伸縮継目は、型枠（ダム型枠）で仕切り、片側にコンクリートを打設し、継目には瀝青質目地材（厚さ1cm）を使用する。

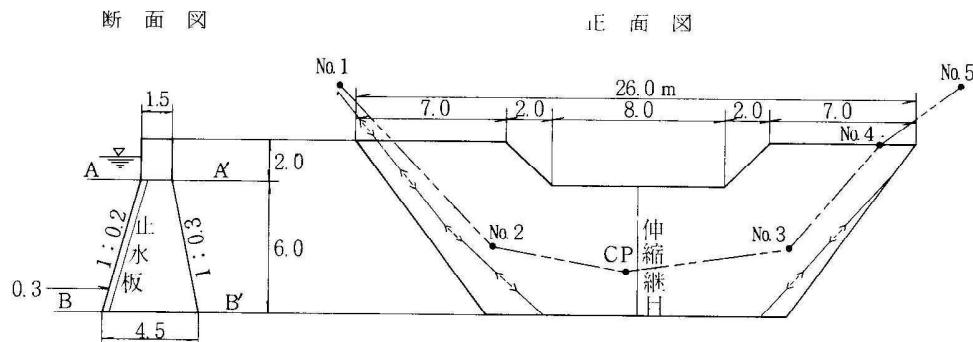
なお、常水のある箇所の構造物には、漏水防止のため止水板（標準 塩ビ樹脂製センターバブル型、幅20cm～30cm、厚さ5mm）を設置する。

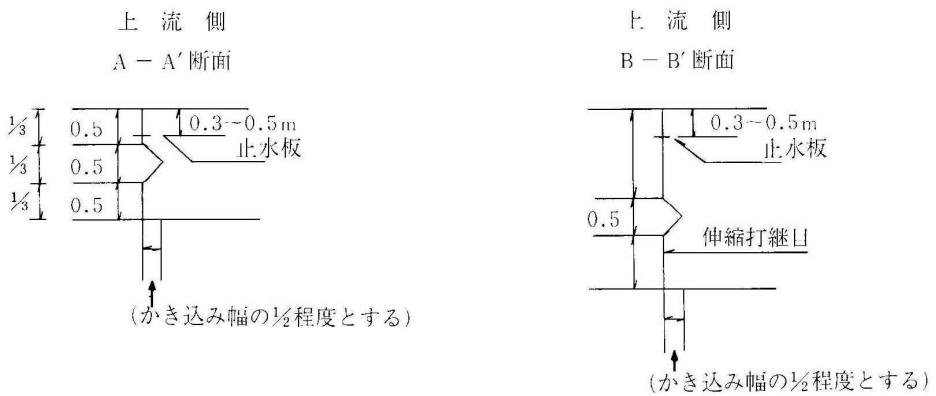
2 土留工・護岸工等は鉄筋無筋構造物の型枠を適用する。

3 最大高さ1m程度の構造物は、小型構造物の型枠を適用する。

伸縮継目・止水板標準図 S=1/250

伸縮継目・止水板配置図 S=1/200





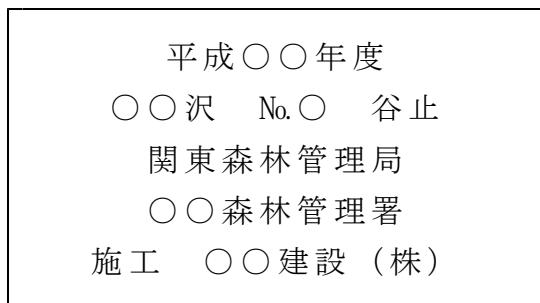
2-16 堤名板の取付

基 準		(1枚当たり)	
歩掛コードNo.	治山ダムの体積	板の大きさ	摘要
4714	300m³未満	0.3×0.4 m	彫刻文字は下記の例による。 材質は軽合金または石材とする 価格は素材代加工彫刻運搬を含む。
4716	300～1000m³	0.4×0.55m	
4718	1000m³以上	0.6×0.8 m	

備考 (ア) 鋼製ダムは鋼材 1tをコンクリート40m³と換算して適用する。

(イ) 取付は山林砂防工(普通作業員)0.1人を計上する。

<例>



備考 書体は楷書とする。

2-17 昇降金具取付歩掛

歩掛コードNo.	4723～4727
----------	-----------

(1基当たり)

名 称	規 格	数 量	単位	摘 要
昇 降 金 具	φ19×300mm		本	
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		0.2	人 (〃)	

備考 放水路の直高が1.0mを超える場合は、必要に応じて立上り部に取り付けることができる。

なお、昇降金具の本数等は、治山工事共通特記仕様書（第20条）による。

第3 山腹工

3-1 のり切工

3-1-1 人力のり切工

歩掛コードNo.	4730～4733	4734～4737
----------	-----------	-----------

(10m³当たり)

名 称	単位	砂・砂質土、粘性土、礫質土	軟岩(Ⅰ)A	摘 要
山林砂防工 (普通作業員)	人(〃)	2.0	3.2	

備考1 法面整形や土砂の移動が必要な場合は、別途計上する。

2 軟岩(Ⅰ)B以上の法切を要する場合は火薬使用の岩石掘削歩掛による。

3 機械施工の場合は掘削歩掛(バックホウ135°)を使用する。

4 作業条件による歩掛の補正は、原則として次表による。

斜面傾斜角度	60度未満	60度以上
増 減 率	0	+20%

3-2 かご工(A)

3-2-1 かご工(A)

(1) 施工歩掛

1) ふとんかご

ふとんかご施工歩掛は、次表を標準とする。

歩掛コードNo.	4744
----------	------

(10m当たり)

ふとんかご規格	高(cm) 幅(cm)	40	50		60	100		摘要
		120	200	120	200			
名 称	規 格	単位						
詰 石		m ³	4.6	5.7	9.5	6.8	11.0	19.0
世 話 役		人	0.6	0.7	1.1	0.8	1.3	2.3
特 殊 作 業 員		〃	0.6	0.8	1.3	0.9	1.5	2.6
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		〃 (〃)	1.7	2.1	3.5	2.5	4.1	7.0
バックホウ運転	排出ガス対策型 クローラ型山積 0.5 m ³ (平積 0.4 m ³)	h	2.3	2.9	4.8	3.4	5.5	9.6

備考1 本歩掛は、床拵え、吸出防止材設置、かご組立・据付、詰石、埋戻し及び平均距離30mまでの小運搬を含む。ただし、平均小運搬距離が30mを超える場合は、運搬工を別途計上する。

2 本歩掛は、階段式にのみ適用し、スロープ式には適用しない。

3 詰石量は、補正済(式5-1)の数量である。

4 運搬機械が上表により難い場合は、別途考慮する。

5 吸出防止材の設置の有無にかかわらず上表を適用することができる。ただし設置する場合は、材料を別途計上すること。なお、吸出防止材は厚さ10mmを標準とする。

6 ふとんかごの撤去歩掛は、上表の50%とする。

7 止杭を必要とする場合、打込みに止杭1本当たり山林砂防工(普通作業員)0.06人を別途
計上することができる。なお、止杭は松丸太末口9cm、長さ1.5mを標準とする。

8 連結線として、ふとんかごと同一な鉄線をフトンかご10m当たり1.0kg程度を積算する。
※共通工(2)5-18かご工(B)にも適用する。

(2) 単価表

1) 止杭10本当たり単価表

歩掛コード No.	4750
-----------	------

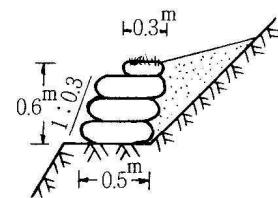
名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	0.6	(4)-1) 備考 5
止 杭	松丸太末口(D)=90mm、長さ(L)=1.5m	本	10	
計				
鉄筋杭の場合、0.11人/10本とする。L=1.5m程度				

3-2-2 土のう積土留工

(1) 4段積

(1m当たり)

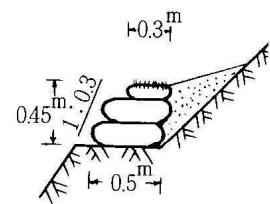
構造 土のう3段積種子付土のう1段重ね H=0.6m 法3分				
種 别	規 格	単位	数 量	摘 要
土 の う	70cm×48cm	袋	9.7	
〃	種子付土のう41cm×60cm	〃	2.0	
土 砂		m ³	0.4	現地土砂使用
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	0.36	
内訳 {		〃	0.29	土のう擁及積立一切
		〃	0.07	床擁及埋戻一切



(2) 3段積

(1m当たり)

構造 土のう2段積種子付土のう1段重ね H=0.45m 法3分				
種別	規格	単位	数量	摘要
土のう	70cm×48cm	袋	6.5	
〃	種子付土のう41cm×60cm	〃	2.0	
土砂		m ³	0.3	現地土砂使用
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	0.28	
内訳		〃	0.21	土のう拵及積立一切
		〃	0.07	床拵及埋戻一切



3-3 積苗工

(1) 緑化柵工単価表 (構造 高0.3m)

(10m当たり)

名称	形状	数量	単位	備考
緑化柵	塗装品エキスパンドメタル、枠、杭、緑化マット付	10.0	m	現地着価格、別紙標準図のとおり
山林砂防工 (普通作業員)		0.62	人 (〃)	
		0.18	〃	組立仕上1式10m当たり 0.18人
		0.04	〃	マット張付10m当たり 0.04人
		0.32	〃	鋼杭打込10m当たり 11.34本 0.28人／10本 × 11.34本
		0.08	〃	階段切付 (A) 磯質土 階段幅0.3m 35度未満
計				

3-4 筋工

(1) 植生帯筋工歩掛

歩掛コードNo.	4764
----------	------

(10m当たり)

名称	形状・寸法	単位	数量	摘要
植生帯	種子入50×10×1cm	枚	20	
目串	竹、鉄線等	本	60	10m当たり 60本使用
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	0.12	整地、溝切り、張付け仕上げ

備考 1 本歩掛には、20m程度の現場内小運搬を含む。

2 三層ホーレスターの場合は0.4人/10mとする。

3 整地歩掛は、(7)筋工に使用する斜面整地歩掛を適用する。

(2) 植生袋筋工歩掛

歩掛コードNo.	4766
----------	------

(10m当たり)

名 称	形 状 ・ 寸 法	単位	数量	摘 要
植 生 袋	33×16×4 cm	袋	30	
混 土		m ³	0.08	
目 串	長15~30cm 径0.8~2.5cm	本	60	1袋につき2本使用
肥 料		kg		必要量
種 子		"		100枚につき0.20~0.50kg
ホッチキス針	#10	本	120	植生袋口4ヶ所止
山林砂防工 (普通作業員)		人(〃)	0.16	配合、練混ぜ、袋詰め
		"	0.04	混土採取
		"	0.14	張付け、仕上げ

備考 1 種子、肥料は、施工地の状況によって決定する。

2 本歩掛には、20m程度の現場内小運搬を含む。

3 材料採取運搬、整地、階段切付、溝切付等は必要に応じて別途積算する。

4 目串になまし鉄線(#10 L=25cm)を使用する場合は目串加工は100本当たり0.05人とする。

(3) 植生土のう筋工歩掛

歩掛コードNo.	4768
----------	------

(10m当たり)

名 称	形 状 ・ 寸 法	単位	数量	摘 要
植 生 土 の う	仕上寸法0.5×0.3×0.1m	袋	20	
中 詰 土		m ³	0.36	
止 釘	鋼棒D=10mm L=0.45mm	本	80	1袋当たり4本使用
山林砂防工 (普通作業員)		人(〃)	0.2	袋詰め込み
"		"	0.15	張付け仕上げ 止釘打込み
"		"	0.18	中詰土採取

備考 1 本歩掛には、20m程度の現場内小運搬を含む。

2 運搬は必要に応じ積算する。

3 溝切が必要な場合は、次の山林砂防工(普通作業員)を積算することができる。

砂質土、粘性土、礫質土の場合は0.26人／100m、軟岩(I) Aの場合0.40人／100m。

(4) 植生土のう積工歩掛

(10m²当たり)

名称	形 状 ・ 寸 法	単位	数量	摘 要
植生土のう	仕上寸法0.5×0.3×0.1m	袋	200	
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	2.0	袋詰10袋当たり0.1人
"		"	2.5	積上げ20袋当たり0.25人

(5) 植生盤筋工(L-Gグリーン使用)歩掛

(10m当たり)

名 称	形 状 寸 法	単位	数量	摘 要
L-Gグリーン	幅10×長30×厚5cm	個	33.3	0.8kg/個、種子付
アンカーピン	鉄線 長 20cm	本	66.7	
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	0.20	張付仕上

備考 1 材料運搬、斜面整地、階段切付、溝切付等は必要に応じて計上する。

2 種子は、施工場所による必要量を指示する。

標準量は次のとおり

トールフェスタ	500粒	25.0 g
グリーピング R F	485 "	12.5 "
ウイーピングラブG	600 "	5.0 "
ホワイトクローバー	420 "	7.5 "
	Σ	50 g / m ²

(6) 植生盤筋工歩掛

(100枚当たり)

名 称	形 状 寸 法	単位	数 量	摘 要
植 生 盤	25×20×3cm	枚	100	1m当たり4枚使用
混 土		m ³	0.3	空隙50%
粘 土		kg	5	必要の場合のみ
わ ら 筋	21×16cm	枚	100	"
切 わ ら		kg	1.5	"
目 串	径0.8~2.5cm 長15~30cm	本	200	1枚につき2本使用
肥 料			必要量	100枚につき 1.5~2.5kg
堆 肥			"	" 10.0~20.0kg
種 子			"	" 0.20~0.30kg
古 新 聞 紙		kg	0.3	
混 合 水		L	55	
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	0.15	混土採取
"		"	1.00	配合、練混ぜ、プレス、製作
"		"	0.30	張付、仕上

備考 1 材料採取運搬、斜面整地、階段切符、溝切付等は必要に応じて別途計上する。

2 この歩掛で積算し、単位当たり(1枚当たり)単価を算出し適用する。

(7) 筋工に使用する斜面整地歩掛

筋工に使用する斜面整地歩掛は下表を適用する。

(筋工 10m当たり)

山腹平均傾斜角	筋 間 直 高								
	0.3m			0.4m			0.5m		
	砂質土 粘性土	礫質土	軟 岩 (I) A	砂質土 粘性土	礫質土	軟 岩 (I) A	砂質土 粘性土	礫質土	軟 岩 (I) A
15~25度	0.20人	0.32人	0.39人	0.27人	0.42人	0.51人	0.34人	0.53人	0.64人
26~35〃	0.14	0.22	0.26	0.18	0.29	0.35	0.23	0.36	0.44
36~45〃	0.11	0.17	0.21	0.14	0.22	0.27	0.27	0.28	0.34

(注) 植生帯筋工に使用する斜面整地歩掛は上表の1/3を加算することができる。

3-5 実播工

(1) 斜面実播工歩掛

① 斜面実播工 (A) 歩掛 (10m²当たり)

名 称	形 状 尺 法	単位	数 量	摘 要
種 子		kg		
肥 料		"		
肥 土		m ³	0.50	
山林砂防工 (普通作業員)		人 (")	0.05	肥土、肥料、種子混合
"		"	0.15	播種、施肥
"		"	0.25	肥土採取

備考 1 種子、肥料は、施工地の状況によって決定する。

2 本歩掛には、20m程度の現場内小運搬を含む。

② 斜面実播工 (B) 歩掛 (100m²当たり)

名 称	形 状 尺 法	単位	数 量	摘 要
山林砂防工 (普通作業員)		人 (")	0.1	
手播用実播材	1袋 (20kg)	袋	1.0	

備考 1 この歩掛は、種子、肥料、粘着剤等の混合済の実播材を使用する場合に適用する。

2 斜面整地を必要とする場合は、別途加算することができる。

[参考] 標準配合種子

トールフェスク
 クリーピングRF
 ケンタッキーブルーグラス
 ヨモギ
 メドハギ

3 - 6 航空実播工

(施工の面積が10ha以上かつ、1箇所の平均施工面積が1ha以上の場合は(4)大型航空実播工による。)

(1) 飛行経費

飛行経費は、空輸費、作業飛行費、確認飛行費及び夜間繫留ヘリポートと現地ヘリポート間の飛行費とする。

1) 空輸費

基地から現地ヘリポートに移動する経費で次式によって算出し、共通仮設費に計上する。

$$\text{空輸費} = (\text{標準空輸距離}) \div \text{空輸飛行速度 (km/hr)} \times 1 \text{ 時間当たり空輸料金}$$

備考 1 基地は、旭川、秋田、仙台、東京、名古屋、大阪、高松、福岡、鹿児島とし、最寄り基地を選定する。

2 空輸距離は単位以下四捨五入単位止とし、時間は小数以下4位四捨五入3位止とする。

3 空輸距離は基地から現地ヘリポートまでの直線距離を原則とし、ヘリコプター機体移動標準距離表を参考にして決定する。

(2) 地上作業の積算(直接工事費)

① 地上作業歩掛

(1日当たり)

名称	形状・寸法	単位	スラリー方式	空播き方式	摘要
世話役		人	1.0	1.0	ヘリコプター誘導を含む
運転手		〃	1.0		種子吹付機運転
特殊作業員		〃	1.0	1.0	揚水ポンプ運転積込み
山林砂防工 (普通作業員)		〃 (〃)	6.0	4.0	資材運搬、計量、投入
機械損料	車載式種子吹付機30kw/PS	時	5.0		
機械損料	ポンプ可搬自吸式口径40mm 1.4kw(PS)	日	1.0		1日稼働時間 5時間
燃料費	軽油	L	21.5		
〃	ガソリン	〃	2.6		

備考 1 アスファルト工法の場合は下表による。

作業種	名称	数量	歩掛コードNo
アスファルト乳剤 の積込み	世話役	1.0人	4778
	山林砂防工(普通作業員)	2.0	
種子、肥料、混和剤 等の積込み等	世話役	1.0	4779
	山林砂防工(普通作業員)	4.0	

2 追肥工の場合は本表によらず、資材積込み等に世話役1.0人、山林砂防工(普通作業員)4.0人を積算する。

② 実 播 工 (追肥、追播を含む)

地上における作業及び種子、肥料、養生剤等を積算するものであるが、各種資材の運搬費等については一般治山工事に準ずる。

ア 種 子

施工地の環境に順応し、生長旺盛で地力を増進するものを選定し、施工後2カ月で生立本数m²当たり5,000本程度を標準として播種を決定する。

イ 肥 料

三要素が適当に配合され、肥効が持続し、散布ロスの少ないものを選定する。

ウ 養生剤

散布した種子を山腹面に固定させ、表土を安定させて植生の発芽生育に障害がなく、少量で効果があるものを選定する。

エ 混和剤

土壤改良剤、粘着剤、鳥獣忌避剤、着色剤等

(3) 積上げ共通仮設費の積算

ヘリコプターに係る積上げ共通仮設費の積算は次による。

1) 運搬費

ア 空輸費

イ 夜間繫留ヘリポートと現地ヘリポート間の飛行費

2) 準備費

ア 確認飛行費

イ 待機日経費

待機日は、天候及びその他の支障により作業飛行不可能な日であって10日に3日を休止日とする。待機日1日当たりの所要経費は、1時間当たりの空輸料金を計上する。

待機日数は次式による。

$$\text{待機日(日)} = \{[(\text{作業飛行時間} + \text{確認飛行時間}) \div 4] \div 10\} \times 3$$

但し、待機日は単位以下3位四捨五入し、2位止めとする。

ウ 夜警費

夜警費は、夜間におけるヘリコプターの夜警に掛かる経費であり、山林砂防工(普通作業員)を夜警日1日当たり1人計上する。夜警日の日数は繫留日数と待機日を合わせた日数とする。なお、繫留日数は、(4)-4)の夜間繫留ヘリポートと現地ヘリポート間の飛行日の繫留日数とするが、ヘリポート間を発飛行しない場合においても繫留が必要な場合は、繫留日数の算出方法と同様の内容で算出するものとする。

3) 仮設費

ヘリポート及び種子等の混合場所の整地、補強、支障木等の除去復元に伴う経費を現場状況により計上する。

ヘリポートの規模は面積2,500m² (50m×50m) 以上で傾斜が5度以内とする。ただし、地盤が軟弱な場合は100m²程度のコンクリートパネル(板厚10mm)を敷くものとする。敷き手間は1人/100m²とする。

4) 役務費

ヘリポート及び散布材料の混合場所等の土地借上料等が必要な場合に計上する。

5) 営繕損料

必要に応じて計上する。

6) 安全費

必要に応じて計上する。

7) 率計算による共通仮設費の積算

森林整備Aの率を適用し算出するものとする。

8) 現場管理費

森林整備の率を適用するものとする。

9) 一般管理費等

(1) 航空会社と契約する場合

(工事原価 - 飛行経費) × 一般管理費率 = 一般管理費

(4) 大型航空実播工（施工地の面積が10ha以上かつ、1箇所の平均施工面積が1ha以上の場合に適用。）

① 機種の選定

ベル204B型ヘリコプター、及び、これと同程度の性能をもつ機種とする。

② 飛行諸元

型式 機種		大 型 型		摘 要	
区 分		ベ ル 2 0 4 B 型			
空輸飛行速度		150km/h			
ヘリポートから散布地間飛行速度		往路 60km/h	復路 100km/h	片道 3km 未満	
〃		〃 80 〃	〃 110 〃	〃 3~6 〃	
〃		〃 90 〃	〃 120 〃	〃 6~9 〃	
〃		〃 90 〃	〃 135 〃	〃 9km 以上	
散布飛行速度		60km/h			
有効散布幅	粉状体	30m			
	粒状体	20m			
	液状体	10~20m			
	泥状体	5~15m			
	旋回時間	0.15min/1回		本表の旋回時間は標準であって現地に応じて決定する。	

③ 日当たり標準作業時間

4時間とする。

④ 飛行経費

作業飛行時間は、資材積込地から散布地までの往復、水平飛行時間、上昇に要する時間、散布に要する飛行時間、バケット吊上げ時間であって、次により算出する。ただし、夜間繫留ヘリポートを設ける場合は、現地ヘリポートとの往復飛行時間を見込んだもの。

ア 資材積込地から散布地までの往復に要する時間を算出する。

(ア) 飛行ルートの決定

飛行ルートは1/5,000の地形図を利用して決定するが、この場合資材積込地から散布地まで急激な勾配にならないよう決定する。

(イ) 水平飛行時間

飛行時間は飛行ルートの距離、ヘリポートから散布地間を飛行速度の作業時の速度で徐したもので秒単位まで算出する。

(ウ) 上昇時間

上昇時間は飛行ルートの傾斜1/10より大きい部分を計上する。算出方法は、標高差1/10より高い部分を上昇速度で徐したもので秒単位まで算出する。

(エ) バケットの吊上げ時間

1回当たり30秒とする。

(オ) 1回当たりの飛行時間の算出

傾斜1/10以下の場合

(片道距離+往水平飛行速度) + (片道距離÷復水平飛行速度) + バケット吊上げ時間

傾斜1/10以上の場合

(傾斜1/10以下の場合の時間) + {(標高差-1/10以内の標高差) ÷ 上昇速度}

イ 散布に要する時間

{(施工地面積÷散布有効幅) ÷ 散布速度} + (旋回回数×旋回時間) = 全体の散布に要する時間(分)

ウ 飛行経費の算出

(ア) 1回当たりの積載量

高度(m)	気温(0°)	-10°C	11°C~20°C	21°C~25°C	26°C~30°C
標高 0~500m 未満		1,250 kg	1,000 kg	900 kg	750 kg
500~1,000 "		1,050	800	700	600
1,000~1,500 "		850	600	500	400
1,500 以上		650	450	300	—

備考 1 気温は月平均気温である。

2 バケット重量150kgを含んだ重量である。

(イ) 1日の標準作業時間

1日当たり4時間とする。

(ウ) 1時間の作業飛行料金

各年度の標準作業料金とする。

⑤ 地上作業歩掛

ア

(1日当たり)

名 称	形 状 尺 法	単位	数 量	摘 要
材 料				
特 殊 作 業 員		人	1.0	ミキサー、揚水ポンプ運転
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		"	6.0 (")	資材、計量、混合積込み
世 話 役		"	2.0	ヘリコプター誘導員
機 械 損 料	車載式種子吹付機 30ps	h	5.0	1日稼働時間 5 時間
"	ポンプ可搬自吸式口径 40mm 1.4ps	日	1.0	" "
燃 料 費	軽油	L	21.5	
	ガソリン	"	2.6	

備考 1 材料はそれぞれの必要数量を積算する。

2 材料のロス率は5%を標準とする。

3 アスファルト工法の場合は下記による。

(1日当たり)

作 業 種	名 称	数 量
アスファルト乳剤の積込み	世 話 役	1.0 人
	山 林 砂 防 工(普通作業員)	2.0 "
種 子、肥 料、混 和 剂 等 の 積 込 み 等	世 話 役	2.0 "
	山 林 砂 防 工(普通作業員)	4.0 "

4 追肥工の場合は、本表によらず資材積込み等に世話役2.0人、山林砂防工(普通作業員)4.0人を積算する。

イ 実 播 工

小型機に同じ

⑥ 積上げ共通仮設費の積算等

航空実播工を適用する。

参考

① ヘリコプター作業の工期算定

工期については、ヘリコプター作業は天候に左右され易いので、各地の気候、その他を考慮して決定すること。

(参考) ヘリコプター実播に於ける旋回回数の算出例

(1) 実 播 工

- 1) 因 子 ① 崩壊地 1ヶ所当たり平均面積 384 m²
- ② " " 平均崩壊地幅 $\sqrt{384} = 20$ m
- ③ 1ha当たり散布総量(液状) 15,303 kg
- ④ 1 m²当たり散布量 $15,303 \div 10,000 = 1.53$ kg
- ⑤ 搭載量 190 kg
- ⑥ 有効散布幅 6 m

2)	1搭載量の散布可能面積	$190 \div 1.53 =$	124 m ²
3)	1回当たり散布延長	$124 \div 6 =$	21 m
4)	旋回回数	$21m \div 20 = 1$ 回	1 回
(2) 追 肥			
1)	因 子	① 崩壊地 1 ケ所当たり平均面積	384 m ²
		② " " 平均崩壊地幅	20 m
		③ 1 ha当たり散布総量 (粒状)	700 kg
		④ 1 m ² 当たり散布量	0.07 kg
		⑤ 搭載量	190 kg
		⑥ 有効散布幅	20 m
2)	1搭載量の散布可能面積	$190 \div 0.07 =$	2,714 m ²
3)	1回当たり散布延長	$2,714 \div 20 =$	136 m
4)	旋回回数	$136m \div 20 = 7$ 回	7 回

(3) 旋回回数が偶数回数の場合は1回を加える。

(2) 待機日の日数計算

待期日について

天候及びその他の支障により作業飛行不可能な日であって10日に3日を休止日とする。待機日 1 日当たりの所要経費は1時間当たりの空輸料金を計上する。

日数計算は次による。

$$\{((作業飛行時間 + 確認飛行時間) \div 4 \} \div 10 \} \times 3 = \text{待機日} \text{ (小数第2位四捨五入)}$$

3-7 伏工

(1) マット伏工(金網付き)歩掛

歩掛コードNo.	4784
----------	------

(100m²当たり)

名称	形状・寸法	単位	数量	摘要
金網付マット	ヤシ繊維、種肥付 厚さ3mm	m ²	115	亀甲金網付
アンカーピン		本		
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	4	

(2) マット伏工(金網別)歩掛

(100m²当たり)

名称	形状・寸法	単位	数量	摘要
マット	ヤシ繊維、種肥付 厚さ3mm	m ²	115	金網別
金網	亀甲亜鉛引 φ1.0mm編目40mm	〃	120	
アンカーピン		本		
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)	3.0	マット張付仕上10m ² 当たり0.3人
〃		〃	2.0	金網張付仕上10m ² 当たり0.2人

(3) 鋼製伏工(緑化安定盤)歩掛

(100m²当たり)

名称	規格	単位	数量	摘要
緑化安定盤	エキスパンドメタルXS-82	(kg)	606.0	仕上り寸法 1.425×0.914m=1.30m ²
	914×1,829mm	枚	77.0	
クリップアンカー	φ13、L= mm	本	154.0	固定用
クリップアンカー	φ13、L= mm	〃	23.0	端部固定用
鉄線	焼なまし#10~20 L=0.2m	kg	6.2	連結用1枚当たり8本(0.08kg)
稻わら		〃	15.4	1枚当たり200g
吹付実播工		m ²	100.0	
山林砂防工 (普通作業員)		人 (〃)		
	内訳	〃	3.1	斜面整地
		〃	4.5	伏設、アンカーダー、埋わら仕上一切

備考 1 仕様はエキスパンドメタル(XS-82、SW-75、LW-203.2mm)を使用し、クリップアンカーはφ13mm、L=400、L=600、L=800、L=1,000mmのうちから選定する。

2 床掘(切取)及び小運搬(必要の場合のみ)は別途積算する。

3 吹付実播工を適用するが緑化むしろに変える場合は、緑化むしろ及び山林砂防工(普通作業員)0.10人/10m²を加算する。

4 斜面傾斜角45度以上+10%、35度未満-10%の労務歩掛を補正する。

(4) その他の伏工歩掛

歩掛は使用する資材に応じた積算によるものとする。

- 3-8 階段切付 (治山林道必携)
 3-9 階段間法面仕上げ歩掛 (〃)
 3-10 斜面整地歩掛 (〃)
 3-11 階段掘起步掛 (〃)
 3-12 溝切付歩掛 (〃)
 3-13 材料採取 (〃)
 3-14 山腹水路工 (〃)
 3-15 山腹水路工(練石、植生、張芝等)

(1) 土のう水路工歩掛

1) 土のう水路工

歩掛コード No.	3920
-----------	------

(10m当たり)

名 称	形 状 ・ 寸 法	数量	単位	備 考
土のう水路工	上幅1.6m 深さ0.3m 下幅0.4m	10.00	m	
土 の う	種肥付 60cm×40cm	153.33	枚	
止 杭	アンカーピン $\phi 19\text{mm}$ L=500m/m	73.33	本	
(肥 土)	腐植土	2.80	m ³	
(砂質土床堀)		4.20	〃	
山林砂防工 (普通作業員)		5.15	人 (〃)	
内訳	張付仕上げ 一式	1.15	〃	153.33袋×0.75人/100袋
	肥土採取	1.38	〃	2.76m ³ ×0.50人/m ³
	〃 袋詰	1.53	〃	153.33袋×1.00人/100袋
	砂質土床堀	1.09	〃	4.20m ³ ×0.26人/m ³

2) 土のう水路工(標準図(3))

歩掛けコード No.	3922
------------	------

(10m当たり)

名 称	形 状 ・ 寸 法	数量	単位	備 考
土のう水路工	上幅0.72m深さ0.21m下幅0.30m	10.00	m	
土 の う	60cm×40cm 種肥付	60.00	袋	出来上がり寸法 0.05×0.30×0.10m
止 杭	アンカーピン $\phi 13\text{mm}$ L=400m/m	60.00	本	
(肥 土)	腐植土	1.10	m ³	別紙標準図のとおり
(砂質土床堀)		2.00	m ³	〃
山林砂防工 (普通作業員)		2.10	人 (〃)	
内訳	張付仕上げ 一式	0.45	〃	60袋×0.75人/100袋
	肥土採取	0.54	〃	1.08m ³ ×0.50人/m ³
	〃 袋詰	0.60	〃	60袋×1.00人/100袋
	砂質土床堀	0.51	〃	1.95m ³ ×0.26人/m ³

3) 土のう水路工 (標準図 (4))

歩掛コード No.	3924
-----------	------

(10m当たり)

名 称	形 状 ・ 寸 法	数量	単位	備 考
土のう水路工受口	上幅1.0m 深さ0.35m 下幅0.3m	10.00	m	
土 の う	60cm×40cm 種肥付	86.67	袋	
止 杭	アンカーピン $\phi 13\text{m}/\text{m}$ L=400m/m	86.67	本	
(肥 土)	腐植土	1.60	m ³	別紙標準図のとおり
(砂質土床堀)		3.50	m ³	"
山 林 砂 防 工		3.20	人	
(普通作業員)			(〃)	
内訳	張付仕上げ 一式	0.65	"	86.67袋×0.75人/100袋
	肥土採取	0.78	"	1.56m ³ ×0.50人/m ³
	" 袋詰	0.87	"	86.67袋×1.00人/100袋
	礫質土床堀	0.90	"	3.47m ³ ×0.26人/m ³

4) 土のう水路受口

歩掛コード No.	3926
-----------	------

(1ヶ所当たり)

名 称	形 状 ・ 寸 法	数量	単位	備 考
土のう水路工受口	上幅1.02m 深さ0.21m 下幅0.60m	1.0	箇所	
土 の う	60cm×40cm 種肥付	15.00	枚	出来上がり寸法 0.50×0.30×0.10m
止 杭	アンカーピン $\phi 13\text{m}/\text{m}$ L=400m/m	15.00	本	
(肥 土)	腐植土	0.30	m ³	別紙標準図のとおり
(礫質土床堀)		0.50	m ³	"
山 林 砂 防 工		0.52	人	
(普通作業員)			(〃)	
内訳	張付仕上げ 一式	0.11	"	15袋×0.75人/100袋
	肥土採取	0.14	"	0.27m ³ ×0.50人/m ³
	" 袋詰	0.15	"	15袋×1.00人/100袋
	礫質土床堀	0.12	"	0.48m ³ ×0.26人/m ³

(2) 金網水路工歩掛

1) 金網水路工 (A) (弦長1.2m 深さ0.4m つば0.15m)

歩掛コードNo.	3928
----------	------

(10m当たり)

名 称	形 状 ・ 寸 法	数量	単位	備 考
金網水路工		10.00	m	
金 網	亀甲網目40m/m φ1.9m/m 幅×長1.86m×1.02	10.00	枚	5.20kg/枚
マ ツ ト	グリーンマット 種肥付 厚3m/m	18.60	m2	
止 杭	アンカーピン φ13m/m L=600m/m	60.00	本	0.64kg/本
(礫質土床堀)		3.56	m3	別紙標準図のとおり
山林砂防工 (普通作業員)		1.73	人 (〃)	
内訳 {	組立張付仕上げ 一式	0.80	〃	
	礫質土床堀	0.93	〃	3.56m3×0.26人/m3

2) 金網水路工 (B) (弦長0.8m 深さ0.3m つば0.15m)

歩掛コードNo.	3930
----------	------

(10m当たり)

名 称	形 状 ・ 寸 法	数量	単位	備 考
金網水路工		10.00	m	
金 網	亀甲網目40m/m φ1.9m/m 幅×長1.40m×1.02	10.00	枚	4.33kg/枚
マ ツ ト	グリーンマット 種肥付 厚3m/m	14.00	m2	
止 杭	アンカーピン φ13m/m L=600m/m	60.00	本	0.64kg/本
(礫質土床堀)		1.83	m3	別紙標準図のとおり
山林砂防工 (普通作業員)		0.98	人 (〃)	
内訳 {	組立仕上げ 一式	0.50	〃	
	礫質土床堀	0.48	〃	1.83m3×0.26人/m3

3) 金網水路工 (C) (弦長0.5m 深さ0.2m つば0.1m)

歩掛コードNo.	3932
----------	------

(10m当たり)

名 称	形 状 ・ 寸 法	数量	単位	備 考
金網水路工		10.00	m	
金 網	亀甲網目40m/m φ1.9m/m 幅×長0.91m×1.02	10.00	枚	2.64kg/枚
マ ツ ト	グリーンマット 種肥付 厚3m/m	9.10	m2	
止 杭	アンカーピン φ13m/m L=400m/m	60.00	本	0.42kg/本
(砂質土床堀)		0.77	m3	別紙標準図のとおり
山林砂防工 (普通作業員)		0.60	人 (〃)	
内訳 {	組立仕上げ 一式	0.40	〃	
	砂質土床堀	0.20	〃	0.77m3×0.26人/m3

(3) 樹脂網水路工歩掛

1) 樹脂網水路工 (A) (弦長1.56m 深さ0.3m つば0.22m)

(10m当たり)

名 称	形 状 ・ 寸 法	数量	単位	備 考
樹脂網水路工	ポリエチレン製 目合34mm 幅2m 種子・肥料付 ヤシマット厚さ3mm	20.10	m2	0.88kg/m2
止 杭	アンカーピン φ13m/m L=600m/m	100.00	本	0.42kg/本
(礫質土床堀)		2.93	m2	別紙標準図のとおり
山林砂防工 (普通作業員)		1.36	人 (〃)	
内訳 {	組立仕上げ 一式	0.60	〃	
	礫質土床堀	0.76	〃	2.93m3×0.26人/m3

2) 樹脂網水路工 (B) (弦長0.85m 深さ0.2m つば0.12m)

(10m当たり)

名 称	形 状 ・ 寸 法	数量	単位	備 考
樹脂網水路工	ポリエチレン製 目合34mm 幅1.24m 種子・肥料付 ヤシマット厚さ3mm	12.50	m2	0.88kg/m2
止 杭	アンカーピン φ13m/m L=500m/m	100.00	本	0.56kg/本
(礫質土床堀)		1.01	m2	別紙標準図のとおり
山林砂防工 (普通作業員)		0.63	人 (〃)	
内訳 {	組立仕上げ 一式	0.40	〃	
	礫質土床堀	0.26	〃	1.01m3×0.26人/m3

(4) 植生袋水路工歩掛

歩掛コードNo.	3936
----------	------

(100枚当たり)

名 称	形 状 尺 法	単位	数 量	摘 要
植 生 袋	33×16×4cm	袋	100	
混 土		m3	0.23	
目 串	長15~30cm 径0.8~2.5cm	本	200	1枚につき2本使用
肥 料			必要量	
種 子			"	100枚につき0.2~0.50kg
ホ ッ チ キ ス 針	# 10	本	400	1袋4ヶ所止め
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		人 (")	0.53	配合、練混ぜ、袋詰
" (")		" (")	0.12	混土採取
" (")		" (")	0.47	張付、仕上

備考 床掘(切取)、材料採取運搬は別途計上とする。

(5) 鋼製水路工(緑化水路盤)歩掛

(100m当たり)

名 称	規 格	単位	数 量	摘 要
緑 化 水 路 盤	エキスパンドメタル XS-82 914×914mm	(kg 枚)	433.2 109.4	A型、弦長0.5m、深さ0.2m、孤長0.714m $0.914 \times 0.914m = 0.84m^2$
クリップアンカー	φ 13mm、L= mm	本	547.0	固定用
鉄 線	焼なまし#10~12 L= 0.2m	kg	2.7	連結用 1枚当たり3ヶ所
緑 化 む し ろ		m2	91.9	$0.84m^2 \times 109.4 \text{枚} = 91.9m^2 / 100m$
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		人 (")	5.0	張付、アンカーハリ打、仕上一切
計				$71.4m^2 / 100m$
緑 化 水 路 盤	エキスパンドメタル XS-82 914×1,829mm	(kg 枚)	861.0 109.4	B型、弦長1.20m、深さ0.384m、孤長1.529m $0.914 \times 1.829m = 1.67m^2$
クリップアンカー	φ 13mm、L= mm	本	656.0	固定用
鉄 線	焼なまし#10~12 L= 0.2m	kg	3.6	連結用 1枚当たり4ヶ所
緑 化 む し ろ		m2	182.7	$1.67m^2 \times 109.4 \text{枚} = 182.7m^2 / 100m$
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		人 (")	8.0	張付、アンカーハリ打、仕上一切
計				$152.9m^2 / 100m$

備考 1 仕様はエキスパンドメタル(XS-82、SW-75、LW-203.2)を使用し、クリップアンカーカーは、φ 13mmでL=400、L=600、L=800、L=1,000mmのうちから選定する。

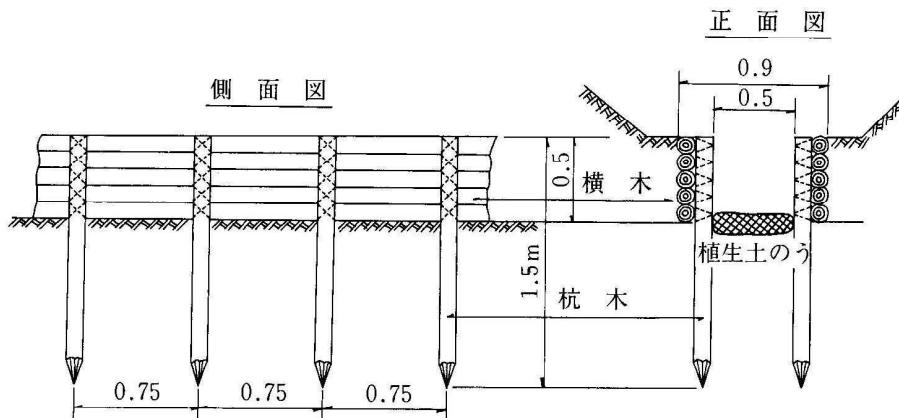
- 2 床掘（切取）及び小運搬（必要の場合のみ）は別途積算する。
- 3 緑化むしろは、緑化サンドマット類又は、吹付実播工に変えててもよい。この場合は、材料及び山林砂防工（普通作業員）0.10人／10m²を差引き、吹付実播工を適用する。
- 4 斜面傾斜角45度以上+10%、35度未満-10%の労務歩掛を補正する。

(6) 丸太柵水路工

(10m当たり)

名 称	形 状 尺 法	単位	数 量	摘 要
杭 木	長さ1.5m 未口径8~14cm	本	26.7	材積 $26.7 \times 0.018 = 0.481\text{m}^3$
横 木	〃 3.0m 〃 "	〃	33.3	材積 $33.3 \times 0.036 = 1.199\text{m}^3$
植 生 土 の う	仕上寸法 0.5×0.3×0.1m	枚	33.3	
中 詰 土		m ³	0.60	
止 串	ぼう芽樹種 長さ20cm径2cm	本	143.0	
鉄 線	なまし #10	kg	12.6	1箇所当たり1.5m使用
山 林 砂 防 工 (普通作業員)		人 (〃)	3.35	
内 訳		〃	1.60	杭打0.06人／本
内 訳		〃	0.80	組立、緊結仕上げ
内 訳		〃	0.33	袋詰め込み1.00人／100袋
内 訳		〃	0.25	張付仕上げ0.75人／100袋
内 訳		〃	0.30	中詰土採取0.5人／m ³
内 訳		〃	0.07	止串採取0.5人／1,000本

備考 床掘（切取）、材料運搬は必要により別途積算する。



3-16 土のう積立歩掛

歩掛コードNo.	4810	4812	4814	4816	4818
----------	------	------	------	------	------

(1m²当たり)

種 別	単位	積 上 げ 法 勾 配					摘要
		4分	5分	6分	7分	1割	
土 の う 袋	袋	18.2	17.5	16.8	16.1	13.9	
詰 土 採 取	人(〃)	0.23	0.22	0.21	0.20	0.17	
袋 詰	〃	0.18	0.18	0.17	0.16	0.14	
積上仕上一式	〃	0.14	0.13	0.13	0.12	0.10	
山林砂防工(普通作業員)	〃	0.55	0.53	0.51	0.48	0.41	

備考 1 土のう1袋当たり、詰土量0.025m³、重量38~43kgとする。

2 回排水締切工には本表の歩掛は適用しない。

3 止杭(鋼棒)は、材料費を別途加算する。

3-17 コンクリート土のう積歩掛

(10m²当たり)

種 別	規 格	単位	法勾配0.4	法勾配0.5	摘要
土 の う	700×480mm	袋	221.0	213.0	
コ ン ク リ ー ト		m ³	4.0	3.8	
異 形 鋼 棒	D 13×L 500mm	kg	36.0	35.0	
排 水 管	VP-500mm	m	1.5	1.5	
山林砂防工(普通作業員)	袋 詰	人(〃)	2.2	2.1	
〃	積上仕上一式	〃	1.7	1.6	

備考 1 土のう1袋当たり、コンクリート詰量は0.018m³、重量43kgとする。

2 回排水締切工には本表の歩掛は適用しない。

第4 地すべり防止工

4-1 小口径ボーリング

(1) 適用範囲	(治山林道必携)
(2) 使用機械	(〃)
(3) 編成人員	(〃)
(4) 運転時間	(〃)
(5) 1日当たり作業量	(〃)
(6) サイクルタイム	(〃)
(7) 作業係数	(〃)
(8) 消耗品損耗量	(〃)
(9) 小口径ボーリング単価表	(〃)

参考

ケーシングチューブの寸法

小口径ボーリングにおける「ケーシングチューブの寸法」について

ケーシングチューブの寸法は次表による。

呼び径	43	53	63	73	83	97	112	127	142
内径(mm)	37	47	57	67	77	90	105	118	133
肉厚(mm)			3.0			3.5		4.5	

(10) 機械運転経費	(治山林道必携)
(11) 保孔管設置	(〃)
(12) 機械据付、足場組立撤去歩掛	(〃)

4-2 中口径ボーリング

(1) 適用範囲	(治山林道必携)
(2) 使用機械	(〃)
(3) 編成人員	(〃)
(4) 運転時間	(〃)
(5) 1日当たり作業量	(〃)
(6) サイクルタイム	(〃)
(7) 作業係数	(〃)
(8) 消耗品損耗量	(〃)

(9) 中口径ボーリング単価表

(1m当たり)

名 称	規 格	単位	数 量	摘要
コアチューブ	シングル $\varnothing=1.5\text{m}$ 各径	本		
メタルクラウン	各 径	個		
ベントナイト	25kg入袋詰	袋		
セメント	40kg入袋詰	〃		
ダイヤモンドビット	(サーフェイスセット) 各径	m		
ボーリングロッド	$\varnothing=3\text{m}$ 各径	本		
ダイヤモンドドリーマー	各径	m		
ダブルコアチューブ	$\varnothing=1.5\text{m}$ 各径	本		必要に応じて計上
コアリフタリング	各径	個		〃
ケーシング	$\varnothing=1.5\text{m}$ 各径	本		〃
ドライブパイプ	〃 各径	〃		
ホーリングマシン機械損料(運転)	油圧式 11KW級	台	1/L	L=日掘進長
クラウトポンプ機械損料(運転)	横型 2連複動ピストン式 37~100/min	〃	1/L	
サンドポンプ機械損料	口径 $\varnothing 80\text{mm}$ 揚程 15m	〃	1/L	必要に応じて計上
小型渦巻ポンプ機械経費 (運転)	可搬・自吸・エンジン駆 動型 口径 $\varnothing 80\text{mm}$	〃	1/L	〃
発動発電機機械経費	45KVA	〃	1/L	〃
送風機機械損料	軸流式 50/60 m³/min	〃	1/L	坑内作業に計上
電力料		KWh		商用電源使用の場合
世話役		人	1.0/L	
特殊作業員		〃	1.0/L	
山林砂防工(普通作業員)		〃	1.0/L	
計				

備考 1 発動発電機は賃料とする。

2 地上作業の場合の機械経費は、(運転)を適用する。

3 中口径ボーリング単価表の坑内作業におけるロッド等の規格は、1.0mものに変えて積算すること。

(10) 機械運転経費 (治山林道必携)

(11) 保孔管設置 (〃)

(12) 機械据付、足場組立撤去歩掛 (〃)

4-3 大口径ボーリング

- (1) 適用範囲 (治山林道必携)
(2) 施工概要 (〃)
(3) 機種の選定 (〃)
(4) 編成人員 (〃)
(5) 施工歩掛 (〃)
(6) 杭1本当たりモルタル及びコンクリート使用量

1) 土かぶり埋戻し量

大口径ボーリングにおける「土かぶり埋戻し」については、次のとおりとする。

ア 土かぶり埋戻し量

$$Q = \pi / 4 D^2 \cdot L \cdot K \quad (\text{m}^3/\text{本})$$

D : 設計杭径 (m)

L : 土かぶり深 (m)

K : 埋戻し量割増係数

埋戻し量の割増係数 (K)

(鋼管の場合)

設計杭径 (mm)	190~250	251~425	426~510
K	1.6	1.5	1.2

イ 土かぶり埋戻し投入歩掛 1 m³当たり 0.23人

- (7) やぐらの設置・撤去 (治山林道必携)
(8) ビット等損耗費 (〃)
(9) 諸雑費 (〃)
(10) 泥水(ベントナイト)の処理費 (〃)

4-4 集水井工

4-4-1 集水井工 (ライナープレート土留工法)

- | | | |
|-------------------|-------|----------|
| (1) 適用範囲 | | (治山林道必携) |
| (2) 施工概要 | | (〃) |
| (3) 工法の選定 | | (〃) |
| (4) 機種の選定 | | (〃) |
| (5) 編成人員 | | (〃) |
| (6) 施工歩掛 | | (〃) |
| (7) コンクリート工 | | (〃) |
| (8) 井戸蓋工 | | (〃) |
| (9) 昇降用設備設置工 | | (〃) |
| (10) 掘削作業設備の組立・解体 | | (〃) |
| (11) 内訳書及び単価表 | | (〃) |

(12) 標識板設置

集水井に設置する標識板 1 枚当たり歩掛は次表とする。

標識板設置歩掛

歩掛コード No.	4886	(1枚当たり)	
名 称	規 格	単位	数 量
山林砂防工(普通作業員)	真ちゅう製 40×36×0.3cm	人	0.1

4-4-2 集水井工 (プレキャスト土留工法) (治山林道必携)

- 4-5 アンカー工 (〃)
- 4-6 集排水ボーリング孔洗浄工 (〃)
- 4-7 ボーリング工 (ロータリーパーカッション式) (〃)
- 4-8 アンカー工 (ロータリーパーカッション式) (〃)
- 4-9 (参考歩掛) ダウンザホールハンマ工 (〃)

4-10 排土工

排土工に係る掘削・積込みにあたっては、原則として「第1編共通工 第1土工」を適用するものとする。

4-11 押え盛土工

押え盛土工に係る盛土にあたっては、原則として「第1編共通工 第1土工」を適用するものとする。

第5 森林整備

5-1 森林整備

5-1-1 植栽 (A)

(1) 植穴掘付け + 植付歩掛

歩掛コード No.	階段上	4890	4891
	階段間斜面	4892	4893

(100 本当たり)

区分	山林砂防工(普通作業員)(人)		
	砂、砂質土・粘性土	礫質土・岩塊・玉石	
主林木	階段上に植栽する場合	0.99	1.19
	階段間斜面に植栽する場合	1.21	1.41

備考 1 肥料木の植栽は、新植・補植を問わず植穴掘付け、植付の一連作業として
0.33人/100本を標準として別途計上する。

2 主林木の補植については、1.20人/100本とすることができる。

(2) 植付歩掛

1) 植付歩掛

(100 本当たり)

名 称	形 状 寸 法	単位	数 量	摘 要
山林砂防工 (普通作業員)	階段上に植栽する場合	人	0.33	普通の山行苗の場合である。
	階段間斜面に植栽する場合	〃	0.44	

備考 1 特殊荒廃地における肥料木の植栽は、階段上に植栽する場合の歩掛に、植付歩掛
〔5-1-1 (2)〕植穴掘付歩掛の1/2 を加えることができる。

2 施肥、客土等を必要とする場合は、別途計上する。

5-1-2 植栽 (B) (治山林道必携)

5-1-3 植栽 (C)

(1) 移植歩掛

(10 本当たり)

区分	規格		掘取手間 山林砂防工 (普通作業員)	備考
	高さ	幹周		
株立	30 cm		0.34人	
	50		0.43	
	80		0.59	
	100		0.72	
	150		1.20	
	200		1.86	
1本立	1.20m以上	10 cm	1.32	
	"	12	1.78	
	"	15	2.37	
	"	18	2.95	
	"	20	3.65	
	"	25	5.17	
	"	30	7.23	
	"	35	9.78	
	"	45	15.77	
	"	60	28.32	
	"	75	45.29	
	"	90	68.88	

備考 1 床堀、掘上げ、養生、根巻、埋戻、掘取り手伝い等を含む。ただし、100m以上の

小運搬は含まない。2 本表は、根鉢付樹木の標準歩掛であるから、ふるい根の場合は、別途積算できるものとする。3 掘取後の残土は、埋戻として含むが不足土植穴埋戻は、必要に応じて別途計上すること。4 根巻必要としない場合は、40%減とする。5 幹巻をする場合は、10%増とする。6 標準寸法の範囲は、直近下位を適用する。7 株立樹木は、各幹周の総和の7割を幹周として算定すること。8 現場の作業状態の難易により2割以内の増減をすることができる。

5-1-4 地捨え等 (治山林道必携)

5-1-5 客土歩掛 ("")

5-1-6 仮植歩掛 ("")

5-1-7 施肥

(1) 施肥(追肥等)歩掛

名称	種別	摘要
化成肥料	100本につき 軟かい地盤0.12人～硬い地盤0.18人	径深共10cmの穴に埋め込む。施肥仕上げ
堆肥	100本につき0.12人	施肥仕上げ、穴掘起しへ別
化成肥料	ha当たり150kgにつき1.0～1.5人	緩・急斜地共、全面撒布の歩掛である

5-1-8 苗木運搬歩掛 (治山林道必携)

5-1-9 下刈歩掛(全刈り(1回刈り)) (〃)

5-1-10 除伐 (〃)

5-1-11

(参考歩掛) 本数調整伐歩掛 (治山林道必携)

設計上の留意事項

1 事業区域の設定

1 林小班を分割し又は、一部を実行する場合は、原則として実測により面積を確定しなければならないが、分割線が沢、峰等で明瞭であり、かつ更新関係等において特に支障がない場合は、実測によらず、区域を図示した基本図の裏用によることができる。

2 標準地の箇所数

標準地は、林小班(記番)毎の対象面積により下表を標準とする。ただし、類似する条件の下で作業仕様が同一である林小班(記番)については、一括した標準地として差し支えない。

また、類似林分の標準地調査結果を裏用することとする。

林小班(記番)別面積	箇所数
5 ha 未満	2 以上
1.5 ha 〃	3 〃
3.0 ha 〃	4 〃
3.0 ha 以上	5 〃

注 1 標準地は、予定地内を十分に踏査し、地形や植生の状態、作業の難易等を考慮して標準的な箇所に配置する

注 2 標準地の大きさは、20m×20m(水平距離)とする。

3 立木の本数調整率の決定

調整率は区域の立木本数、樹種を考慮して決定すること。

4 時間観測による調査

現地の状況又は作業仕様等が異なり標準功程表が適用できない場合は、時間観測により調査を行うものとする。

5-1-12 追肥歩掛

単位	作業内容	普通作業員	摘要要			歩掛コードNo.
1,000m ² 当たり	ばら播（手作業）	0.07人	新山特3号	50kg／1,000m ²		4906
〃	〃	0.12	〃	90	〃	4907
〃	〃	0.16	〃	120	〃	4908

5-1-13 つる切り歩掛

(1) 適用範囲

本歩掛は、山腹工事施工地及びなだれ防止林造成施工地に適用する。

(2) つる切り歩掛

単位	作業内容	普通作業員	摘要要	歩掛コードNo.
1ha当たり	つる切り、からみ付取除き	3.0人		4909

備考 1 面積は実面積を対象とする。

5-1-14 寒伏せ・寒起し

(1ha当たり)

区分	傾斜度	0～15度	16～30度	31度～
寒伏せ		8.8人	8.8人	8.8人
寒起し		3.8	4.5	5.2

備考 1 職種は普通作業員を適用する。

5-1-15 枝落し

(100本当たり)

枝落高 平均胸直径	2m	3m	2m以下の枝落し済			
			4m	5m	6m	7m
6cm	0.62人	0.79人				
8	0.85	1.09	1.32人			
10	1.00	1.28	1.64	1.92人		
12	1.15	1.47	1.79	2.08	2.38人	
14	1.49	1.89	2.33	2.70	3.13	3.45人
16	1.67	2.13	2.63	3.13	3.57	4.00
18	1.85	2.38	3.03	3.57	4.00	4.55
20	2.13	2.70	3.33	4.00	4.55	5.26
22	2.50	3.22	4.00	4.76	5.26	5.88

備考 1 職種は普通作業員を適用する。

5-1-16 天然下種更新

(1) かき起し

(1ha当たり)

区分	状態	易 (15° 未満)	中 (15° ~ 29°)	難
かき起し		8人	10人	12人

備考 1 一般には、レーキ状のもので地床を1~3m間隔に、幅0.3~0.5mの条状に表土が点々とまだらに見える程度かき起こす。

2 職種は普通作業員を適用する。

5-1-17 作業道

(1) 新設

切取平均断面積（巾員は1.0m以内）により、1.0m当たり歩掛を決定する。

人力切取

(m³当たり)

砂及び砂質土	粘性土	礫質土	岩塊・玉石	軟岩土
0.15人	0.15人	0.20人	0.40人	0.40人

(2) 改良及び補修

現地の実態に応じて1人当たりの延長を決定すること。

5-2 支柱工 (治山林道必携)

5-3 管理歩道作設工 (〃)

5-4 (参考歩掛) なだれ予防柵設置工 (〃)

第6 海岸林造成

- | | | | |
|-----|----------------|-------|----------|
| 6-1 | (参考歩掛) 生育基盤盛土工 | | (治山林道必携) |
| 6-2 | 海岸植栽 | | (") |
| 6-3 | コンクリート根固ブロック工 | | (") |

参 考 资 料

1 緑化等の播種量の算定

種子吹付工などの播種量の算定については、次を標準として算定することとする。

ただし、本表は標準的な数値を示したものであるので、地域のより発芽率の基礎データが得られるものは、この限りではない。

(1) 算定式（技術基準P-324）

$$W = \frac{G}{S \cdot P \cdot B}$$

W : 使用種子ごとの播種重量 (g / m²)
 P : 使用種子の純度 (%)
 G : 発生期待本数 (本 / m²)
 B : 使用種子の発芽率 (%)
 S : 使用種子の単位粒数 (粒 / g)

(2) 草木本種子の発芽率、粒数等及び1,000本当たりの播種量（技術基準P-326～328） 表－1

草木本名	外 来 種			在 来 種					
	純度 (%)	発芽率 (%)	単位粒数 (粒/g)	1,000本当たり播種量 (g)	草木本名	純度 (%)	発芽率 (%)	平均粒数 (粒/g)	1,000本当たり播種量 (g)
パミューダグラス	97	85	3, 530	0. 344	ヨモギ	*80	65	4, 100	0. 469
ケンタッキーブルーグラス	85	80	3, 850		カヤ(スキ)	*50	45	8, 700	0. 510
クリーピングレッドフェスク	96	80	1, 130	1. 152	イタドリ	*90	40	540	5. 144
チューイングフェスク	96	80	1, 130	1. 152	ヤマハギ	*60	65	155	16. 543
オーチャードグラス	85	80	1, 180	1. 246	メドハギ	*98	70	650	2. 243
イタリアンライグラス	98	90	490	2. 314	ヒメヤシャブシ	*80	35	1, 050	3. 401
ペレニアルライグラス	98	90	500	2. 268	オオバヤシャブシ	*98	40	750	3. 401
レッドトップ	90	80	11, 000	0. 126	ハンノキ	*80	40	725	4. 310
サンドラブグラス	70	65	3, 500	0. 628	ヤマハンノキ	*80	50	1, 300	1. 923
チモシー	99	85	2, 710	0. 439	タニウツギ	*70	55	4, 250	0. 611
リードキャナリーグラス	96	60	1, 200	1. 447	アカマツ	*97	45	110	20. 827
ホワイトクローバ	96	90	1, 500	0. 772	クロマツ	*98	35	90	32. 394
ラジノクローバ	96	90	1, 800	0. 643					
トルフェスク	97	85	440	2. 756					
エニシダ	*70	55	95	27. 341					

(算出例) クリーピングレッドフェスクの場合 1,000 / (1,130 * 0.96 * 0.80) = 1.152g

*印の数値は、過去の実態調査によるものである。

(3) 気候条件による地域区分

表－2

気候区分	気 候 細 分			土質区分
気温条件	降水条件	乾湿条件	細 分 基 準	
寒 冷	寡 雨 または 寡 雪	乾 燥	年降水量 1,500mm未満の地域または 最大積雪深 100cm未満で凍上の多い 地域	砂質土
	多 雨 または 多 雪		年降水量 1,500mm以上 の地域または 最大積雪深 100cm以上で凍上の少ない 地域	粘性土
		湿 潤		砂質土
				粘性土

(4) 気候、土質条件別標準播種量 (1m²当たり、補正なし)1) 砂質土の場合 (発生期待本数 2,000本/m²)

表-3

気 候 区 分	気 候 条 件	草 本 類 のみ				草 木 本 混 播			
		品 種	播種 量(g)	発生期 待本数	備 考	品 種	播種 量(g)	発生期 待本数	備 考
寒 冷	寡 雨 ・ 乾 燥	トールフェスク	1.87	680		トールフェスク	0.91	330	
		クリーピングレッドフェスク	0.38	330	またはオーチャー ドグラス0.41	レッドトップ	0.04	330	またはホワイトク ローバ0.25
		レッドトップ	0.04	330	またはホワイトク ローバ0.25	クリーピングレッドフェスク	0.38	330	またはオーチャー ドグラス0.41
		ヨモギ	0.15	330		ヨモギ	0.15	330	
		メドハギ	0.74	330	またはカヤ(スス キ)1.69				
						ヤマハギ	5.62	340	
						ヒメヤシャブシ	1.16	340	またはヤマハンノ キ0.65
		計	3.18	2,000		計	8.26	2,000	
寒 冷	多 雨 ・ 湿 潤	トールフェスク	1.87	680		トールフェスク	0.91	330	
		クリーピングレッドフェスク	0.38	330	またはチモシー 0.14	レッドトップ	0.04	330	またはホワイトク ローバ0.25
		レッドトップ	0.04	330	またはホワイトク ローバ0.25	クリーピングレッドフェスク	0.38	330	またはチモシー 0.14
		ヨモギ	0.15	330		ヨモギ	0.15	330	
		イタドリ	1.70	330	またはメドハギ 0.74				
						ヤマハンノキ	0.65	340	
						ヤマハギ	5.62	340	
		計	4.14	2,000		計	7.75	2,000	

(算出例) トールフェスクの場合

表-1より1,000本当たり播種量=2.756g

表-3より1m²当たり発生期待本数=680本

$$\therefore 2.756 \times 680 / 1,000 = 1.874 \approx 1.87 \text{g}$$

2) 粘性土の場合 (発生期待本数2,000本/m²)

表-4

気候区分	気候条件	草本類のみ				草木本混播			
		品種	播種量(g)	発生期待本数	備考	品種	播種量(g)	発生期待本数	備考
寒 冷	寡 雨	トールフェスク	1.87	680		トールフェスク	0.91	330	
		クリーピングレッドフェスク	0.38	330	またはチモシー 0.14	レッドトップ	0.04	330	またはホワイトク ローバ0.25
		レッドトップ	0.04	330	またはホワイトクロー バ0.25	イタリアンライグラス	0.76	330	またはチモシー 0.14
		ヨモギ	0.15	330		ヨモギ	0.15	330	
	乾 燥	メドハギ	0.74	330	またはカヤ(スキ) 1.69				
						ヤマハギ	5.62	340	
						ヒメヤシャブシ	1.16	340	またはヤマハンノ キ0.65
		計	3.18	2,000		計	8.64	2,000	
寒 冷	多 雨	トールフェスク	1.87	680		トールフェスク	0.91	330	
		オーチャードグラス	0.41	330	またはケンタッキーブ ルーグラス0.13	レッドトップ	0.04	330	またはホワイトク ローバ0.25
		ホワイトクローバ	0.25	330	またはレッドトップ 0.04	イタリアンライグラス	0.76	330	またはチモシー 0.14
		ヨモギ	0.15	330		ヨモギ	0.15	330	
	湿 潤	イタドリ	1.70	330	またはメドハギ 0.74				
						ヤマハンノキ	0.65	340	またはヒメヤシャ ブシ1.16
						ヤマハギ	5.62	340	
		計	4.38	2,000		計	8.13	2,000	

(算出例) クリーピングレッドフェスクの場合

表-1より1,000本当たり播種量=1.152g

表-4より1m²当たり発生期待本数=330本

$$\therefore 1.152 \times 330 / 1,000 = 0.380 \approx 0.38 \text{g}$$

(5) 補正（技術基準P-324～325）

1) 1次補正

面状、線状、点状、などの導入形態の違い（施工対象面積と播種部分面積との比率）によって、補正する。

$$1\text{ 次補正} = \frac{\text{播種部分面積 (m}^2)}{1\text{ m}^2}$$

表 - 5

形態	標準工程	補正值 (%)	備考
面状	吹付工、伏工、斜面混播工	100	
線状	筋工、筋実播工	100	
点状	点実播工	それぞれによる	1m ² 当たり植生袋6.25m(幅0.16m)使用の場合 未施工部分を含めて設計数量に計上する場合 は比率補正を行う

2) 2次補正

施工形態などによって補正する。

表 - 6

形態	標準工種	補正值 (%)
発芽のロスがあらかじめ見込まれる工法 〃	植生袋筋工 客土吹付工等(t=0~5cm)	+ 20~ 50
播種のムラがあらかじめ見込まれる工法	航空実播工	+ 10~ 30
播種部分面積比が極度に小さく、かつ、種子の散失や流亡が見込まれる工法	点実播工	+ 20~ 50
木本種子のみを播種する場合	実播工	- 30~ 70

3) 3次補正

特殊環境条件により補正する。

表 - 7

条件	補正值 (%)	条件	補正值 (%)
特に礫、岩塊などが多い箇所	+ 20	特に礫、岩塊などが少ない箇所	- 10
特に土壤硬度の高い箇所	+ 10		
特にやせ地	+ 20	特に肥沃地	- 30
乾燥地		湿潤地	- 20
特に乾燥地	+ 20		
特に湿潤地	+ 10		
特に強酸性地	+ 20		
特に急傾斜地	+ 20	特に緩傾斜地	- 10
不適期施工	+ 30		

4) 工種別補正係数（1次～3次）

表 - 8

①植生袋筋工	1.00*(1+0.50)*(1+0.50)=2.25
②種子吹付工、客土吹付工、植生基材吹付工(t=3cm)	1.00*(1+0.50)*(1+0.50)=2.25
③植生基材吹付工(t=5cm)	1.00*(1+0.50)*(1+0.50)=2.25
④航空実播工	1.00*(1+0.20)*(1+0.50)=1.80

5) その他

植生基材吹付工においては、一定の厚さの層を造成するが、この厚さに応じて発芽できないロスが生じるので、割り増すことが必要である。

(6) 工種別播種量 (標準)

1) 草本類のみ

①植生袋筋工 (100m当たり)

表-9

土質		砂 質 土			粘 性 土		
気候区分	気候条件	草本類のみ			草本類のみ		
		品種	播種量(kg)	備考	品種	播種量(kg)	備考
寒 冷	寡 雨 ・ 乾 燥	トールフェスク	0.067		トールフェスク	0.067	
		クリーピングレッドフェスク	0.014	またはオーチャードグラス0.015	クリーピングレッドフェスク	0.014	またはチモシー0.005
		レッドトップ	0.001	またはホワイトクローバー0.009	レッドトップ	0.001	またはホワイトクローバー0.009
		ヨモギ	0.005		ヨモギ	0.005	
	多 雨 ・ 湿 潤	メドハギ	0.027	またはカヤ(ススキ) 0.061	メドハギ	0.027	またはカヤ(ススキ) 0.061
		計	0.114		計	0.114	
寒 冷	多 雨 ・ 湿 潤	トールフェスク	0.067		トールフェスク	0.067	
		クリーピングレッドフェスク	0.014	またはチモシー0.005	オーチャードグラス	0.015	またはケンタッキーブルーフラス0.005
		レッドトップ	0.001	またはホワイトクローバー0.009	ホワイトクローバー	0.009	またはレッドトップ0.001
		ヨモギ	0.005		ヨモギ	0.005	
	多 雨 ・ 湿 潤	イタドリ	0.061	またはメドハギ 0.027	イタドリ	0.061	またはメドハギ 0.027
		計	0.148		計	0.157	

決定播種量 = 標準播種量 * 1次補正 * (1+2次補正) * (1±3次補正) (技術基準P-324)

(算出例) トールフェスクの場合

表-3より1m²当たり播種量=1.87g表-5より1m²当たり植生袋6.25m 使用の場合

表-8より 補正係数=2.25

$$\therefore 1.87 \times 2.25 / 6.25 \times 100 / 1,000 = 0.067 \text{kg}$$

②種子吹付工、客土吹付工、植生基材吹付工（3cm）（100m²当たり）表-10

土質		砂 質 土			粘 性 土		
気候区分	気候条件	草本類のみ			草本類のみ		
		品種	播種量 (kg)	備考	品種	播種量 (kg)	備考
寒冷	寡雨・乾燥	トールフェスク	0.421		トールフェスク	0.421	
		クリーピングレッドフェスク	0.086	またはオーチャードグラス0.092	クリーピングレッドフェスク	0.086	またはチモシー0.032
		レッドトップ	0.009	またはホワイトクローバー0.056	レッドトップ	0.009	またはホワイトクローバー0.056
		ヨモギ	0.034		ヨモギ	0.034	
		メドハギ	0.167	またはカヤ(ススキ)0.380	メドハギ	0.167	またはカヤ(ススキ)0.380
		計	0.717		計	0.717	
寒冷	多雨・湿潤	トールフェスク	0.421		トールフェスク	0.421	
		クリーピングレッドフェスク	0.086	またはチモシー0.032	オーチャードグラス	0.092	またはケンタッキープルーグラス0.029
		レッドトップ	0.009	またはホワイトクローバー0.056	ホワイトクローバー	0.056	またはレッドトップ0.009
		ヨモギ	0.034		ヨモギ	0.034	
		イタドリ	0.383	またはメドハギ0.167	イタドリ	0.383	またはメドハギ0.167
		計	0.915		計	0.986	

(算出例) クリーピングレッドフェスクの場合

表-3より 1m²当たり播種量 = 0.38g

表-8より 補正係数 = 2.25

$$\therefore 0.38 \times 2.25 \times 100 / 1,000 = 0.086 \text{kg}$$

③植生基材吹付工(t=5cm)

(100m²当たり)

表-11

土 質		砂 質 土			粘 性 土		
気 気 候 区 分	候 条件	草 本 類 の み			草 本 類 の み		
		品 種	播種量 (kg)	備 考	品 種	播種量 (kg)	備 考
寒 冷	寡 雨 ・ 乾 燥	トールフェスク	0.701		トールフェスク	0.701	
		クリーピングレッドフェスク	0.143	またはオーチャードグラス0.154	クリーピングレッドフェスク	0.143	またはチモシー0.053
		レッドトップ	0.015	またはホワイトクローバー0.094	レッドトップ	0.015	またはホワイトクローバー0.094
		ヨモギ	0.056		ヨモギ	0.056	
		メドハギ	0.278	またはカヤ(ススキ)0.634	メドハギ	0.278	またはカヤ(ススキ)0.634
		計	1.193		計	1.193	
寒 冷	多 雨 ・ 湿 潤	トールフェスク	0.701		トールフェスク	0.701	
		クリーピングレッドフェスク	0.143	またはチモシー0.053	オーチャードグラス	0.154	またはケンタッキープルーグラス0.049
		レッドトップ	0.015	またはホワイトクローバー0.094	ホワイトクローバー	0.094	またはレッドトップ0.015
		ヨモギ	0.056		ヨモギ	0.056	
		イタドリ	0.638	またはメドハギ0.278	イタドリ	0.638	またはメドハギ0.278
		計	1.553		計	1.643	

(算出例) レッドトップの場合

表-3より1m²当たり播種量=0.04g

表-8より補正係数=2.25

(5) 5) その他より5cm/3cm=1.667の補正を乗じる

$$\therefore 0.04 * 2.25 * 1.667 * 100 / 1,000 = 0.015 \text{kg}$$

2) 草木本混播

①植生袋筋工

(100m当たり)

表-12

土質		砂 質 土			粘 性 土		
気候区分	品種	草木本混播		草木本混播			
		播種量 (kg)	備考	品種	播種量 (kg)	備考	
寒 冷	トールフェスク	0.033		トールフェスク	0.033		
	レッドトップ	0.001	またはホワイトクローバ 0.009	レッドトップ	0.001	またはホワイトクローバ 0.009	
	クリーピングレッドフェスク	0.014	またはオーチャードグラス 0.015	イタリアンライグラス	0.027	またはチモシー 0.005	
	ヨモギ	0.005		ヨモギ	0.005		
	ヤマハギ	0.202		ヤマハギ	0.202		
	ヒメヤシャブシ	0.042	またはヤマハンノキ 0.023	ヒメヤシャブシ	0.042	またはヤマハンノキ 0.023	
	計	0.297		計	0.310		
寒 冷	トールフェスク	0.033		トールフェスク	0.033		
	レッドトップ	0.001	またはホワイトクローバ 0.009	レッドトップ	0.001	またはホワイトクローバ 0.009	
	クリーピングレッドフェスク	0.014	またはチモシー 0.005	イタリアンライグラス	0.027	またはチモシー 0.005	
	ヨモギ	0.005		ヨモギ	0.005		
	ヤマハンノキ	0.023		ヤマハンノキ	0.023	またはヒメヤシャブシ 0.042	
	ヤマハギ	0.202		ヤマハギ	0.202		
	計	0.278		計	0.291		

(算出例) ヨモギの場合

表-3より 1 m²当たり播種量 = 0.14g表-5より 1 m²当たり植生袋6.25m 使用の場合

表-8より 補正係数 = 2.25

$$\therefore 0.14 \times 2.25 / 6.25 \times 100 / 1,000 = 0.005 \text{kg}$$

②種子吹付工、客土吹付工、植生基材吹付工(t=3cm) (100m²当たり) 表-13

土質		砂 質 土			粘 性 土		
気候区分	品種	草木本混播		草木本混播			
		播種量(kg)	備考	品種	播種量(kg)	備考	
寒 冷	トールフェスク	0.205		トールフェスク	0.205		
	レッドトップ	0.009	またはホワイトクローバ 0.056	レッドトップ	0.009	またはホワイトクローバ 0.056	
	クリーピングレッドフェスク	0.086	またはオーチャードグラス 0.092	イタリアンライグラス	0.171	またはチモシー 0.032	
	ヨモギ	0.034		ヨモギ	0.034		
	ヤマハギ	1.265		ヤマハギ	1.265		
	ヒメヤシャブシ	0.261	またはヤマハンノキ 0.146	ヒメヤシャブシ	0.261	またはヤマハンノキ 0.146	
	計	1.860		計	1.945		
寒 冷	トールフェスク	0.205		トールフェスク	0.205		
	レッドトップ	0.009	またはホワイトクローバ 0.056	レッドトップ	0.009	またはホワイトクローバ 0.056	
	クリーピングレッドフェスク	0.086	またはチモシー 0.032	イタリアンライグラス	0.171	またはチモシー 0.032	
	ヨモギ	0.034		ヨモギ	0.034		
	ヤマハンノキ	0.146	またはヤマハギ 1.265	ヤマハンノキ	0.146	またはヒメヤシャブシ 0.261	
	ヤマハギ	1.265		ヤマハギ	1.265		
	計	1.745		計	1.830		

(算出例) ヤマハギの場合

表-3より 1m²当たり播種量 = 5.62g

表-8より 補正係数 = 2.25

$$\therefore 5.62 \times 2.25 \times 100 / 1,000 = 1.265 \text{kg}$$

③植生基材吹付工(t=5cm)

(100m²当たり)

表-14

土 質		砂 質 土			粘 性 土		
気 気 候 区 分	候 条件	草 木 本 混 播			草 木 本 混 播		
		品 種	播種量 (kg)	備 考	品 種	播種量 (kg)	備 考
寒 冷	寡 雨 ・ 乾 燥	トールフェスク	0.341		トールフェスク	0.341	
		レッドトップ	0.015	またはホワイトクローバ 0.094	レッドトップ	0.015	またはホワイトクローバ 0.094
		クリーピングレッドフェスク	0.143	またはオーチャードグラス 0.154	イタリアンライグラス	0.285	またはチモシー 0.053
		ヨモギ	0.056		ヨモギ	0.056	
		ヤマハギ	2.108		ヤマハギ	2.108	
		ヒメヤシャブシ	0.435	またはヤマハンノキ 0.244	ヒメヤシャブシ	0.435	またはヤマハンノキ 0.244
		計	3.098		計	3.240	
寒 冷	多 雨 ・ 湿 潤	トールフェスク	0.341		トールフェスク	0.341	
		レッドトップ	0.015	またはホワイトクローバ 0.094	レッドトップ	0.015	またはホワイトクローバ 0.094
		クリーピングレッドフェスク	0.143	またはチモシー 0.053	イタリアンライグラス	0.285	またはチモシー 0.053
		ヨモギ	0.056		ヨモギ	0.056	
		ヤマハンノキ	0.244		ヤマハンノキ	0.244	またはヒメヤシャブシ 0.435
		ヤマハギ	2.108		ヤマハギ	2.108	
		計	2.907		計	3.049	

(算出例) ヒメヤシャブシの場合

表-3より 1 m²当たり播種量 = 1.16g

表-8より 補正係数 = 2.25

(5) 5) その他より 5cm / 3cm = 1.667 の補正を乗じる

$$\therefore 1.16 * 2.25 * 1.667 * 100 / 1,000 = 0.435 \text{kg}$$

航空緑化工標準種子設計

(発生期待数5,000本／m²)

表-15

種子名	発生期待本数 (1m ² 当たり)G	純度P	発芽率 B	平均粒 数(1g当 たり)	1000本 当たり播種量A	一次 補正C	二次 補正D	三次 補正E	補正 係合計H	m ² 当 たり播種 重量 (補正 なし) (g/m ²)	m ² 当 たり播種 重量 (補正後) (g/m ³)	Ha当 たり播種 重量 (kg/ha)
トールフェスク	1,000	0.97	0.85	440	2.756	1.00	1.20	1.60	1.92	2.76	5.29	52.9
クリーピングレットフェスク	1,000	0.96	0.80	1,130	1.152	1.00	1.20	1.60	1.92	1.15	2.21	22.1
ケンタッキーブルーグラス	500	0.85	0.80	3,850	0.382	1.00	1.20	1.60	1.92	0.19	0.37	3.7
ヨモギ	500	0.73	0.65	4,100	0.514	1.00	1.20	1.60	1.92	0.26	0.49	4.9
ヤマハギ (皮取)	500	0.95	0.70	200	7.519	1.00	1.20	1.60	1.92	3.76	7.22	72.2
ヤシャブシ	500	0.92	0.45	770	3.137	1.00	1.20	1.60	1.92	1.57	3.01	30.1
メハギ	500	0.95	0.70	650	2.313	1.00	1.20	1.60	1.92	1.16	2.22	22.2
ヤマツノキ	500	0.54	0.50	1,250	2.963	1.00	1.20	1.60	1.92	1.48	2.84	28.4
計	5,000											236.5

1,000本当たりの播種量=1000/S*P*B

補正係数合計=一次補正*二次補正*三次補正

一次補正=播種部分面積/1m²

m²当たり播種量=発生期待本数*

1,000本当たり播種量/1000

二次補正=播種のムラがあらかじめ見込まれる工法(20%)

(補正なし)

m²当たり播種量=補正なし播種量*補正係数

三次補正=岩塊多い(20%)、やせ地(20%)、急傾斜地(20%)

(補正後)

※ 航空緑化工については、裸地化した荒廃地を植生により早急に被覆して、表面浸食を防止することを目的としているが、施工箇所は一般に高標高であり、植生の生育環境が風害、雪害といった気象害を受ける劣悪な環境下にある。よって、航空緑化にかかる植生の発生期待数は5,000本/m²を標準として取り扱うこととしたものである。

2 土石流の発生・到達のある現場での工事における安全対策について

このことについては、平成10年5月28日付け10-7 林野庁指導部計画課長・治山課長・業務部業務第一課長通達による外は下記に留意し実施する。

(1) 土石流危険河川

土石流危険河川とは次のいずれかに該当する河川とする。

- 1) 作業場所の上流側（支川も含む）の流域面積が20ha以上であって、上流側の200mにおける平均河床勾配が3度以上の河川。
- 2) 市町村が「土石流危険渓流」として公表している河川。
- 3) 都道府県又は市町村が「崩壊土砂流出危険地区」として公表している地区内の河川。

(2) 土石流対策費の設計積算の取扱い

- 1) 上記(1)の1から3)のいずれかに該当する場合は、降雨量の把握のための雨量計・避難のための警報機を指定仮設として定率共通仮設費の対象額で積上げ積算する。

[例 工事期間140日の場合]

No.	単価表					1式当たり
名 称	形状寸法	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
雨量計リース料	転倒マス型	119	日	円	円	
記録用紙	半年分	1	巻			
雨量計整備料		1	基			
警報機損料	60/50Hz	1	基			
適 用	140日×0.85=119日	記録用紙1巻6ヶ月分				

- 2) 雨量計は、リース積算するものとし、当初工事期間の85%の日数とする。なお、工事期間に大幅な変更がない限り変更しない。
- 3) 警戒雨量基準を越えて作業を続行する場合は、監視員（普通作業員1.0人/1箇所/日）を計上することができるることとし、最終設計変更により対応する。なお、警戒雨量基準は、大雨注意報基準とする。
- 4) 上記以外で、安全作業の安全を確保する為、必要と認められる対策工種については、別途積算するものとする。
- 5) 上記4)に係るものとして、土石流検知センサー、傾斜計、監視カメラの設置などがある。